

和仏法律学校講義録

和仁, 貞吉 / 梅, 謙次郎 / 志田, 鉀太郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-23, 24

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

133

(発行年 / Year)

1903-09-26

明治三十六年九月二十六日發行
（明治三十六年九月二十六日發行）

明治三十六年九月二十六日發行

三十六年度 第二學年ノ二十三、二十四

和佛法律學子校講義錄

號壹拾八百第

和佛法律學校



第二學年 第二十三、二十四號目次

民法債權 自第二章第二節 (自二一五) 至 同第十四節 (至二六〇)

法學博士 梅 謙次郎

商 法 會 社 (自八五) (完)

法學博士 志田 鐸太郎

表紙及目次 八頁

商 法 會 社 (自二〇〇)

法學士 和 仁 貞吉

雜 報

○商業帳簿ノ證據力○清算ト未拂出資ノ取立○荷爲替契約ニ於ケル手形ノ性質

稟 告

本講義論ハ其完結期ヲ越上ケタル結果會社發行スルモノ以テ月
謝金ハ其額ニテ納付スルヘシ後隨テ既ルコトヲ得ス仍テ和仁學士
ノ講義ヲ代フ之ニ代ルモノトシテ納付スルコトヲ願フ

新

090
193
2-23,24

メニ土地ヲ買フ所ガ其所有權ナリ又地上權ナリガ五年ヤ十年ノ後ニ消滅スル
ノデアルト役ニ立タズ所有權ガ消滅スレバ其建物ヲ壞サナケレバナラス、地上
權ガ消滅スレバ建物ヲ持テ立退カナケレバナラス、ソレデハ非常ニ不利益デア
ラ詰リ契約ノ目的ヲ達スルコトハ出來ヌ、サウ云フ場合ガアリマスカラソレデ
特別ノ規定ガアル、是ハ善意ノ買主シカ持テナイ所ノ權利、是ハサウアルベキコ
トデ、初カラ一部ガ他人ニ屬シテ居ルコトヲ知ラテ居ルナラバソレヲ追奪セラル
ルト云フコトハ豫期シナケレバナラス、ソレデ豫期シタ利益ヲ得ラレスカラト
云フテ、契約ヲ爲シタ目的ガ達セラレヌカラ解除スルト云フコトハ言ハレル譯デ
ナイ
此全部又ハ一部ノ解除ハ矢張り全部追奪ノトキニ申上グタ解除ト同ジ譯デ、時
トシテハ損害賠償ヲ請求スルコトガ出來ル、時トシテハ請求スルコトガ出來ヌ、
詰リ一般ノ原則ニ依ラテ損害賠償ノ取レルトキデナケレバ損害賠償ヲ請求スル
コトハ出來ヌ、唯其代金ノ一部ヲ返スト云フヤウナ場合ニハ之ニ利息ヲ附セテ
バナラヌト云フヤウナコトモ矢張り解除ノ一般ノ規定ニ依ル、第五百六十三條

民法債權 買賣 買賣ノ效力

090
1903
2-1-23, 24

土地ヲ買フ所其所有權ナリ又地上權ナリが五年十年ノ後消滅スル
ノガアルト役立キ其所有權ガ消滅スレバ其建物ヲ壊サナケレバナラス地上
權ガ消滅スレバ建物ヲ持テ立退カナケレバナラス消滅ハ非常ニ不利益デアラ
テ詰リ契約ノ目的ヲ達スルコトハ出来ヌオウ云フ場合ガアリマスカラシメテ
特別ノ規定ガアル是ハ善意ノ買主シカ持テナイ所ノ權利是ハオウアルベキニ
トテ初カラ一部ガ他人ニ屬シテ居ルコトヲ知テ居ルカラバソレヲ追奪セラレ
ルト云フコトハ豫期シナケレバナラスソレヲ豫期シテ利益ヲ得ラレヌカラト
云フ契約ヲ爲シタ目的ガ達セラレズカテ解除スルト云フコトハ言ハレル譯デ
ナイ謂フベキ事ニモ出テ是ハ善意ノ買主ニモ適用スルベキ事ニモ出テ是
此全部又ハ一部ノ解除ハ矢張り全部追奪ストキニ申上グテ解除同ジ譯デ時
トシテハ損害賠償ヲ請求スルコトガ出来ル時トシテハ請求スルコトガ出来ヌ
詰リ一般ノ原則ニ依テ損害賠償ノ取レルトキデナケレバ損害賠償ヲ請求スル
コトハ出来ヌ唯其代金ノ一部ヲ返スト云フヤウナ場合ハ之ニ利息ヲ附セテ
バナラズト云フヤウナコトモ矢張り解除ノ一般ノ規定ニ依ル第五百六十三條

民法債權 買賣 買賣ノ效力

ノ第三項ニ此意味ヲ明カニスル爲メ、謂ハ一、雖ハ賦課ニ對シテ、第六十三號代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主ハ擔當賠償ノ請求ヲ爲セ、モトモ、前ハ妨グス、取戻ニ對シテ、母書附録ノ罪ノハ、イテモセ、モ、母書附録ニ備來スルノ規定シテ居ル、妨グス、取戻云フノハ、他ノ原則ヲ出來ルコトヲ注意シ、出來ルコト云フコトヲ明カニスル爲メ、謂ハ、揭然テアル全部追奪ノ場合、如キ惡意ノ買主ハ賠償ヲ求ムルコトハ出來ス、善意ノ買主ダケハ賠償ヲ求ムルコトガ出來ル、一部追奪ノ場合ニ於ケル買主ハ擔保義務ノ短キ期間ノ經過ニ因テ消滅スルコトニナラズ居ル、其際、一部追奪ノ場合ニ於テ、各種ノ事實問題ガ、ア、ソレヲ調査シ、ナケレバ、即チ追奪セラレタル部分ヲ殘存シテ居ル部分ノ割合如何ト云フコトヲ先ヅ以テ決定シ、ナケレバ、即チ追奪セラルル土地其他數量ヲ以テ區分スルコトハ出來ルモノ、即チ土地ノ如キハ、何町步或ハ何千坪ト云ヒマスルト、一坪變則、反步幾ラハ割合ト云フ價ヲ見積ルコトガ出來マス、カラ、ソレヲ云フ時ニハ、格別面倒モナイヤウデアリ、前モ、チ、コト、申シ、タ、セ、ウ、ニ、土地ノ如キモノ、ゾ、モ、市街地ナドハ、表坪ト裏坪ヲ以テ價が違フ高低ノ別、土地、并、テ、所、ト、稱、ヤ、平、ハ、

ル部分ハ價が高價ノ崖、ヤウニナラズ居ル處、價ガズ、ト、廉、ク、デア、ル、ト、云、フ、ヤ、ウ、ナ、ヒ、ト、ガ、アル、其、割、合、ヲ、見、積、ル、ト、云、フ、コ、ト、ハ、餘、程、困、難、デ、アル、ソ、レ、カ、ラ、又、土地ノ建物トノ所有權ヲ合セテ賣渡スヤウナ場合ニ其中ノ土地又ハ建物ダケガ他人ノ所有デアルト云フヤウナ場合ハ、矢張り一部ノ追奪デアリマス、土地ノ價ト建物ノ價ト云フモノハ、餘程之ヲ評價スルノガ困難デアラウト思フ、其他種種割合ノ定メ難イ實例ハ、生ジテ來ルコトデアラウト思ヒマス、然ルニ賣買ノ當時ニ於テ、ソレ之ヲ評定スルニ、例ヘバ、全部一萬圓ト云フガ追奪セラレタ部分ガ例ヘバ、二千圓ニ相當シテ、殘リ居ル部分ガ八千圓ニ相當スル、イヤチウデナイ、三千圓ト七千圓トノ割合デアルト云フヤウナコトニ付テ、隨分ムズカシイ問題ガ生ジテ來ルデアラウト思フ、況ヤンレガ數年ヲ經、數十年ヲ經、タナラバ、殆ド分ク、ナク、ナ、ラ、テ、仕、舞、フ、建、物、ノ、如、キ、テ、段、段、形、狀、ガ、變、リ、テ、來、ル、土、地、ダ、モ、隨、分、形、狀、ガ、變、リ、得、ル、事、實、也、主、張、士、論、立、テ、テ、金、銀、等、ノ、買、取、價、格、ノ、變、化、ニ、對、シ、テ、價、格、ノ、變、化、ノ、シ、レ、カ、ラ、又、今、一、ツ、困、難、ヲ、ル、コ、ト、モ、若、シ、殘、存、シ、テ、居、ル、部、分、並、テ、買、主、ハ、買、ハ、ナ、カ、ラ、デ、ア、ラ、ウ、詰、リ、買、ラ、テ、モ、役、ニ、立、身、ス、ト、云、フ、ト、キ、則、チ、契、約、ヲ、全、部、ノ、解、除、

ヲ爲スコトガ出来ルト申シマシム。此事實ガ又随分證明シ難クモ、
 ト考ヘル契約當時ノモ餘程其證據ヲ集ムル云フ。斯レハ困難ニアラズト思
 ノニ、數年乃至數十年立テ利益ノ分リ悪クナラテ來ルデアラウト思フ、ソレガ爲メ
 非常ニムツカシイ訴訟ノ起ル處ガアリマス。カテ是ハ成ルベク早ク請求ヲナス
 方ガ宜シト、斯ク云フ精神ヲ極メテ短イ所ノ期間ヲ定メテア、即チ第五百六
 十四條ニハ其期間ヲ一年トシテア、
 第五百六十四條前條ニ定メタル權利ハ買主ハ善意ナリシトキハ事實ヲ知
 知ラカテ一年、サウシテ惡意ナラズ權利ノ一部ガ他人ニ屬シテ居ルト云フマ
 知ラカテ一年、サウシテ惡意ナラズ權利ノ一部ガ他人ニ屬シテ居ルト云フマ
 初カラ知ラテ居ルアデスカラ契約ノ時カラ一年モ打棄テ置クナラバモ、此請求權
 ヲ拋棄シタモノト見テ宜シト、法律ハ斯ク云フ者デア、尤モ此規定ハ是ハ時
 效ノ規定デハナイ、諸君ハ第一學年ニ於テ時效ノ講義ヲ御聽キニナラズアラ
 ト思ヒマスガ我民法商法等ニ於テハ時效ハ必ズ特ニ時效ト云フ居ル、或期間

經過ニ因テ權利ガ消滅スル場合デモ、時效ト云フ文字ヲ用ルナオ場合モ、
 律上ハ時效デナイ學者ノ通常唱ヘル。定期ト云フモノアリ、
 初ヨリ例ヘバ一年間ダケ行使スルモノト出来ル、
 消滅スルノデハナイ、初カラサウ云フコトニテ、
 フノガ豫定期間ノ性質此一部違奉ノ場合ノ期間モ矢張りソレデ、
 中断或ハ時效停止ナドノ規定ハ之ニ當嵌ルコトハ出来ナ、併ナガラ此規定
 ガ時效ニ關スル規定ヲ適用ヲ妨グルノデハナイ、是ト兩立スル範圍内ニ於テハ
 時效ノ規定モ嵌ル、即チ普通ノ時效ガ嵌ル、即チ財產權ノ普通時效ハ二十年、即チ
 此處デモ二十年ノ時效ニ因テ此權利ハ消滅スベキモノデア、
 一年デ消滅スル權利ガカラ、ソレガ二十年ノ時效ニ因テ消滅スルト云フコト
 ハ想像スルコトガ出来スト言ハ、
 稀ナコトデア、
 一年ト云フガ二十年間事實ヲ知ラナ、
 ルガデウ云フコトハアリ得ル、
 買買ノ效力

ト經令第五百六十四條ニ依リテ消滅シテ居ラザル時効モ因テ消滅スル無
 論極ク稀ナ場合デアリ物ヲ占有シテ居ルト取得時効ノ利益ヲ得ルト例トカ
 云フコトモアリマヌカラナク云フ事ハ滅多ニ見ナク併シ全クナイトハ言ヘ
 スズク契約後時經テカラ占有ヲ爲スコトモアル事アルト云フト取得時効ノ
 原則ハ二十年デスカラテウスルト取得時効ノ成就シテ集中ニ消滅時効ガ
 成就スルコトガアル事ウスルト追奪ヲ受ケル追奪ヲ受ケテ而シテ賣主ニ向テ最
 早擔保ノ責任ヲ負ハスコトハ出來ヌト斯ク云フニ尤モ尤モハ二十年間
 此事ハ疑ノ起リテウナコトダカラ書イテ置イテ宜サテウナコトヲアル例ハ
 第百二十六條ナドニモ短キ期間ヲ權利ノ消滅スル場合ガアル筈ニテハ以
 普通ノ時効期間ノ適用ガアル事ハ以テ書イテ置イテ第百二十六條ニ取消權ハ追奪
 ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効モ因テ消滅不行爲
 ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シト斯ク書イテアルゾレガ第百四十二
 十六條ニモ第百二十四條ノ取消權ノ債權者ガ取消ノ原因ヲ覺知シ時効時ヨ
 リ二年間之ヲ行ハサルトキ時効モ因テ消滅不行爲以時ヨリ二十年ヲ經過

シタル事亦同シト斯ク書イテアルゾレハ第七百二十四條ニモテハ是共不
 法行爲ノ場合不法行爲ニ因ル損害賠償ヲ請求權モ被害者又ハ其法定代理人ハ
 損害及追加害者ヲ知リタル時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効モ因テ消
 滅不行爲以時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シト云フ規定ハ第九百
 六十六條ニモテアル事ハ以テゼンシテ此處ニモテ云フ規定ヲ置カナイトハ善意
 ナルト事デモ契約ノ時ヨリ二十年ヲ經過スル事最モ其權利ヲ行使スルコトガ
 出來ナイト云フコトガ他ノ例ニ依リテ書イテアル事ナモノダガナセ書イテナ
 イカト云フ疑ガ起リテウデスガ本條ノ規定ハ時効ノ規定デナイ今マダ私ガ引
 イテ簡賅ニ皆時効ノ規定デスデスカラ一ツノ時効ノ規定ガアリ是ハ例外規定
 デアル普通時効ノ一般規定ハ依ラヌ事アラウト云フ疑ガ必ズ起ルゾレテナ
 シテハナオ矢張り普通時効モ依ルト云フ事トテ言フ必要ガアルカヲ以テ一斷
 ラアル此處ハ時効デナイカラ理論上テウ云フ疑ハ起ル事ハ管ガナイゾレカラ
 向テ附加ヘテ申シマヌ事外ノ場合ヨリモ此處ノ場合ハ尙更二十年ノ時効ハ適
 用ナント云フモノハ滅多ニナク例外場合ハ比較的頻繁デアラウト思フ例ヲ引

引タ三ツノ場合ナド然雖分三十年間權利が成立の懸厝ト云フイハ比較的
 頻繁デアラウト思フ取消權ノ時効ソレハ三通リノ所普通ニ取消權ト債權者
 取消權即チ廢絶訴權ソレカラ不法行為ノ場合ト損害賠償權ト云クヤウオモ
 ハ随分二十年間モ存続ス居ルモノトハ尤ウ珍シイモノトナカラウト思フ所ガ
 此處ノ場合ハ殆ド適用ノ才イニトゾ實際ナイト云フテ宜シイデアラカラ旁
 ウ云フ規定ヲ置ク必要ガナイト認メタノデアラハ此終リノハ附隨ノ理由デア
 マス一云ハ買主ノ義務ニモ入ル所本對シテ買主ノ義務ニモ入ル所トモ思
 以上ヲ以テ純然タル一部追奪ノ御話ヲ終リマシタカハ買主ノ義務ニモ
 次ニ數量不足及一部滅失ノ場合ニ於ケル擔保義務是レドウ云フ場合デア
 カト云フト土地ナドガ適用ノ多イ方デアラウト思ヒマスガ千坪アト云フ買
 主地所ガ後ヲ圖ベク見タラバ九百坪シカカト云フノガ數量不足ナシ
 又ハ此倉庫道入フス居ル米ヲ全部毀ラ毀ラテ買ノト云フ所ガ其米ハ十石ア
 ト云フクニ九石シカカト云フ所ガ其米ハ十石アト云フ所ガ其米ハ十石ア
 フノハ無論買賣契約が成立シテカラ後ニ滅失セヨト云フノゾホホ其場

合ハ別ニ擔保義務モ何ニモナイ契約前ニ既ニ滅失シタ居ルヲ知ラナイ買
 主場合此二ツノ場合ハ通常ニ擔保義務トシテ論ジラ居ルモノトモ思フ佛蘭
 西條約ノ國デハ大抵是レ擔保ノ問題トシテ居ラケレドモ數量不足ハ是レハ
 一ノ際ニモ理統ト云フ宜シイサカサカ土地ノ廣クサカ或ハ莫大ノ米沙ド
 一ト見タ所ガ分量ノ分ルモノゾナイハ割キ五分少クラモンレハ分ラスコトガ
 多イ故ニソレヲ知ラズニ買主ト云フソク買主ノ過失デアルハ必ズシモ言ハ
 ナイ先ヅ以テ賣主ガ嘘ヲ吐イタンガ惡イソレハ矢張り買主ノ爲メニハ照レタ
 ル理統デアアル現ニ調逸法ナドデムテ云フ云フ主觀ヲ採用シラ居ル理論上私私
 ソレガ正シイト思フ一部滅失ハ理論上ハ所稱擔保問題デムナイ從來言フ擔保
 義務トハ性質ガ違フケレドモ類似シタルモノデアラハ普通通稱ヲ所設ハ一部追奪ト
 云フモノトナドシテモソデアアル其中ニハ賣主ガ昔例ハ千坪ノ上ニ所有權ヲ持
 タ居ルヲソレヲ賣主ノ先代ガ一部分人ニ賣ルヲ居ル例ハ百坪ヲ賣ル人ニ賣ルヲ
 居ル其事ヲ相續人タル賣主ハ知ラナイテ賣ルテ失限ヲ千坪ヲ賣ル事云フコ
 トトアリ得ル其場合ニ於テハ所謂純然タル一部追奪ガナル百坪ガ付テ付テ

追奪ガアルケレドモ其場合ト所屬一筆滅失ノ場合トハ性質上殆ト同シキナラズ
 アル一方ハ權利ガ契約前ニ一筆消滅シテ居タ一ツノ物ソレ自身ガ一部滅失シ
 テ居タケレドモ買主ノ身ニテ考ヘテ見ルト同シコトデアル矢張り千坪ノ
 土地ヲ買ハウト思フテ九百坪ヲ買ヘテカクタイズ少シモ權利ニテハ同ナク尙ホ
 進シテ論ズルト買取ノ目的ハイテモ權利デスカラ千坪ノ上ノ土地ノ所有權ト
 云フモノヲ買テ所ガ其中百坪ハ既ニ他人ニ屬シテ居ルト云フノテ詰テ九百坪
 ノ上ノ所有權シカ得ナイ其場合ト千坪ノ上ノ所有權ヲ得テ積リテ買取ノ所ガ其
 中百坪ハ既ニ滅失シテ居テ買取ノコトヲ得ナカッタト云フ場合ト同シコトニナ
 ルソレ故ニ從來ノ沿革如何ニ拘ハラズ少クモ矢張り擔保ノ範圍ヨリモトメテ
 規定アルノハ決シテ不當ナモノデナカラウト思フベシニテハ其ノ旨ハ
 ソレヲ我民法ニ於テハ此點ハ舊民法ト違ヒマスガ此二ツノ場合ヲ矢張り一部
 追奪ト次ニ規定シテ一部追奪ニ關スル規定ヲ準用シテ居ル蓋シテ其旨ハ
 第五百六十五條合數量ヲ指示シテ買取シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一
 部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラ

セザリシトモ前二條ノ規定ヲ準用スルニテハ下列諸點ノ點々十條ノ
 此場合ニハ知テ買取場合ハ除イテアルソレハチカチカチハ初カラ九
 百坪シカナイト云フコトヲ知リテ買主ガ千坪アルト云フコトヲ云フコト
 ヲ買取テ買取價イテ少クシテ後カラモ千坪寄越セト云フコトハ殆ト詐欺同
 様ナ話デアルカラサウ云フコトハ言ヘ共若シ九百坪デイカスノナラ斷ラカ
 レバナラスモ前ハ千坪アルト云フガ調ベテ見ルト九百坪シカナイガ例ヘ
 バ是ハ買取ハストカ又ハ代價ヲ幾ラ負ケルトカ初ニ裁判シテ置カナケレバナラ
 スソレヲ初ニ買取テ買取價イテ後カラ負ケルト云フノハ殆ト詐欺均シイ一
 部滅失モ亦然リ千坪ノ中百坪ダケハ海嘯デ持テ行カレタ殘テ居ルノハ九百
 坪シカナイト云フコトヲ知リテ買主ガ千坪ト云フタカラト云テ買取テ買
 取テ買取後千坪寄越セソレヲ寄越サスナラ負ケルコト云フテ買主ハ是ハ
 詐欺同様デアル蓋シテ其旨ハ買取ノ旨ニテハ買取ノ旨ニテハ買取ノ旨ニテハ
 諸君ハ本條ノ規定ニ對シテ或ハ販賣ヲ試ミテ知ルカモ知レズト思フ一部滅失
 ノ場合ハ始テ指テ數量不足ノ場合ハ性質ガ瑕疵擔保デアルニ云フ以上ハ後

瑕疵擔保ニ關スル規定ガアルカテソレヲ適用シテテモハアル然ルニ一部
 追奪ニ關スル規定ヲ準用スルト云フノハ理由ノナイコトヲハナイカト稱シ云
 フ取極テ試ミラルル方ガアルカモ知レヌガ是ハ答辯ヲスルノニ難作モナイコ
 トデアル理論上ハ如何ニモ瑕疵擔保アルケレドモ立法者ニ唯理論上ノ拘
 泥シテ規定ヲ設ケルモノデハナイ常ニ實際ノ便宜ト云フモノト考ヘテ居マス
 カラ此場合ニハ實際ノ便宜上ニ部追奪ノ規定ヲ準用シタ方ガ宜シト考ヘタ
 カラソレデ瑕疵擔保ニ關スル規定ハ適用シナイソレハ又ナゼカト申スト後ニ
 詳シク説明ヲ致シマスガ瑕疵擔保ノ場合ハ第五百七十條ニ規定シテアル請ル
 所契約ヲ全部解除スルカ又ハ單ニ損害賠償ヲ請求スルカ此ニツシカ認メテナ
 イニ部追奪ノ場合ニハ前ニ論ジタルガ如ク私人借ズル所デハ請ル契約ノ一部
 解除ト云フモノガ許シテアル普通ノ言葉テ言テト代金減額權ト云フモノヲ認
 メテ居ル是ガ瑕疵擔保ノ場合ニハ適用シ難イ器械ニ知レナイ損所ガアル其損
 所ト云フモノガ器械全體ノ價ニ較メテドレダケノ價値ガアルカ理論上ハ言ヘ
 マセウガソレハ分ルモノデナイ損所ヲ居ルト云フノガ丁度總體ノ價ノ十分ノ

一ニ相當スルカ五分ノ一ニ相當スルカト云フトハチカナカ分ラナイデア
 カラ此場合ニハ單ニ損害賠償ニ關シテ而モ全部解除ヲシナイ場合ヲ單ニ損害賠
 償トシテ請求スルコトヲ許ス即チ器械ガ完全デアレバ一萬圓ノ價ノアル器械
 デアル一處肝腎ナ處ニ損處ガアルカラソレヲ直テ直ニ立テ其直スニ付レ
 ダケノ費用ガ掛ル即チソレガ損害デアレ之ヲ賠償セシムル又其費用ヲ掛ケ
 タ直シテモ到底無疵ノ物程ニハ價ガナト云フナ則其上ニ出テ位ヲ損害ガア
 ルト云フコトヲ見積テ賠償セシムル外ナイ却テ其方ガ樂デアアル全代價ノ何
 割ト云フヨリカ却テ其方ガ計算シ易イ之ニ反シテ一部追奪ノ場合デアルト多
 クハ數量ヲ分ル千坪ノ中百坪足ラヌト云フト直テ割合ガ分テ來ル假令表坪裏
 坪ノ區別ガアルトシテモ其追奪セラレタル部分ガ表坪デアルナラ表坪裏坪表
 アルナラ幾分ト云フ評價ガ直テ出テ來ル況キ其有權ノ場合ノ如キハ完全ナ
 所有權即チ專有權デアルニ思フ居テ其ノ共有權デアル即チ其有權ト云フ以
 上ハ二分ノ一トカ三分ノ一トカ云フヤウニ決テ五分數額割合出テ來ル此
 場合ニハ代價ノ割合ト云フモノヲ直キニ出テ來ル尤モ半額ノ其有權ヲ完全ナ

ル共有權ノ半分ノ價デアルトハ申すモ專有權ヨリ評價ガ實ニ相違ビオイ
ケレドモ先づ基ク標準ガ一ツアルニテ理論上カラ云フモ現狀擔保同義ニシ
テ宜ク謂デアレ矢張り現狀擔保モ無形ニ物ニ一部ガ足ラズイデズレズカ
ラ矢張り一部追奪ノ規定ヲ適用シテモ理論上差支ナク實際上下不便デアレカ
ラ此ノ如クナリ居ル今度ハ數量不足ノ場合ニハドウカト云フト是ハ先程申
ス通り事實ハ一部追奪ノ場合ト餘程能ク似テ居ル性質ハ成程現狀擔保ノ場合
デアルト云フ方ガ正シイデアリマキウガ實際ノ形ハ事ニ一部追奪ニ近イ是ハ
千坪アリト云フガ百坪足ラナイト云フヤウナ斷片ニテ通常ナリ一割
代價ヲ減ラセ宜イト云フコトモナラ極ク正シク割合ガ出テ來ルデアルカラ
千坪ニ對シテ一萬圓ト云フナラ百坪足ラズ故ニ百坪ノ價ヲ減シテ九千圓ト
云フ風ニ直ク計算ガ出來ル從テ單ニ損害賠償ト云フト常識アル裁判官ハ同ジ
標準ニ據ルデアリマキウガソレニ據ラナクテモ差支ナクナレ裁判官ガ少シ
ク數理ニ疎イ人デアルトトシテ損害賠償標準ヲ定ムルカ分ラズ斯様ナル次
第デ數量不足ノ場合ニモ一部追奪ノ規定ガ準用シテアルハ

是ガ追奪擔保ニ關スル第三ノ點デアリマヌト云フモ此ノ點トイハレテハ
次ニ是ハ理論上カラ言ヒマシタラバ矢張り一部追奪ト云ヘナイトハナカ
ウト思ヒマスガ併シ普通ノ言葉デ云ヘバ賣買ノ目的物ニ負擔ノアル場合デア
ル其負擔ト申スルハ如何ナルモ賣買ノアルカト云フト地上權永小作權地役權留
置權質權先取特權抵當權ソレト負擔ト云フ所ノ負擔デアアル其
中ノ一ガ存シテ居ルト云フト賣主ハ買主ニ對シテ擔保義務ヲ負フト此處
第五百六十六條第一項「賣買ノ目的物カ地上權永小作權地役權留置權又ハ
質權ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラザラシドモ之カ爲メニ契約
ノ甲ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハザル場合ニ限リ買主ハ契約ノ解除ヲ爲
目トスルコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ハ之ヲ爲スルコトヲ得
茲ニ掲ゲタル所ノ權利ハ殆ド皆則チ宜ク多ク物人占有ヲ要素トスル所
ノ物權デアアル占有ヲ爲サザル場合ハ殆ド地役權ニアラズ人ガケデズガソレハ
占有ヲ爲サズモ矢張り強シイ權利デアレ例ヘバ通行權始終自分ノ知ラナイ
人ヲ通行スル殊ニ不愉快デアレ從カシレバ土地ノ價ヲ賣買ガ減ズル地味下

タアルト餘程減ズル其他ハ大抵賣占有ヲ法律上又則事實上ノ要素トシテ居ル
 留置權實權ノ如キハ法律上之ヲ要素トシテ居ル新機ナル權利ガ存シテ居ルト
 云フト買主ハ其買受ケタル物ヲ所有者トシテ分ニ利用スルコトガ出來ヌ占
 有ナヘモ出來ヌヲデスカラ使用ガ出來ナイ收益モ出來ナイ況ヤ他人ノ權利ノ
 目的トナフテ居ラズ處分ハ出來ナイ(物ノ處分ヲス)トシテテ所有權ヲ買受ケ
 タ甲斐ガナイ故ニ若シ之ガ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコトガ出來
 イナラバ例ハ其土地ニ直チニ家ヲ建テヤウト思フタガ地上權者亦地上權ヲ
 持テ居ルカラ所有者ニ於テ家ヲ建テラレト出テ來ヌ耕作地ヲ買入レテ直チニ
 耕作ニ從事シヤウト思フタガ永小作權ガ存シテ居ラズト出テ來ナイ其他類推
 スベキコトデアリヤスガツウ云フコトテ詰リ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコ
 トガ出來ヌナラバ買主ハ契約全部ノ解除ヲ爲スコトガ出來ヌ併シ場合ニ依
 ツルハツウ云フ權利ガ存シテ居ラズモ爲メニ買受ケタル物ガ何ニモナラズ云フ
 コトハナクモ知レヌシレハ今直チニ其土地ニ家屋ヲ建テテ住居シヤウト云
 フ譯デモナク自分ガ自ら其土地ヲ耕作シヤウト云フ考デモナイト云フヤウナ

場合ニハ地上權永小作權等ノ如キ權利ハ存シテ居ラズモアルデ役ニ立タスト云
 フコトニハナラズ數年ノ後ニハ此等ノ權利モ消滅スルソレカラ地代小作料ガ
 取レルカラソシナニ不利益デハナイト云フコトガアリ得ルソシナ場合ニハ單
 ニ損害賠償ノ請求ダケヲ許ス斯ウ云フ權利ガナイト思フ買主ナケレバ一萬
 圓ノ價ガアル所ガ斯ウ云フ權利ガアルトソレダケ土地ノ價ガ減ル或ハマルデ
 役ニ立タヌノデハナイガ買主ハソレガ爲メニ損害ヲ受ケルト云フヤウナコト
 ガアリ得ル其トキハ損害賠償ヲサセルドウモ此場合ハ純然タル一部追奪ノ如
 ク一部ノ解除ト云フコトハムヅカシイ成程地上權ヤ永小作權ナドハ所有權ノ
 支分權デスカラ理論上ハ確ニ一部追奪ト云ヘルノデスクレドモ地上權ノ價ヲ
 除イタ所有權ノ價ト云フモノハ分リ悪イカラ寧ロ損害賠償ヲ爲サシメタ方ガ
 宜シイト云フノデサウ云フコトニナク
 此場合モ買主ノ善意ナルコトヲ要スル惡意ノ買主即チ賣買ノ當時ニ新機ナル
 權利ガ存シテ居ルト知ラテ買主者ハ此ニ規定シテアル權利ヲ持タズ是ハ當然
 ノ事デス知ラテ買主者ノナラバサウ云フ權利ガ存シテ居ラズモ利益アリト

債權ヲ持テ買買トシテ、後ニ立テ思フ買買トシテハ、ハナイニ違ヒナイ、ソレ後カラ俗ニ申スト「小便ヲスル」ト云フルハ宜シク、ハナイ新様ナルコトハ決シテ許サス、若シテ云フ考ガアルカ、買買前ニソレヲ言ハナケレバ、ハナイ買買トシテ、ハナイ其トキハ、新様ナル負擔ガアツテモ、差支ハナイト云フ意思デア、否差支ガアツテモ、返スト云フコトハ、出来、損害賠償ヲ爲サシムルコト云フコトモ、出来、ハ、是ハ當然ノ事ト考ヘマス。

此規定ハ、買買ノ目的タル不動産ニ付テ登記シタル買賃借ノ存シテ居ル場合ニモ、準用セラレ、後ニ詳シク論ジマスガ、買賃借即チ買賃借契約ヨリ生ズル買賃借人ノ權利ハ、新民法ニ於テハ、債權トシテアル、物權トシテハ、見テナイ、故ニ是ハ原則トシテハ、買主即チ買賃人ダケニ對スル權利デア、第三者ニ對抗シ得ラルル權利デハ、ハナイ、妻ナガラ法律ハ、此買賃借ヲ特ニ保護スル爲メニ、不動産即チ土地、建物等ニ付テハ、之ガ登記ヲ許ス、一旦登記シタナラバ、其權利ハ之ヲ以テ、第三者ニモ對抗スルコトガ出来、ルト云フコト、蓋シテ居、即チ第六百五條ニ規定シテアル。

ソコデ、其登記シタル買賃借ノ存スル不動産ノ上ノ所有權ヲ買買トシテ買買フ者モ、ソノ買賃借ノ存シテ居、ルトハ、知ラズニ買買シ、登記ヲ見レバ、直シテ分ルノゾ、カラ買主ニ疎漏ノアルコトガ多イケレドモ、欺シタノハ、ヒドク、買主自身ガ知ラズト云フナラ、買主ヨリモ過失ガアル、故ニ買主ト買主ト、買主ト買主ト、方ニ責任ガ多イ、況ヤ、登記シタル權利デモ、登記官吏ノ過失ニ因、テ、第三者ニ知レナイコトガアル、例ヘバ、登記簿ノ原簿ヲ見マシテモ、素人ニハ、分リ難イコトガ多イカラ、ソレデ必要ナルトキニハ、謄本又ハ抄本ヲ買買フ、サウス、ルトソレガ證據ニモ、ナ、テ便利デスカラ、大抵ナウスル、所ガ登記官吏ノ粗漏ニ因、テ、其謄本若クハ抄本ニ買賃借ノ登記ガ漏レテ居、タト、假定シマス、サウス、ルト買主ニ少シモ過失ハ、ハナイ、買賃借ノアルト云フコトハ、知リヤウガナイ、併ナガラ、明カニ登記シタル權利ガカラ、買賃借人ノ方カラシテ、對抗シテ來、ル、ソコデ、擔保問題ガ起、ル、ハ、買買、目、前、此買賃借ハ、債權デハ、アリ、マス、ケレドモ、斯、テ、第三者ニ對抗シ得ラルル、即チ買主ニ對抗シ得ラルル、權利デスカラ、物權ト變、ルコトハ、ハナイ、地上權、永小作權ト殆ド同シデア、ル、ソレデ、矢張り、少クモ、一種ノ一部、追奪、廣イ意味ニ於ケル、一部、追奪、デ。

アル時、所有者ノ權利ガ一部喪ガレテ居ルト云フコトが言ヘルニ、
 第五百六十六條ニ規定シテアル追奪ノ場合ハ一部追奪ト云フベク、即チ初ニ申
 シテ賣買ノ目的物ニ負擔アル場合ト云フノハ是ガケデス所ガ茲ニ一ツ法文ニ
 一措ニ併セテ規定シテアルモノガアルゾレバ何デアルカト云フト、賣買ノ目的
 タル不動産ニ地役權ガ附隨シテ居ル例ヘバ其不動産ニ井戸ガ付ケレドモ隣
 ノ地所ニ存シテ居ル井戸ノ水ヲ汲ム權利ガアル即チチウ云フ地役權ガアルト
 云フノデ買ヲタテ所ガソレハ嘘デアラフチ、或ハ昔ハ存シテ居ラタガ、其權利ハ既ニ消
 滅シテ居ラタト云フヤウナコトデ、詰リ地役權ガケテ追奪セラレル此場合ニ於テ
 モ矢張り一部追奪ト云ヘルノデス、詰リ完全ナル不動産ノ所有權トソレト一ツ
 ノ地役權ト併セテ一定ノ代價ヲ以テ賣買スル例ヘバソレダケヲ一萬圓ナラ一
 萬圓トシテ賣タ、然ルニ其地役權ダケナイト云フナラバ千坪アル地所ト云フノ
 デ賣ヲタノガ九百坪シカナイ、九百五十坪シカナイト云フノト同ジデアラ、賣買ノ
 目的タリシ權利ノ一部ガ買主ニ移轉スルコトガ出來ナカ、タノデアアル此場合ニ
 於テハ矢張りチウキ申上ゲタ第一項ノ規定ソレガ爲メ役ニ立タヌケレバ契約ノ

本

本

エ

全部ヲ解除スル、左モナケレバ單ニ損害賠償ヲ爲サシムルト云フコトニナラテ居
 ル

第五百六十六條第二項 前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ハ爲メニ存セ
 リト稱セシ地役權ガ存セテリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル質貸
 借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

此ニ規定スル權利モ元來性質上ハ純然タル一部追奪ノ場合ノ權利ト同ジモノ
 デアル、從テ丁度一部追奪ノ場合ニ於ケルガ如ク短キ期間ノ經過ニ因テ此權利
 モ消滅スル

同條第三項 前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ
 事實ヲ知ラタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

詰リ前ノ場合ト違フノハ代金減額權ト云フモノガナイノトソレカラ、惡意ノ買
 主ト云フモノノナイノダケデスゾレハ詰リ先刻説明シテ所デ御分リニナラテ居
 マクト思ヒマスカラ再ビ申シマセス

此期間ガ豫定期間デアルト云フコト、從テ之ニ時効ノ規定ヲ適用スルコトガ出

家スト云フコト、此ニ此規定ト並行シテ純然タル時効ノ適用ガアルト云フコト
 モ總テ前ニ申上ダタ所ト變ル所ニアリマセシ
 是ガ買買ノ目的物ニ負擔ノアル場合ノ一部分デアアル、今一種類ノ負擔ノ事ハ
 第五百六十七條第一項 買買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又
 ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ
 解除ヲ爲スコトヲ得
 即チ先取特權及ビ抵當權ノ事ガ茲ニ規定シテアル此等ノ權利ハ唯今論ジマシ
 タ地上權其他ノ權利トハ餘程輕ガ違フノデアアル、不動産上ノ先取特權ノ如キハ
 占有ヲ要素トシテ居ルモノハナイノデアアル、ソレカラ抵當權ハ是ハ占有ト云フ
 モノガナイノデア買權ト違フト云フ位占有ト云フコトニ線ノナイモノデアアル故
 ニ新様ナル權利ガ存シテ居ラテモ差向キ買主ノ爲メニ不便ヲ感ズルト云フコ
 トハナイ、買主ガ其不動産ヲ使用セント欲スル場合ニハ勝手ニ使用ガ出來ル收
 益ヲシヤウト思フテモ收益ガ出來ル、成程權利ガ附著シテ居リマスカラ物ヲ處分
 スルコトハ出來マセスケレドモ是ハ概シテ所有者ノ爲メニ利益トナラヌコト

デスカラソレガ出來ナクテモ因ラヌコトガ多イ故ニ此權利ガ存シテ居ルト云
 フガケデ直チニ擔保ノ請求ヲ爲シムルト云フコトハナイ、詰リ債務者ガ債務
 ノ履行ヲ爲セバ自ラ消滅スベキ權利デアラテ、チウスレバ殆ド初カラ新様ナル權
 利ガ存シテ居ラナカラダノト、買主ノ爲メニ異ナルコトハナイ、ソコガ前ノ權利ト
 ハ餘程違フ、ソレデ全ク別ノ規定ニナラ居ル
 茲ニ著シク違フ所ハ第一ハ此等ノ權利ノ行使ニ因ラテ買主ガ其所有權ヲ失ウテ
 場合ニノミ擔保ノ請求ヲ爲ス權利ガアル、ソレカラ第二ニハ買主ノ善意ト惡意
 トヲ問ハナイト云フ點デアリ、マスタセ善意ト惡意トハ區別ヲシナイカド云フ
 此等ノ權利ハ債權ガ消滅スレバ自ラ消滅スベキモノデアアル、チウシテ幸ニ債
 務ト云フモノガ期限ニ至レバ履行セラルルコトガ多イノデス、抵當權ヤ先取權
 權ガイテモ役ニ立ツキウデ、欺ルシイコトデ、幸ニチウ云フコトハナイ、寧ロ是
 ガ役ニ立ツト云フノガ十中ノ一二カ百中ノ四五デアアルト云フ位ノモノデアアル、
 故ニ買主ハ新様ナ權利ガ存シテ居ルト云フコトヲ知ラテ居ラテモ賦ツテ買主ト
 云フコトハアチ得ル、ナニ債務者ハ賣力ノアル人デアラカラ抵當權ノ行使ニ違

フコトハナカラウ、先取特權ヲ行ハルルコトハナカラウト思フ。賦クテ買フコト
 ガナイドハ云ヘナイゾレオスカラ買主ハ善意ノ惡意トヲ區別スルコトガ出来
 ス。買主ハ善意ノ惡意ノ別ニ依リテ、買主ハ善意ノ惡意トヲ區別スルコトガ出来
 茲ニ本條ニ期カ缺點ノアル所ヲ説明シテ實際如何ニ補ウテ行カナケレバナラ
 スカト云フコトヲ述ベヤウト思フ。先づ茲ニハ先取特權ト抵當權トノミアツテ買
 權ト云フモノガナイ、一見シタ所デテ前條ニ買權ガ進入テ居ルカラ此處ニハ買
 權ガナクテモ宜シイト云フヤウニ思ヘルゾレダ多分滿ラタノデアラウト思フ、
 ケレドモ退イテ考ヘテ見ルト、ドウモソレダハ足ラヌ、前條ハドウ云フ規定
 カト云フト買權ガ存シテ居ルガ爲メ買主ガ直チニ占有ヲ爲スコトガ出来ヌ、不
 動產デアレバ買權者ガ使用收益ノ權利マデ持テ居ル、故ニ買主ガ直チニ不動產
 ヲ使用セント欲スルヤウナ場合ニハ其使用ガ出来ヌ爲メニ或ハ契約ヲ爲シタ
 ル目的ガ達セラレヌ、或ハ少ナカラヌ損害ヲ被ルト云フノデ前條ノ規定ガ故ル
 ケレドモ若シ買權ノ行使ニ因テ遂ニ買主ガ所有權マデ失ツテ仕舞フト云フコ
 トニナララバ本條ノ適用ノアル方ガ適當デハナイカ成程此契約ノ解除ト云フ

コトハ無論出来ヌ、ソレハ買主ハ所有權ヲ得ルト云フノガ契約ノ目的デアラ
 ヲレテ得ナイト云フコトニナレバ買主ハ契約不履行者デアル、オスカラ不履行
 ニ因テ解除ト云フコトハ出来ル、オウシタ場合ニハ既ニ履行ガ不能トナラテ居
 ル場合ガ多イデアラウト思フ。オウシタ場合ニハ既ニ履行ガ不能トナラテ居
 ナイト云ヘバ催告ヲシナケレバオウシタ場合ニハ既ニ履行ガ不能トナラテ居
 ラ直チニ解除ヲ爲スコトガ出来ルヤウニナレ、ケレドモ若シソレダケデ宜イ、即
 チ一般ノ解除ノ規定ダケデ足ラズ、只今讀ンダ第一項ダケデハ必要ガ十分
 定ヲ入レタト、斯ウ云フコトニナレ、是ハ只今讀ンダ第一項ダケデハ必要ガ十分
 分ヲマセヌガ第二項、第三項ニ依リテ、此箇條ノ必要ガ十分ヲ來ル、然ラバ先取特
 權又ハ抵當權ノ行使ニ因テ買主ガ所有權ヲ失フノモ買權ノ行使ニ因テ之ヲ
 失フノモ同ジコトデアルト云ハオウシタ場合ニハ既ニ履行ガ不能トナラテ居
 デアルト思フ、オウシタ場合ニハ既ニ履行ガ不能トナラテ居ルカラ此處ニハ買
 ニナレ、コトガアルガモ知レヌカ、民法編纂ノ際ニ第三百六十條ニ「不動產買
 本節ノ規定ノ外、次章ノ規定ヲ準用ス」トアル、是ガ初ハ「抵當權ニ關スル規定ヲ

準用ス。トアタ、其結果買權ト云フモノハ特ニ書イテオクテモ、抵當權トアルト云フト其中ニ自ラ買權モ合マレテ居ルト同ジトモナル抵當權ニ關スル規定ハ皆不動産買ニ依ルソレヲ初メ不動産買ト云フモノニ他ノ規定ニ照應シテアタ、單ニ先取特權又ハ抵當權ト云フ風ニナラバ不動産買權ノ事ハナカタク所其内ニ案ガ出来上ラテカラ最後ノ整理ノトキニドウモソレハ不明シカラ矢張り「不動産買」ト云フモノヲ「書加ヘタガ宜カラク」ト云フコトデアラタ、ソレゾ大分書加ヘルコトニナラ、例ヘバ第五百一條ノ第一號ニ「不動産買權」ト云フ字ガ這入テ居ルソレカラ第五百七十七條モナクデアアル、茲ニハ先取特權又ハ抵當權トアルソレノ風ニ「買權」ト云フ字ヲ方方ニ入レタモノデスカラソコデ第三百六十一條ヲ少シ書改ムル必要ガ生ジテ來タ、廣ク「抵當權」ニ關スル規定ヲ準用ス。トシテ置タト重複ニナル第五百一條又第五百七十七條オゾト重複スルコトニナルカラソレゾ「第二章」規定ヲ準用ス。ト云フコト「改メタ」所ガ倉卒ノ際デアラカク多少抜次タ所ガアル本條ノ如キハ其ノ改メテ見ルト前條ニ買權ガアルカラ此處ニハ買權ハイラズナラ、見ニテ、ソレデ此處ニハ入レナカク

タ、所ゾ今ノヤウナ場合ヲ考ヘナカク、ソレカラ序ニ申上グテ置タ、今一ツアル第三百三十九條ニ「前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ先テ之ヲ行フコトヲ得ト云フコトガアル、是モ極ク正確ニ言フト「抵當權」及「買權」ニ先テ「書」ト書ク方ガ正シカラ、ソレモ被ケタ併シ是ハ少シモ差支ニハナラズ、ナゼカト云フト不動産買ト抵當權ト云フモノハ同順位ノモノニナラ、居ル登記ノ前後ニ因テ其順位ガ定マルモノデ同ジ方ノモノニナラ、居ルソレデスカラ先取特權ガ抵當權ニ先テ自ラ自ラ不動産買權ニモ先ツコトニナル、先刻ノ第三百六十一條ニ「第二章」規定ヲ準用ス。トアル結果、今ノ事ハ分ル、ソレハ第三百七十三條ガ準用セラルル、抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ルトアル、ソレゾ不動産買ニモ依ルソレゾウスルト抵當權ト其順位ニ付テハ同ジコトデアアルト云ヘル、故ニ此方ハ解釋上少シモ困ラズ、唯形ニ於テ穩當ヲ缺イテ居ルヤウデアアル所ガ今ノ簡條ハ實際ニ於テモ多少不都合ト謂ハナケレバカラス、是モ買權ノ事ニ關シテソレカラ今一ツ並ニ缺點ノアルノハ所有權トシテ書イテアル、是ガドウモチヨト狭カクヤウニ思ヘル、地上權永小作權ノヤウナモノゾモ矢張り抵當權ノ目的

トナルコトガ出来ル其場合ニ其地上權若クハ永小作權ヲ買テカテ後ニ買主ガ
 抵當權ノ行使ニ因テ其地上權若クハ永小作權ヲ失フトキハ矢張り本條ノ適
 用ガナケレバナラヌト思フ併シ是ハ解釋ヲ以テ補フコトガ出来ルト思フ成程
 地上權永小作權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトガ出来ルガ如クシテモ然ラズ
 アル法律ハ重モナル場合ニテ規定シテ居ラザルニテ特別の場合ニ思ヒ及
 ナカクテゾアルカラ所有權ト云フ字ヲ使ウタテゾアルガ同ジコトゾアルカラ
 適用シナケレバナラヌ況ヤ是モ多少ノ據リ所ハアルゾス第三百六十九條第
 二項ニ「地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於
 テハ本章ノ規定ヲ準用ス」ト書イテアルゾレデ抵當權ニ關スル規定ハ皆所有權
 ヲ見テ書イテアルゾレデ今ノ準用デ地上權ヤ永小作權ニ依テ行テ成程今ノ準
 用ノ簡條ガ本條ニ對シテ直チニ效力ガアルゾアルゾマセモ其ガ抵當權ノ元方ノ
 規定デナヘモ皆所有權ニ付テ設ケテアルカラ買賣ニ關シテ抵當權ノ事ヲ規定
 スルニ當テテ法律ガ「所有權ト云フ文字ヲ違フモノハ恕スベキ」トゾアルゾ
 思フ解釋上ハ無論疑ガナイト思フゾ唯文字ガ聊カ不穩當デアルト謂ハナケレ

バナラヌ
 ツレカラ今一ツハ理論上ノ事デ序ダカラ申ス位ナコトゾアルゾ本條ハ不動產
 ニ限テアルゾレドモ理論上カラ云フト矢張り不動產モアルゾ抵當權ハ不動產ニ限
 ルゾレドモ質權先取特權ノ如キハ就中不動產ノ上ニアルゾレニ付テモ矢張り同
 様ノ規定ガイリナクナモノデアアルゾ不動產ノ所有權ヲ買取テ者ガ後ニ先取特權質
 權ノ行使ニ因テ其所有權ヲ失フト云フコトハアリナクナモノデアアルゾ其トキハ本
 條ノ適用ハナイゾアルゾ不動產ト書イテアルゾ動產ニハ適用ハナイゾアルゾ
 ラウカゾレハ缺點デアアルゾイカニハ理論上カラハ缺點ト云ヘルゾ然レモ
 ヌガ實際ハ缺點ト云フ程ナモノデアナイゾ寧ロ立法者ノ側カラ言フゾ此儘デ宜
 シイカト私ハ思フ其譯ハ動產ニ付テハ本條ニ規定シテアルゾ其トキハ先
 起ラヌドウシテ起ラマカト云フト動產ノ所有權ハ引渡ガ済マテ後ニ先
 ニ對シテハ移轉シナイゾスカラ若シマダ買主ガ引渡ヲ受ケス内ニ所有權ヲ失
 フコトガアルゾラハソレハ自分ガ引渡ヲ受ケテ居ナイカク第三百三條ノ向テハ何
 トモ言ヘナイゾ然レモ恰モ所有權ヲ讓受ケテ居ラザルカ如クゾアルゾ新株

ナル場合ニ於テハ成程買主ニ向テ債務不履行ノ請求ヲ爲スルモ出來テ居テ
 レドモソレガ爲メニ特別ノ保護ヲスルト云フ必要ハナク故テ物差引濟ヲ受テ
 タ場合ト考ヘナケレバナラヌナウスルト是ハ所有權ヲ何人ニ對シテ取得シ
 ラ居ル場合デアル所デ其場合デアルト動産買付云々ハ動産買付占有ト云
 フモノガナケレバ存セヌモノデアルソレカラ令申シタキウニ所有權ヲ買取ク
 所ノ者ハ引渡ヲ受ケナケレバ完全ナ所有者ニナラナイシテ見ルト此場合ニ動
 産買付存シテ居テソレガ爲メニ後カラ所有權ヲ失フト云フニトハ想像ガ出來
 ナイ引渡ヲ受ケテ仕舞ヘバ動産買付ノ任舞ニ違ヒナク即チ置權者ガ
 占有ヲ失ハナケレバチウ云フコトニテナイ極ク稀ナ場合ヲ想像シテ見ルト置權
 者ト買主トガ同一ノ第三者ニ各占有ヲ委任シテソレデ置權者モ占有シテ居ル
 ガ買主モ占有ヲシテ居ルト云フ想像ノ出來ヌコトハナイガチウ云フコトハ一
 般ノ債務不履行ノ規定デ澤山デアルト云フニ動産買付省令ハ先取特權
 ニ付テモ同ジキウナ譯デアルト第三百三十三條ニ先取特權ハ債務者其動産ヲ
 第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キテヲ行フコトヲ得ストアルソレデ

スカラ動産ハ先取特權デアルト買主ガ引渡ヲ受ケテ仕舞ヘバ消滅シテ仕舞フ
 デスカラ本條ノ適用ガナイソレデスカラ詰リ動産ニ付テハ本條ノ如キ規定ハ
 必要ガナイト見タノデアアル眞ノ缺點ト謂フニキハ詰リ二點デアアル買權下云々
 モノガ加ヘテナイト云フコトト所有權ト云フ文字ヲ違テト云フ此二ツデアリ
 マス併シ此缺點ハ所有權ノ事ハ既ニ解釋デ補ヒ得ラルルト云フコトヲ申上ゲ
 タ分買權ノ方ハ是ハ解釋ヲ補フコトト出來ヌ思ヒテハ唯一般ノ原則ニ依テ
 格別ノ不都合ヲ見ヌ云フコトト云フ云々ハ最後ニ説明致シマス先ヅ
 第五百六十七條第二項ニキル買主ハ其動産ノ買主トシテ其動産ノ買主トシテ
 買主ガ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトシテ賣主ニ對シテ其出捐ノ價
 還テ請求スル得ルコトト出捐ノ價還ハ其動産ノ買主トシテ其動産ノ買主トシテ
 是ハ所有權ヲ失ハナイ場合トシテ場合カト云フト多クハ買主ガ債權者ニ辨濟
 ヲ爲シタ場合例ヘバ抵當權ノ行使ニ違ウテ就賣ニ付キテトナウト云フ場合デ
 アル就賣ニ付キテアルト云フト買主ハ所有權ヲ失ハナケレバナラヌソレデ據
 據ト自腹ヲ切テ債務ノ辨濟ヲ爲シタト云フキウナ場合ガ重キカ場合ハ是ハ出

べテ法律ガ特ニサテ云フ權利ヲ認メテアル全ク此セテモ、
 今マテハ或ハ契約ヲ解除或ハ出捐賠償違ダケテトモ云フテ
 向キ買主ニ損害賠償ヲ求ムル權利ヲ持テ居ル即チ同條第三項ニ
 右號レハ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケルベシキハ其賠償ヲ
 是ガ外ノ場合ト少シ輕ク違テ居ル外ノ場合デモ善意ヲ買主
 求ムル權利ヲ持テ居ル惡意ノ買主即チ此處デ謂フ所ノ負擔
 居ルト云フコトヲ知テ買取ラタ者ハ求償權ヲ持タズ所ガ本
 ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトガ出來ルヤウニナラ居ルゾレハ
 云フ字ヲ抜カシタノカ知ラエト、斯ウ云フ疑ガ起ルガテウデハ
 通リ先取特權又ハ抵當權ノ如キモノハ不幸ニシテ之ヲ行使ス
 コトガ所ナラズ多クハ幸ニシテ之ヲ行使スル必要ガ力有ラズ
 權利ノ存シテ居ル間トモ知リテ買取ラ買主ト雖モ是ニシテ生
 テ買取ラモノト云フコトナラズ債權者ニモ賣力ガアルカ多分

行使ト云フモノハナクラウト云テ考テ買取ラモ是ノ見ナクレバ
 此權利ノ行使ニ因テ所有權ヲ失フタトカ又之ヲ失テ是ノ爲メ
 シタト云フトキニ之レ由テ生ズ所ノ損害ヲ買主ニ償ハシメ
 上斯ウ云フコトニナラ居ル
 向キ是ハ買主ガ既ニ代價ヲ拂フ仕舞タトキノコトヲ重モニ
 イテアルレ私モ説明シテ居ルゾオガ多クノ場合ニ於テハ買主
 ズニ待テ居ルコトガ實際デアラウト思フ先取特權抵當權ガ存
 是ハ險存タカラ買取ルコトハ買取ラガ債務ノ期限ガ來ラ
 満足ニ履行セラルルマデハ代價ヲ拂フコトハ出來ズ賣買契約
 登記モ済マシテ是レガ代價ハ後日ニ之ヲ拂フト云フノガ普通
 フ此場合ニ於テモ第一項ノ解除權ハ存シテ居ルゾレカ又特約
 取リ損害賠償ヲ求ムル權利モ存シテ居ルゾレカ又特約ガナカ
 スルト云フコトハ實際適用ガ少カラウト思フ大概ハ賣買代價
 レハ後ノ解除ト云フモノハ出來ルニ據テ云フモノハ買主

レドモ今ノ場合ニ云ヘル買取ノ一定ノ金額又債権者重々買取當權者ニ提供ス
 ナリトシテソレノ抵當權ノ消滅ヲ請求スル權利オズル債権者アリトシテ承諾ス
 ルハ直ニ買取當權ノ消滅ニ仕舞フ承諾レナイト云ハルモ十分ノ以上高利買
 ル約東オレオケレバ承諾ナラズソレノ正當代價ヲ提供セザラバ必ズ承
 諾スル無遠ヒナイ、或買取ノ後損ヲ行ク故ニナク云フモキニハ大抵
 除カ行カルカ又ハ協議ガ調子爲メニ買主ハ損失ヲ被ラズシテ済ムデアラウ
 ト思ヒ買取不代價ガ不常ニ廉デアラウ云フ譯也、買主ハ買主ナル代價ノ
 外ニ金ヲ出ナケレバ撤除ハ出来ズ、一萬圓ノ價額モ五千元買取ノ居
 ナラバ尙ホ少クモ三千圓ノ四千元出ナケレバ債権者ハ承諾セズトモ、買主
 出ナクテ後カラ出カセバ金ニ並ニ開テ所ノ出損デアラカラ矢張り其價
 額ヲ請求スルコトガ出来る

以上論じマシタルニ先取特權抵當權ニ付テデアレガ先取不働產賣ニ立
 戻リテ本條ニ不働產賣ニ適用スルコトガ出来ズ爲メ多少ノ不都合アリ
 然レモ之ドモソレガ爲メモ買主ハ不爲平ノ結果ヲ惹起スト云フコトナク

件又ハ期限ノ一定申込後買主定款記載簿ヲ其引受後總額ニ效力ヲ注ス
 ルヤ否ト申込二款ニ依リ申込後買主定款記載簿ヲ其引受後總額ニ效力ヲ注ス
 ル要セズト考テ、買主ハ買主立ノ時大抵買主立ノ時必費又ハ定款中記載簿
 引受後引受人ヲシテ株金額込ノ義務ヲ負擔セシメ、被引受人ヨリ之ヲ取前
 引受後引受人ヨリ之ヲ取前引受人ヨリ之ヲ取前引受人ヨリ之ヲ取前引受人ヨリ
 之ヲ取前引受人ヨリ之ヲ取前引受人ヨリ之ヲ取前引受人ヨリ之ヲ取前引受人
 ヲシテ買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立
 主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時大
 買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時大抵買主立ノ時
第四款 總株式引受ノ確定

株式引受ハ前款ニ於テ其主體ヲ總額トシテ説明セリ然レモ、客觀的ニ觀ル
 其確定セザル時、會社ニ成立シテ來セ、或ハ設立直後ニ於テ他種株式總額
 ハ至ルニ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或
 爲有申込株式總額ニ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受
 直ニ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額
 式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受
 式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受
 式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受ヲ得、或ハ總額式引受

其法律上ノ性質ヲ付キ學說ノ執一者雖ルモ其ノ次款ニ述フル所如クカレテ以テ
 分テ而シテ普通ノ學說トシテ之ハ契約說ヲ申シ或ハ引受行為ヲ契約ノ申込ト解
 シ或ハ之ヲ承諾ト解シ但我商法ニ申込及ヒ申込人ノ承諾用テ然ラザルヲ以テ契約
 說ニ基キタルモノト論シ學說多シ而シテ引受行為ヲ契約ト解シ承諾ト解スルハ發
 起人肚圍ハ之ヲ承諾ト解シ而シテ何レモ其任當ナリ我輩ハ多少難滿說ト見解
 ヲ異ニシ發起人設立ニ時設立ノ場合ニ在リテハ契約說ヲ否認シ綜合行為說ヲ
 主張ス之ヲ法文ニ載スルモ株式ノ申込及ヒ申込人等ノ語ヲ存セタルヲ以テナ
 リ之ニ反シテ募集設立(漸次設立)ノ場合ニ在リテハ契約說ヲ是認シ引受行為ヲ
 契約ト申込ト解セザル欲ハ此現解ニ從ハハ簡簡引受カ確定スルハ一時設立
 ノ場合ニハ定款ニ作成後爲ニ依テ漸次設立ノ場合ニハ發起人カ申込ヲ承諾ス
 ルニ依テ換言シレバ一時設立ノ場合ニハ申込ヲ承諾セザルニ綜合行為說
 ヲ引受ト二箇ノ内容ヲ表示シ漸次設立ノ場合ニハ契約申込ノ意思表示ノ内容
 中引受ト二箇ノ内容ヲ包含ス漸次設立ノ場合ニハ主觀的ノ意圖ヲ於
 テ引受ト客觀的意圖ヲ於テ受引受ト相違アリ故我輩學者ハ引受ニ

二種ノ意義アリテ引受人カ意思表示所シラフ引受及ヒ株主タルノ資格ヲ取
 得スル原因トシテ引受ト指定セザル限リ其ノ性質ニ從テ之ヲ引受ト稱ス
 簡簡ノ引受確定シ此確定カ總株式ニ及ブトキハ茲始テ總株式ヲ引受ノ確
 定トシト稱ス然レテ得テ而シテ此ニ依テ一時設立以テ場合無社成立シ
 漸次設立ノ場合ニハ株主ノ拂込爲メトテ段階ニ入テ同トス

第五款 株式引受 引受行為主體トシテ法律上ノ性質

株式ノ引受ニ關スル學說ヲ大別スルハ三種ト爲ル蓋シ契約說(一)單獨行為
 說若シテ綜合行為說(二)折衷說是テ其ノ中ニ於テ發起人肚圍ノ間ニ發生スル
 第一ノ契約說モ亦夥多ク分派アリ或ハ之ヲ以テ綜合契約ト爲シ或ハ之ヲ賣買
 契約ト爲シ或ハ之ヲ無名契約ト爲シ或ハ此等ノ契約ノ簡簡ト爲シ或ハ之ヲ賣買
 ノナリト爲ス而シテ其何レニ從フモ種種點點ニ付テ異說紛紜ト爲シ決然所
 ナシ例ハ何時株式引受契約カ成立スルヤハ問題ニ付テハ個人カ申込スル
 ヤニ付テ議論アリ或ハ引受人カ申込ヲ爲ス下爲シ或ハ發起人カ申込ヲ爲スト

設之或ハ又創立總會ノ決議ニ因リ開始スル契約ニ成立スル所ニ於テハ亦同義ナリ
 其次何人カ契約ヲ當事者トシテ履行スル付テハ見解區分ナク大體六ノ事實範圍ニ
 株式引受人他方ニ發起人カ當事者ト列シテ說理或ハ株式引受人相互ニ當事者ト
 爲リ發起人ノ資格ニ就テ之ヲ媒介スルモノトシテ果實ニ或ハ株式引受人團體ト
 發起人團體トノ間ニ契約成立スト說キ或ハ二箇當事者獨立ニ成立スルモノトシテ
 一ハ發起人ト株式引受人トノ間ニ成立シ他ハ引受人相互ノ間ニ成立スト解ク
 夫ニ此株式引受人ノ發生ニ權利如何ニ就テ未來ニ株式會社ニ歸屬スル
 ヤノ問題ニ付キ種種ノ見解ヲ生シ或ハ之ヲ發起人團體ヨリ會社ニ對シテ爲ス
 明示的ノ讓渡ト說キ或ハ發起人團體ヨリ會社ニ對シテ爲ス假定的ノ若クハ法定
 的ノ讓渡ト爲シ或ハ發起人會社ニ爲シテ爲ス商事管理上ノ說キ或ハ法律
 ノ規定ニ依リ單純ナリ移轉ナリト說ク之ヲ要スル契約說者採用論據者ハ
 種種ノ問題ニ付キ困難ナル難義ニ遭遇スルモノトシテ覺悟セズ得ズ
 第二單獨行爲說者ハ綜合行爲說ヲ採用スル學者ハ極メテ少ク我輩ノ知ル
 所ヲ以テコレハ獨逸之「レトマシ」及ヒ「瑞西」之「レマ」トシテ茲ニ其大體トシテ

二二

二二

二二

此說ニ依レハ一時設立漸次設立ノ區別ニ引受テハ其向來ニ來ル株式會社ニ於ケル株主資格ヲ得ルモノト以テ其的トスル單獨行爲ニシテ其事實ス
 レハ一種ノ身分行爲ナルコト固籍ヲ取得スル行爲市民資格ヲ取得スル行爲奴
 隷ヲ解放スル行爲等ノ如シ更ニ之ヲ詳說スレハ一時設立ノ場合ニハ株式ノ引
 受ハ或ハ定款以テ之ヲ爲シ或ハ定款確定ニ附屬スル事務トシテ之ヲ爲スモ
 何レモ單獨的行爲ニ外ナラズ又漸次設立ノ場合ニハ引受單獨行爲ニシ
 テ引受人トシテノ義務ヲ生スル付テ發起人ノ承諾ヲ要セ且發起人ト引受
 人トノ間ニ種種ノ内約アリ之ノ厚薄社ニ對シテ強弱ノ別存能ハ何トシテ
 ハ會社ニ引受ニ依リテ權利ヲ得ルヲ發起人ノ承諾者タルニ基キテ之ヲ決定スル
 時ニ其利益ノ爲メニ引受契約ヲ取結タルニ依リテ發起人ノ承諾者トシテ權利ヲ得ル
 ニモ非シ營ニ引受人ノ單獨行爲即チ會社ヲ創立科友トシテ行爲ニ依リテ會社
 ニ權利ヲ取得スルモノナラズ其間ニ於テハ其事實範圍說明者ハ其事實ニ依リテ此學說
 ハ其創立以來年月ヲ經ルニシテ淺キニ以テ未タ全洲批難ナキ種屬ニ過ラズルモ
 ノナレトモ將來社団法人ノ基礎ト爲ル學說ハ之ヲ措キテ他ニ策ムルコトヲ得

第三節 折衷說
 第三節 折衷說ハ主ク折衷ニシテモ氏以ハ本所共ニテハ折衷立憲場合ニ
 單獨行爲若クハ綜合行爲ニ依リテ引受ヲ説明シ難ク漸次設置ノ場合亦引
 受ノ契約ナリト論スルニ依リテ引受ヲ説明シ難ク漸次設置ノ場合亦引
 受ノ爲メニスル契約トシテ説明シ難クニ拘拘シテ地方ニ之ヲ契約ノ綜合行爲
 トシテ兩性質ヲ具フルモ契約ヲ證明シ難ク故ニ念無依リテ考テハ株式ノ引受
 中ニハ會社ヲ設立シテ付テ引受ヲ爲メ綜合行爲ノ要素ヲ包含スルニモ
 拘ハラズ行爲ヲ確定スルニハ契約ノ形式以テ決然モ要ナリ且其時設立ノ
 ン故ニ是レ亦折衷說ノ一派トシテ見所ナリ得キキ由知テ折衷說ノ
 氏ノ折衷說ハ略同ニシテ見解ヲ採用スルニ相違ナシトモ云フ然レモ
 第三節 株金ノ拂込

及ヒ株主總會ノ召集ヲ必要トス之ニ反シテ漸次設立ノ場合ニハ會社ノ設立
 ニ付テモ尙キ此他ニ二ノ手續ヲ要ス即チ株金ノ拂込及ヒ創立總會是ナリ故ニ
 本節ニ於テハ株金ノ拂込ヲ説明シ次節ニ於テ設立ニ關スル總會ヲ説明スヘシ
 但金銀以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス場合ノ引受ハ固ヨリ株金ノ拂込ナ
 キコト前ニ述ヘタル所ナリ

登記ノ前提タルト成立ノ前提タルト同ハス設立ノ際拂込金キ株金額即チ
 第一同株金拂込額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ラサルコトヲ要シ額面以上ノ發行ノ
 場合ニハ其超過額中モ之ニ加テ額面ト額面ニ面シテ漸次設立ノ場合ハ株
 式ノ引受ノ後運轉ナリ各株式持主キ第何回ノ拂込ヲ發起人ヨリ請求スルコト
 ヲ要シ之ヲ拂込サレ引受人ハ該株式ノ發起人ハ之ヲ直接履行請求スルコト
 ヲ得ル以テ物論一定期間内(應)週間以上)其拂込ヲ爲スヘシ其期間内將
 之ヲ爲サザレバ其權利ヲ喪失スルヲ以テ引受人ニ通知スルコトヲ得ヘシ
 通知ヲ受ケテ尚モ拂込ヲ爲サザレバ其權利ヲ喪失シ發起人ヨリ地方官
 更ニ株主ヲ召集スルヲ得得ル地方官ハ失權者ニ對シ損害賠償ヲ請求スル

株主總會 株主總會ノ設立 株金ノ拂込

債權ノ種類ハ數種ハ五七條ヲ據テ之並ニ他ノ式附テ之モ其ノ種類ヲ定メテ之ヲ示スルハ
 債權ノ此等ノ規定附屬也此等ノ時設置設立ノ職務ニ專用シテ之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ
 多クテ債權ヲ存スル限リモ其ノ種類ニ依リテ之ヲ專用シテ之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ
 合併ノ取締後ニモ拂戻權限則シテ其種類ノ區別ハ但シ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スル
 迄ナリ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スルハ
 合併志田律師事務所中ニ於テ之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スル
 第一編章ノ末ニ於テ之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スルハ
 合併志田律師事務所中ニ於テ之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スル
 第一編章ノ末ニ於テ之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スルハ

商法會社

本會ニ於テハ對金ノ附屬ノ如ク之ヲ執行スルハ得ルモ否ヤ其種類ノ別ニ依リテ之ヲ執行スルハ

(三十六年度編纂)

商法會社

法學博士 志田鉦太郎講述

和佛法律學校

商法會社

商法會社

商法會社目次

緒論 一

第一章 會社ノ觀念 一
株式會社 無限會社 有限會社 合資會社 合名會社 兩合會社 責任有限公司 無限責任有限公司 會社ノ種類

第二章 私法組織ニ於ケル會社ノ位置 四
會社ノ種類 株式會社 無限會社 有限會社 合資會社 合名會社 兩合會社 責任有限公司 無限責任有限公司

第三章 會社ノ沿革 六
第一節 組合ノ沿革 六
 第二節 法人ノ沿革 七

第四章 現今諸國ニ於ケル會社法規 一六

第五章 會社法ノ適用及ヒ準用 二二

第二編 會社總論 二五

第一章 會社ノ意義 三三
第一節 會社ノ實體 三四
 第二節 會社ノ態樣 三八

商法會社目次

第三編 會社ノ法入格

第二章 會社ノ種類

- 第一節 單純組織會社及ヒ複雜組織會社..... 二二
- 第二節 有限責任會社無限責任會社及ヒ混合責任會社..... 二五
- 第三節 人倫會社及ヒ物的會社..... 二五
- 第四節 持分會社及ヒ株式會社..... 二六
- 第五節 總會ヲ有スル會社及ヒ之ヲ有セサル會社..... 二七
- 第六節 監事ヲ有スル會社及ヒ之ヲ有セサル會社..... 二九
- 第七節 検査役ヲ有スル會社及ヒ之ヲ有セサル會社..... 二九
- 第八節 現行商法ノ適用ヲ受タル會社及ヒ舊商法ノ適用ヲ受タル會社..... 二九
- 第九節 會社編ヲ第一法源トスル會社及ヒ特別法ヲ第一法源トスル會社..... 二九
- 第十節 設立ノ免許ヲ要スル會社及ヒ之ヲ要セサル會社..... 二九

第十一章

營業ノ免許ヲ要スル會社及ヒ之ヲ要セサル會社..... 三〇

第十二章

內國會社及ヒ外國會社..... 三一

第三章 會社ノ能力

會社ノ營業所..... 三二

第四章 會社ノ商號

會社ノ商號..... 三八

第五章 會社ノ登記

會社ノ登記..... 四〇

第六章 會社ノ成立、變更及ヒ消滅

會社ノ成立、變更及ヒ消滅..... 四三

第七章 株式會社

株式會社..... 四五

第三編 株式會社理論

株式會社理論..... 五〇

第二章 株式會社ノ意義

株式會社ノ意義..... 五三

株式會社ノ資本..... 五四

株式會社ノ株式..... 五八

第一節 資本ノ一部分トシテノ株式……………五九

第二節 株主資格又ハ株主權トシテノ株式……………六七

第三節 株式……………七二

第四節 株主名簿……………七三

第三節 有限責任……………七五

第三章 株式會社ノ設立……………七六

第一節 定款ノ作成……………七七

第一款 定款……………七七

第二款 定款確定者定款作成者……………七八

第三款 定款確定ノ方法(定款ノ作成)……………七九

第四款 定款確定ノ法律上ノ性質……………八〇

第二節 株式ノ引受……………八一

第一款 引受ノ主體……………八二

第二款 引受ノ形式……………八二

附注

第三款 引受ノ内容……………八四

第四款 總株式引受ノ確定……………八五

第五款 株式引受ノ法律上ノ性質……………八七

第三節 株金ノ拂込……………九〇

商法會社目次

民法ヲ商法人ニ關シテ規定シテ社團法人ニ對シテ規定スルハ其旨ヲ以テ其旨ヲ
 事由ト爲セルヲ以テ社員ハ一人ヲ爲リ得ルヲ爲ルニ當リ解散スルハ其旨ヲ以
 (民法第六八條)是レヲ以テ民法ノ社團法人ニ付テハ二人以上ノ結合ハ社團
 法人ノ設立要件ニシテ存続ノ要件ニ非サルコト明瞭ナリ之ニ反シテ商法第七
 十四條第五號ニ依リテ社員ハ二人ト爲ルル所ナラズ以テ合名會社ハ解散ノ事
 由ト爲ル商法第一百五條ハ此規定ヲ合資會社ニ準用スベキコトヲ規定ス商法第
 二百四十六條ニ於テ株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散スル
 旨ヲ規定セリ其他商法第二百一十一條第三號ニハ株主カ七人未滿ニ減シタル
 コトヲ以テ株式會社ノ解散事由ト爲セリ此等ノ規定ニ依リテ之ヲ觀レハ二人
 以上ノ結合ハ會社ノ設立要件タルノミナラス又其存続要件タルヲ明カナリ
 會社ヲ組織スベキ人ノ員數ハ會社ノ種類ニ從テ異同アリ合名會社合資會社
 株式合資會社ニ在リテハ最少數ハ二人ニシテ最大數ニハ制限ナシ商法ハ特
 ニ合名會社ニ關シテ社員ノ數ヲ二人以上七人以下ニ制限セリ(商法第七四條)
 株式會社ニ在リテハ社員ノ數ハ七人以下ナルコトヲ許サズ最大數ニ付テハ制

限ナシ(第一一九條)第二二一條參照)又ハ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ
 第二會社ノ商業ヲ營業コトヲ以テ目的トスルハ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ
 商法第四十三條ノ規定ニ商行為ヲ爲ル商業者ナル因テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ
 營業ヲ以テ目的トスルノ意義ナリ故ニ商行為ニ非サル行為ヲ目的トスル社團
 ハ會社ニ非ナルト同時ニ從令商行為ヲ爲スル目的トスルモ之ヲ營業ト爲スニ
 非ナレハ會社ト爲スヲ得ス故ニ商行為ヲ目的トスル當座組合ノ如キ會社ニ
 非ナルコト明カナリ商行為ハ商法第二百六十三條及七第二百六十四條ニ規定
 スル所ニシテ民事會社ト商事會社トヲ區別ハ商業ヲ營業ト爲ルニ在リ民法第
 三十五條ノ規定ニ依リテ營業ノ目的トスル社團ハ從令商業ノ目的ト爲ルモ
 ノト雖モ商法中會社ニ關スル規定ニ從ヒテ設立セルトキハ法人トシテ其旨ヲ
 以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ以テ其旨ヲ
 然レトモ此ノ如キ社團ハ唯會社法ノ支配ヲ受タルト云フニ止マリ之カ爲メ
 ニ決シテ會社ト爲ルベキモノニ非サルナリ商法ハ第五十條ニ於テ株式
 會社ハ其目的ハ商業ヲ營業ニ在ラザルニ在リ亦之ニ從令商事會社ト爲ルヲ規定

セリ獨逸商法第二百十條第二項ニモ亦之ト同ク規定アリ故ニ此條ノ法律ニ依ルトキハ全ク會社ニ非サルモノカ法律ノ力ヲ依リテ會社ト爲ルモ得ニシク又我新商法ノ規定トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノトスルニ至ルモ其趣ニ至ラズ

第三、會社タルニハ社團自身カ商業ノ主人タルコトヲ要スルモノナリトシテ多數ノ人相集リテ團體ヲ組成シ商業ヲ營ム場合ニ其商業カ團體員ノ共同事業タルモノト團體自身ノ事業タルモノトノ區別アリ商業カ團體員ノ共同事業タル場合ニハ或ハ商事上ノ組合ヲ組織スルコトアルモ會社ヲ成立スルコトナラ會社タルニハ其團體自身カ其商業ノ主人ナラサルヘカラス蓋意義ハ團體自身カ其事業ヨリ生スル總テノ法律上ノ結果ヲ享有スルモノトシテ其ノ要法トノ意義ナリ此點ハ會社ト組合ト異ナル要點ナリトシテ其趣ニ至ラズ

既ニ論スルコト能ハス法人ハ法律ヲ擬制ニ依リテ凡格ヲ取得スルモノトシテ立法者カ擬制ニ依リ凡格ヲ與ヘントスルモノハ各國必スシモ同一ナルニ非ス獨逸ノ商法ハ會社ヲ法人トスルヤ否ヤニ付キ明文ヲ設ケスシテ之ヲ學說ニ一

任セリ故ニ株式會社ヲ法人トスルコトニ付テハ學者間ニ殆ク異論ナシト雖モ合名會社合資會社ニ付テハ異論アリテ多數ノ學者ハ之ヲ以テ法人ニ非ストモ其詳細ハ後ニ論スル所アルヘシ我舊商法ニ於テハ會社ハ法人ナルヤ否ヤニ付キ明文ナキリシヲ以テ之ニ關シ疑義ヲ生シタリ新商法ハ第四十條第一項ニ於テ會社ハ之ヲ法人トスト規定シタルヲ以テ會社ノ法人ナルコトニ點ノ疑ナシ法律ヲ以テ會社ヲ法人トスルハ會社ヲシテ敏捷ナル行動ヲ爲スモノトヲ得ヘシメ之ニ依リテ商業ノ隆盛國運ノ伸張ヲ計ラントスルニ在リ

我商法ニ於テ會社ハ總テ法人ナリ其性質ハ組合ト大ニ異ナル故ニ會社ニ關スル法則ハ法人ニ關スル理論ヲ以テ解釋說明スヘキモノニシテ組合ニ關スル理論ヲ以テ解釋說明スヘキモノニ非ス惟フニ會社ト組合トハ同クハ經濟上ノ思想ニ基クモノニシテ多數人相團結シテ多數ノ財產ヲ集合シテ以テ共同ノ事業ヲ營ムヲ目的トス然レトモ道ハ經濟上ヨリ二者ヲ觀察シタルモノトシテ法律上ニ於テハ大ナル差異アリ蓋シ組合ハ組合員各自カ出資シテ共同事業ヲ營ムヲ以テ目的トスルモノニシテ組合員ハ互ニ此目的ヲ達スルニ會社種別ヲ權

利義務ヲ有ス組合ニハ組合財産アル是レ皆法律上ニ於テハ組合員ノ共同財產タルニ過キスシテ組合其モノノ所有ニ非ス組合員ハ共同事業ヨリ生ズル利益ノ配當ヲ受ケ組合ヲ解散スルトキハ組合財産ノ分配ヲ受クルコトヲ得ルモ是レ皆組合員各自ノ事業主タリ財產主タルヨリ生ズル結果ニシテ組合其モノヨリ與ヘラルルモノニ非ス組合事業ヨリ生ズル法律上ノ效果ハ總テ組合員各自ニ及フ之ヲ要スルニ組合ハ畢竟組合員間ノ法律關係タルニ過キスシテ組合其モノニ因リテ生ズルモノナルカ故ニ組合ノ法則ハ契約ノ法理ヲ以テ解釋説明スヘキモノナリ之ニ反シテ會社ハ社員ヲ離レテ獨立ノ存在ヲ保シ斷リ法人ナリ社員ハ會社ヲ設立スルニ付キ互ニ權利義務ノ關係ヲ有スルコトアルモ一旦會社カ成立シタル以上ハ會社ニ對シテ權利義務ヲ有スルニ止リ社員相互間ニ何等ノ關係ヲ存スルコトナシ會社ノ財產ハ社員ノ共同財產ニ非スシテ會社ノ專有財產ナリ社員ハ各自出資ヲ爲スモ其出資ノ目的ニ直接ニ會社ヲ所有ニ屬シ社員ハ之ニ對シ何等ノ權利ヲ有セス社員ハ利益ヲ配當受ケ會社解散ノ場

合ニ殘餘財産ヲ分配受ケ得ルモ是レ皆會社財産ニ對スル自己ノ權利ニ基クモノニ非スシテ會社ニ對スル對人的權利ノ作用ニ過キス會社事業ヨリ生ズル法律上ノ效果ハ總テ會社ニ歸屬シ社員ハ直接ニ關係ヲ有セザルヲ原則トシ夫レ此ノ如ク會社ト組合トハ其本質ヲ異ニス然ルニ世上往往會社ヲ以テ組合ノ一種ト如ク考ヘ會社ノ法則ヲ說明スルニ組合ノ法理ヲ以テスル者アルハ觀テレバノ甚シキ過スナリ左ニ會社ト組合トノ差異ノ重要ナルモノヲ舉グシテ示ス

(一) 會社ハ商業ヲ爲スヲ目的トシテ設立スルコトヲ得ルニ組合ハ商業以外ノ目的ノ爲メニモ亦設立スルコトヲ得ル

(二) 會社ハ自ら商業ノ主人ニシテ社員ハ然ラザルモ商事上ハ組合ニ在テハ各社員各自ノ商業ノ主人ナリ

(三) 會社ハ法人ナリモ組合ハ組合員間ノ法律關係ナリ

本章ヲ終ルニ臨ミ我國ノ立法上會社カ文字ニ關スル沿革ニ付キ一言ヲ述ズハ民法及法律案トシテ帝國議會ニ提出セラルタリトキ其第三編第二章第十

二節 興會社ノ規定ヲ爲シ其第三十五條出ル營利ノ目的トモ社團ハ商會社
 設立ノ條件ニ從ヒ之民法凡其爲者トテ得安云云規定以テ現行商法ニ規定
 セル會社ニハ商會社ナル名稱ヲ用ヒ現行民法ニ規定セル組合ニハ會社ナル
 名稱ヲ用ヒ以テ二者ノ區別ヲ爲サントセリ此ノ如ク組合ヲ以テ會社ト稱シ且
 商會社ナル名稱ヲ用ヒタル時代ニ在リテハ商會社ハ會社即ち組合ノ一種
 ナル如ク認メラレタルナリ是レ會社ノ法人論ニ付キ誤解ヲ來セル緣由ナルハ
 シ然ルニ帝國議會ハ民法ノ會社ナル名稱ヲ廢シテ之ニ代フルニ組合ナル名稱
 ヲ以テセリ而シテ此修正ヲ爲スト同時ニ民法第三十五條ニ用ヒタル商會社
 ナル文字ハ單ニ會社ト修正セラレヘキモノナラシニ事此ニ及ハナリシハ議會
 ノ過失ナリト謂ハサルヘカラス此修正ノ結果會社ト組合トハ全ク其名稱ヲ異
 ニシ自ラ二者ノ間ニ嚴密ノ區別ヲ異ナルモノト示スニ至リ也其詳會社ノ
 種類ニ於テ第二章會社ノ種類

第二章 會社ノ種類

會社ノ種類ノ標準ニ依リテ分類スル所トモ得商法第四十三條ハ會社ヲ分テ
 合名會社合資會社株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種ト爲セリ此分類ノ標準ハ
 社員カ會社ノ債務ニ對シ責任ヲ負擔スル程度ニ在リ合名會社ノ社員ハ會社又
 債務ニ付キ連テ連帶シテ無限ノ責任ヲ負擔シ株式會社ノ社員ハ總テ有限ノ責
 任ヲ負擔シ合資會社及ヒ株式合資會社ノ社員ハ其一部ハ無限ノ責任ヲ負擔シ
 他ノ一部ハ有限ノ責任ヲ負擔スルモノトモ第六三條第一〇四條第一〇五條第
 一四四條第二三五條第二三六條參照スル所トモ以テ分類スル所トモ以テ責任
 在ニ謂フ所ノ責任ナル語ヲ以テ外部ニ對スル法律上ノ責任ナル意義ヲ有スル
 モノトモハ無限責任有限責任ノ語ハ稍ヤ穩當ヲ缺クモノトモ蓋シ合名會社ノ
 社員ノ如ク會社ノ財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スル所トモ能ハサルトモ自己ノ
 全財産ヲ以テ債權者ニ對シ擔保ノ責任ヲ負シ其責任全ク無制限ナルカ故
 ニ之ヲ無限責任ナリト謂フハ正當ナルモ株式會社ノ社員ノ如ク會社ニ對シテ
 出資ノ義務ヲ負フニ止マリ會社ノ債權者ニ對シテ何等ノ責任ヲ有ササルモノ
 ニ至ラテハ之ヲ無限責任ト謂フコト不當ナリ故ニ有限責任及ヒ無限責任ノ語
 ニ正當ナル意義ヲ與ヘントモ社員ノ如何ナル程度ヲ其財産ヲ以テ會社事

業ノ危險ヲ冒サシムルカヲ以テ區別ノ標準ト爲シ之ニ依リ責任ノ有限無
限ヲ分タタルヘカ列テ各名會社ノ社員ハ其全財產ヲ以テ危險ヲ冒ス株式會社
ノ社員ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トシテ危險ヲ冒スモノナ
ラ若シ外部ニ對スル法律上責任ノ程度ヲ標準トシテ二者ノ區別ヲ爲サントセ
ル有有限責任ノ語ニ換フルニ無責任ノ語ヲ以テサタルヘカ要ス然レドモ
其他新商法ニ重要ナル會社ノ分類ハ内國會社及ヒ外國會社ノ分類是ナリ内國
會社ハ其設立營業其他一切ノ事項ニ付キ總テ我商法ノ規定ニ從フヘキモノ大
レトモ外國會社ハ然ラス外國會社ニ對シテ適用スヘキ法則ハ商法中第二編第
六章及ヒ第七章ニ之カ規定ヲ設ケタリ此分類ハ何ヲ以テ標準トスルヤ凡ソ人
ハ國籍ヲ有スルヲ以テ之ニ據リテ内國人及ヒ外國人ノ區別ヲ爲スコトヲ得ル
モ會社ニハ國籍ナルモノナシ商法第二百五十五條ニハ外國會社カ日本ニ支店
ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同
一ノ登記及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要ス下在オ茲ニ日本ニ成立スル同種ノモノ云
云下アルハ外國會社ニ對シテ内國會社ヲ言表ハ以テルモノナラカ故ニ日本ニ

成立スル會社ノ意義明カナルトキハ内國會社及ヒ外國會社ノ區別モ亦自ラ明
瞭ト爲ルヘシ予輩ハ日本ニ成立スル會社トハ日本ノ法律ニ從ヒ日本ニ於テ設
立セラレタル會社ヲ謂フモノト解釋ス蓋シ現今各國ノ法律カ會社ヲ種類ヲ限
定シ之ニ各特別ナル規定ヲ設ケルハ社會政策上ノ理由ニ基キタルモノニシテ
一國內ニ設立セラレル會社ハ皆其國ノ法律ニ從ハサルヘカラス若シ他國ノ法
律ニ從ヒテ會社ヲ設立スルコトヲ得ルモノトスルトキハ會社ノ種類ヲ限定シ
タル法律ノ規定ハ有名無實ト爲リ公益ヲ害スルニ至ルヘシ故ニ會社ノ種類ヲ
限定スル法律ノ規定ハ公益上ノ規定ニシテ内外國人ノ區別ナク皆之ニ從ハサ
ルヘカラス日本ニ於テ會社ヲ設立スルニハ日本ノ法律ニ從フコトヲ要シ外國
ノ法律ニ從ヒテ設立スルコトヲ得ス故ニ日本ニ於テ日本ノ法律ニ從ヒテ設立
シタル會社ハ即チ日本ニ成立スル會社ニシテ換言スレバ内國會社ナリ而シテ
内國會社ニ非サル會社ハ總テ外國會社ナリト謂フヲ至當トス此見解ハ現今各
國ノ法制ヲ論據トスルモノナルカ故ニ社會ノ變遷ニ依リ各國カ會社ノ種類ヲ
限定スルコトナキニ至リタルトキハ此論點モ亦自ラ影響ヲ受ケタルカカラス

日本ノ法律ニ從ヒ設立セラルル以上ハ日本ニ於テ設立セラルルト外國ニ於テ設立セラルルト同ハス總テ内國會社ナリトスルハ手置シ様ヲテ所ナリ又本店ノ所在地ニ依リ又ハ日本ニ於テ商法ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスルト否トニ依リテ内國會社及ヒ外國會社ヲ區別スルコト正當ニ非ニ第五條第二五八條參照

第三章 會社ノ設立

會社ノ設立トハ會社ナル社團法人ヲ成立スルヲ謂フ而シテ會社ヲ設立スルニハ一箇ノ行為ヲ以テ足レルモノアリ成ハ多數ノ行為ヲ必要トスルモノアリ會社ノ種類ニ依リテ同シカラス合名會社及ヒ合資會社ヲ設立スルニハ法律ノ要件トシテ唯定款ノ作成ヲ要スルノミ之ニ反シテ株式會社及ヒ株式合資會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作成スル外尙ホ多數ノ行為ヲ必要トシテ會社ヲ設立スルニ多數人ノ集合ヲ必要トスルコトハ言フ埃タナル所ニシテ定款ノ作成其他ノ行為ニ付キ之ヲ言フトキハ多數人ノ集合アルコトヲ前提トシテ論ズルモノナリ

之ヲ要スルニ會社ノ設立ニ個シ總テ會社ニ共通ナル要素ハ定款ヲ作成ナリ而シテ會社ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ登記ヲ爲スコトヲ要ス故ニ本章ニ於テハ先ツ定款ノ作成及ヒ登記ニ付テ説明シ次ニ設立ノ許可ヲ論シ終ニ設立行為ノ法理上ノ性質ヲ述ヘントス

第一節 定款ノ作成

合名會社及ヒ合資會社ヲ設立セントスル者ハ定款ヲ作成スルコトヲ要シ株式會社ノ發起人及ヒ株式合資會社ノ無限責任社員ト爲ラントスル者ハ定款ヲ作成スルコトヲ要ス(第四九條第一〇五條第一二〇條第二三七條參照) 定款トハ何ソヤ成ハ之ヲ以テ法律行為ナリト曰ヒ或ハ會社ノ規則ヲ記載シタル書面ナリト曰ヒ或ハ會社ノ基本タル規定ナリト曰フ予置ハ第三說ヲ以テ正當ナリト信ス蓋シ定款ヲ作成スルハ一ノ法律行為ナリ予置ハ見解ニ依レハ此行為ハ一ノ契約ナリ然レトモ定款作成ノ行為ト定款其モノトハ同一物ニ非ス定款ハ定款作成ナル法律行為ノ結果ナリ蓋シ定款ノ作成トハ會社ノ規則ヲ確

定スルコトヲ謂フ又定款ヲ以テ會社ノ規則ヲ記載シタル書面ナリト言フハ定款ノ形式ト實質トヲ混同シタルモノニシテ正當ニ非ス是レ猶ホ商法上開クハ商事ニ關スル去則ヲ揭ケタル書面ナリト言フカ如ク其說ノ誤レルコトハ多言ヲ要セス商法ニ定款ノ變更ト云フ語アリ是レ定款ニ定タル規則ノ變更ヲ即フモノニシテ書面其モノノ變更ヲ謂フニ非ス故ニ予輩ハ定款ノ正當ナル意義ハ會社ノ基本タル規則其モノヲ謂フト解釋セント欲ス而シテ此規則ハ書面ニ記載セラルルコトヲ要ス故ニ設立者間ニ於テ書面ニ依ラズシテ定タル規則アルモ是レ定款ニ非ス定款ノ重要ナルハ恰モ國家ニ憲法ノ重要ナル如ク會社ノ目的資本等會社カ法人トシテ獨立ノ存在ヲ維持シ活動スルコトヲ得ル要件ハ總テ定款ニ依リテ定マルモノトス是レ定款ニ書面ヲ必要トスル所以ナリ定款ハ會社ノ基礎ヲ確定スルモノニシテ會社ノ内部及ヒ外部ニ對シ法律上ノ效果ヲ發生スルカ故ニ定款ヲ作成スル行為ハ一ノ法律行為タルコトハ多言ヲ要セス而シテ商法ノ規定ニ依レハ會社ノ設立者ハ各自定款ニ署名スルコトヲ要ス故ニ定款ノ作成トハ數人ノ一致シタル意思表示ニ因リテ成立スル法律行

爲ニシテ一ノ契約ナリ隨テ契約ニ關スル法則ハ總テ之ニ適用セラル設立者中ニ錯誤又ハ詐欺若クハ強迫ニ因リテ意思ヲ表示シタル者アルトキ又ハ無能力者アリタルトキハ定款作成ノ行為ハ無効ト爲リ又ハ取消ニ因リテ無効ト爲リ其結果定款モ亦無効ト爲ルコトアルハ勿シ獨立設立者ニ關スル定款ヲ作成スルニ書面ヲ要スルコト前述シタルカ如ク尚ホ其他設立者ハ各自定款ニ署名スルコトヲ要ス又定款ニ記載スル事項ニハ必要事項ト任意事項トノ二アリ必要事項トハ之ヲ記載セサルトキハ定款ヲ無効トラシムルモノニシテ任意事項トハ之ヲ記載セサルモ定款ハ有效ニ成立シ唯之ヲ記載シタルト定款トシテ其效力ヲ有スルニ過キス必要事項ハ會社ノ種類ニ依リテ異動アリ尙ホ其詳細ハ本論ニ入りテ説明スヘシ第五〇條第一〇五條第一〇六條第二三〇條第二三七條參照スルニ由テ詳シク之ヲ論ズルニ當ルベシ

○條第二三七條參照スルニ由テ詳シク之ヲ論ズルニ當ルベシ

定款ノ作成ニ如何ナル效力ヲ生ズルヤ是レ會社ノ種類ニ依リテ異同アリ會社ヲ設立スルニ定款ヲ作成スルモノニ在リテハ定款ノ作成ハ其重要ナル效果トシテ會社ヲ成立セシムルニ至ラズ定款作成ノ外他ニ手續ヲ必要トスルモノ

ニ在リテハ此效力ヲ盡ス故ニ此點ヲ別ニシテ論ズルトモ定款ノ作成ハ總
 タリ會社ニ通シテ左ノ效果ヲ生ズルモノニ非ズハ其重要ナル
 第一會社ノ組織及ヒ活動ニ關スル事項ヲ確定スルニ關シテ其重要ナル
 ○第二會社ト設立者トノ間ニ權利義務ノ關係ヲ生ズ
 第一ノ效果ニ付テハ散テ説明ノ要ヲ見ス唯第二ノ效果ニ付テハ少シク説明ス
 定款ノ作成ニ因リ會社直チニ成立シテ設立者カ其時ヨリ社員ト爲ル場合ト定
 款ノ作成ノミニ因リテハ會社ハ未タ成立セズ隨テ設立者ハ直チニ社員ト爲ル
 トトテ得ザル場合トニ區別ナク定款ノ作成ハ設立者ト將來成立スヘキ會社ト
 ノ間ニ權利義務ノ關係ヲ發生ス例ヘハ設立者ハ定款ニ出資ニ關スル事項ヲ規
 定セルニ因リテ一定ノ出資ノ義務ヲ負ヒ會社ト設立費用及ヒ設立者ニ與フヘ
 キ報酬ニ關スル規定ヲ爲スニ因リテ會社ト設立者ニ對シ義務ヲ負フガ如シ設立
 者ノ行爲タル定款ノ作成カ會社ヲシテ權利ヲ有セシメ義務ヲ負フガ如シ設立
 者ノ行爲理由ニ因ルモノナルヤ惟フニ設立者ハ會社ノ代理人ニ非ス又其行爲ハ

第三者ト爲ルニ非ズ行爲ニ非ズ然レテ換言ス置定款ノ作成ハ總上ノ事
 果生ズルハ一ニ法律ニ規定ス因テ其效力ヲ得ル而シテ法律カ此數
 果ヲ規定セザルハ設立者ハ其能力ヲ認受スルモノトシテ設立者ハ會社ト設立
 者ハ其能力ヲ認受シ又其生存條件ヲ定メ其能力ヲ有スルモノトシテ其當然ノ
 責任ヲ負フトス

第二節 設立ノ登記

商法ノ規定ニ依リテ合名會社及ヒ合資會社ハ定款ヲ作成ニ因リテ成立シ株式
 會社ハ或ハ發起人及總オノ株式ヲ引受タルニ因リ或ハ創立總會ヲ締結ニ因リ
 成立シ株式合資會社ハ創立總會ヲ締結ニ因リテ成立ス然レトモ會社ト其設
 立ヲ以テ第三者ニ對抗スルニ非ズ登記ヲ爲スロトテ要ス是レ蓋シ會社ハ自然人
 ト如ク形骸ヲ有スルモノニ非ザルヲ以テ登記ノ方法ニ依リテ其存在ヲ明カニ
 シ廣ク公衆ニシテ會社ト組織ヲ知ラシムル必要アルニ由ルモノトス(第四五條)
 我商法ノ主義ニ依リテ登記ハ會社ト設立ヲ第三者ニ對抗スルニ必要ナルニ關

非ナリモ外國ノ法律ニ準テ登記ヲ以テ會社成立ヲ要件ト爲スモツテ獨逸國
 法カ株式會社ノ設置ニ關シテ採擧スル所ノ如シテハニ山ノニ(第四)正社
 登記ヲ爲スヘキ者ハ何人ナレヤハ非訟事件手續法ヲ規定セリ同法第百七十九
 條ニ依レハ合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ヨリ申請スルキモノニシテ同法第
 百八十五條ニ依レハ合資會社ノ設立ノ登記ハ總タル無限責任社員ヨリ申請ス
 ヘキモノナリ又株式會社ニ在リテハ總タル取締役及ヒ總タル監査役ヨリ申請ス
 ル株式合資會社ニ在リテハ總タル無限責任社員及ヒ總タル監査役ヨリ申請ス
 ヘキモノトス非訟事件手續法第一八七條第一九六條參照若シ登記申請ノ義務
 アル者之ヲ忘リタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ(第二六一條
 第一號)

會社設立ノ登記ハ會社ノ本店所在地ノ裁判所ニ備附シタル商業登記簿ニ登記
 スル所ナリ故ニ支店ノ所在地ニ於テ登記スルモノモ以テハ設立登記ノ
 效果ヲ生スルコトナリ是レ以テ支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スルコトヲ要セ
 スト云フ意味ニ非ナルニト特ニ注意ヲ要ス會社ノ設立ノ登記ハ本店及ヒ支店

ノ所在地ニ於テ爲スルキニテナレトモ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ唯
 本店ノ所在地ニ於テ登記スルヲ必要トスルヲ(第四)五條第五(七)條第一〇七條、
 第一四一條第二四二條)ニ依リテ同法ニ合致スル登記簿ニテ之ヲ要ス其期間ハ二
 週間ニシテ始期ハ登記ノ種類及ヒ會社設立ノ方法ニ依リテ異ナル(第五)一條第
 一〇七條第一四一條第二四二條參照若シ其期間内ニ登記セザルトキハ過料ノ
 制裁アレトモ其期間經過後ト雖モ登記ヲ許サザルモノニ非ス申立(第六)條
 登記スヘキ事項ハ會社ノ種類ニ依リテ異同アリ又其事項ニ對テ對的登記事項ト
 相對的登記事項トニアリ相對的登記事項トハ合名會社及ヒ合資會社ニ在リテ
 ハ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名株式會社及ヒ株式合資
 會社ニ在リテハ開業前ニ利息ヲ株主ニ配當スルキニテ定メタル利益額其利
 率及ヒ總タル種類ノ會社ニ通スル會社ノ存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタル
 トキハ其存立時期又ハ解散ノ事由ノ如キ是レ大體同六條(第七)條(第八)條
 今設立登記ノ效力ヲ舉タルニ左ノ如シ(第九)條(第十)條(第十一)條(第十二)條

十一 會社ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシム(第四五條)
 十二 開業ノ準備ニ着手スルコトヲ得セシム(第四六條)
 十三 登記後一定ノ期間内ニ開業ヲ爲スコトヲ要ス(第四七條) 前山
 以上ハ總テノ種類ノ會社ニ共通ナル效力ナリ此外株式會社及株式合資會社
 ニ特別ナル登記ノ效力アリ即チ左ノ如シキハ其別當對其合資會社ニ對シテ
 十四 株式會社ノ發行ヲ爲スコトヲ得第一四七條(合資會社) 合資會社ニ對シテ
 十五 株式ノ讓渡又ハ讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得第一四九條(前山) 株式會社
 十六 株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ヲ原因トシテ其株式引受ノ申込ヲ取消スル
 一トヲ得ス(第一四二條) 前山
 商法第四十五條ハ第三者ニ對スル會社設立ノ效力ニ付キ規定セズ然レモ其
 故ニ會社ト社員トノ間ニ於テハ登記ナキニ因リ設立ノ效力及ビ社務登記
 ナキヲ理由トシテ出資ヲ拒ムコトヲ得ナルト同時ニ會社モ亦登記ナキコトヲ
 理由トシテ設立費用ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得ス又登記ナキ會社ハ其設立ヲ第三者
 ニ對抗スルニ必要ナル條件ニシテ第三者ハ會社ニ其設立ヲ對抗スルニ必要ナ

ル條件ニ非ス之ヲ以テ會社カ登記以前ニ第三者ニ對シテ法律關係ヲ生シタル
 場合ニ於テハ未ダ登記ナキヲ以テ理由トシテ第三者ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ナ
 ルナリ(前山) 前山
 尙ホ設立ノ登記ニ關シテ説明スヘキ點二つあり即チ第三者ニ對シテ登記
 ナキヲ登記ヲ要スルコト及ヒ登記ノ效力ハ公告ヲ待テ生ズルマド是ナ
 リ(前山) 前山
 會社設立ノ登記ハ商業登記ノ一ナリ商業登記ノ總則ヲ定メタル商法第十二條
 ノ規定ニ依リハ登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非ズレハ之ヲ以テ善意
 ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルヲ原則トス會社ノ設立ノ登記ハ此原則ニ一
 ノ例外ヲ爲スモノニシテ會社ハ第三者ノ惡意ナル場合ニ於テモ登記ナキ以上
 ハ其設立ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス但第三者ニ於テ會社カ設立ヲ認メタ
 ルトキハ此限ニ在ラズ會社ノ設立ノ事實ヲ不知シテ承購スル者トハ法律上其
 效果ヲ異ニスルモノナリ會社カ設立ヲ認メ之ト取引又爲シタル場合ニ於テ登
 記ナキコトヲ理由トシテ其設立ヲ爭フコトヲ得サルハ當然ノ理トナリ

トス例ハ登記前ニ於テ會社ヲ第三者ト營業上ノ法律行為ヲ爲ス方如シ此場
 合ニ於テハ第三者ハ會社ヲ設立ヲ認メ取引ヲ爲シタルモノナルカ故ニ後日之
 フ争フコトヲ得ス若シ然ラヌトモシカ第三者ハ自己ノ權利ニ付テハ會社ヲ已
 ニ成立シタルモノト看做シテ之ヲ主張シ義務ニ付テハ未タ成立セザルモノト
 シテ其履行ヲ免ルルニ至リ理論上決シテ許スヘキモノニ非ス會社ハ登記前ニ
 於テ營業ヲ爲スコトヲ得ナルハ法律ノ命スル所ナリト雖モ其禁止ニ違反シテ
 爲シタル行為ノ效力ト禁止違反ノ效力トハ自ラ別問題ニシテ會社ヲ業務執
 行者ハ之カ爲メ過料ノ制裁ヲ受タルモ行為其モハ決シテ無効ニ非ナルナ
 リ

商法第十二條ノ規定ニ依レテ商業登記ノ效力ハ公告ヲ待テ發生スルコトヲ
 原則ト爲セリ登記アルモ公告ナキトキハ其登記事項ヲ以テ第三者對抗アル
 コトヲ得ス會社ノ設立ハ此原則ニ對シ一ノ例外ヲ爲スモノナリ會社ノ設立ハ
 登記アルヲ以テ足り公告ヲ後ニ非ザルハ之ヲ以テ第三條ニ對抗スルコトヲ得
 ナルモノニ非ス公告ハ登記ヲ後運攝シテ裁判所ニ對テ之ヲ爲シ得ルモノナリ

非訟事件手續法第百四十四條ニ依リテ登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞
 紙上ニシテモ一回之ヲ爲スルコトヲ得ルニ因リテ裁判所ニ於テ其事業ハ
 開始スルニ至ルニ至リ

第三節 設立ノ免許

會社ヲ設立スルニハ官廳ノ許可ヲ必要トスルコトヲ民法ニ規定スル所ノ法人ニ該
 有テ目的トスル社團法人ヲ除キ其他ハ官廳ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス商法
 ニ於テハ株式會社ニ限リ設立ニ官廳ノ免許ヲ必要トスル旨ヲ規定シタルトモ
 舊商法第一五六條新商法ハ此規定ヲ廢止シ總テ會社ノ設立ニ付テハ自由主義
 ヲ採用セリ故ニ苟モ法律ニ規定ニ從テ以上ハ自由主義ヲノ種類ノ會社ヲ設立
 スルコトヲ得各名會社及ヒ合資會社ニ付テハ其設立ノ免許ニ關シ從來議論ナ
 カリシト雖モ株式會社ヲ設立ニ付テハ種種ノ主義行ハル途ニ今日ニ至リテハ
 モノナリ其詳細ハ株式會社ヲ編ニ於テ說明スルニ任セズ

才ル者後者ニ在ラテ兩官廳ニ免許ヲ得ル會社ハ成立シ唯其事業ヲ營ル者
 特ニ許可ヲ必要トスル者ニ故ニ其開業前ニ於テ營業ノ許可ヲ得ルヲ以テ足
 登記其他ノ手續ヲ爲スルハ此免許ノ付タラズ必要トセス我法律ニ於テモ合名
 會社及ヒ合資會社ニ付テハ此理論ニ從ヒ設立ノ免許ト營業ノ免許トヲ區別セ
 リ然ルニ非訟事件手續法第百八十七條及ヒ同法第百九十六條ノ規定ニ依リテ
 株式會社及ヒ株式合資會社ハ官廳ニ免許ヲ受クヘキ事業ヲ目的トスルトキハ
 其設立ノ登記ノ申請ヲ爲スニ當リ申請書ニ其免許書又ハ認股ノ原簿ヲ添附
 スルコトヲ要スルカ故ニ此等ノ會社ハ登記以前ニ於テ營業ノ免許ヲ受クタル
 へカラズトスルニ非關該人々細ク其前ニ官廳ノ裁可ヲ受クヘキコトハ
 會社ヲ營業ノ免許又取消サレタル者ハ如何ナル效果ヲ生スル商法第七
 四條第二號ニ會社ノ目的タル事業ノ成功ノ不能ヲ以テ會社解散ノ事由トセリ
 免許ヲ要スル事業ヲ目的トスル會社カ其免許ヲ取消サレタルトキハ其事業ノ
 成功ノ不能ヲ來スモノトセリ以テ會社ハ之ニ因リテ解散セタルヘカラス(第七
 四條第一〇五條第二四六條)

第四節 設立行為ノ性質

會社ヲ設立スルニ人ノ行為ヲ必要トスルコトハ前述シタル所ニ據リ説明セシトスル所
 ナリ此行為ハ法律上如何ナル性質ヲ有スルヤ是レ本節ニ於テ説明セシトスル所
 ナリ茲ニ其性質ヲ論ズルニ先ツ合名會社ノ設立ニ付テ之ヲ論ゼン此會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作成ス
 先ツ合名會社ノ設立ニ付テ之ヲ論ゼン此會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作成ス
 ルコトヲ要ス其定款ニ記載スヘキ事項ヲ見ルニ其目的商號社員氏名住所本店
 及ヒ支店ノ所在地社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準是ナリ第五〇條
 此等ノ事項ヲ確定スルニキハ一方ニ於テ會社ハ其組織ニ必要ナル元素ヲ具備
 シ他方ニ於テハ社員ト爲ラント欲スル者ノ意思モ亦十分ニ發表セラレテ餘
 所ナシ是レ商法カ合名會社ヲ設立ヲ以テ定款ヲ作成ト同時ニ其效力ヲ生ズル
 モトト定メタル所以ナリトス而シテ定款ヲ作成ハ設立者カ會社ヲ設立ヲ以テ
 目的トスル所ノ一致シタル意思表示無シテ其契約ナルトハ既ニ前述シタル
 如シト然レ合名會社ヲ設立スル行為ヲ以テ一ノ契約ナリト論ズルコトハ正當

六三ト信ス合資會社ノ成立ニ於テハ、
 次ニ合資會社ニ付テ研究スルニ此會社モ亦合資會社ト同シテ定款ヲ作成シ、
 ニ因リテ成立スルヲ以テ設立行爲ノ性質モ亦合名會社ノ設立行爲ト同シク一
 ノ契約ナリト認テ以テ至當ナリトス然レハ株式會社ノ行爲ハ如何ニシテ
 困難ニシテ而シテ其困難ナル所以ハ株式會社ノ設立ハ定款作成ノ外他
 ノ手續ヲ必要トスルノ點ニ存ス予輩ハ株式會社ノ設立行爲モ亦一ノ契約ナリ
 ト謂フヲ至當ト認ム以下其理由ヲ説明スヘシ
 株式會社ヲ設立スルニ發起人カ總テハ株式ヲ引受タル場合ト然ラサル場合ト
 アルコトハ既ニ説明シタル所ニシテ發起人カ總テハ株式ヲ引受ケタル場合ニ
 ハ會社ハ之ニ因リテ成立ス而シテ發起人ハ皆會社ノ設立ヲ目的トシテ定款ヲ
 作り且株式ヲ引受ケ爲スカ故ニ其意思ハ互ニ一致シ其一致ノ意思表示ハ
 同リテ會社成立スルモノナリ故ニ此場合ニ於ケル株式會社ノ設立ヲ以テ契約
 ナリトスルハ毫モ不法ニ非ス然レトモ發起人カ總テハ株式ヲ引受ケタル場合
 ニ於テハ其關係甚ク錯雜ト爲リ之ヲ明カニスルコト容易ノ業ニ非ス此場合ニ

ハ發起人ハ其引受ケタル株式ヲ付テ株式ヲ募集スルコトヲ要シ株式主ノ募集其
 數ヲ奏シ總テハ株式ヲ引受ケタル者ト會社株式引受人トシテ第一回ノ締込ヲ
 爲サシメ續キテ創立總會ヲ召集シ其總會ニ於テ會社ノ設立スヘキコトヲ議決
 シタルトキ會社ハ之ニ因リテ成立ス先ツ發起人相互間ノ關係ニ付テ觀察スレ
 ハ發起人ハ會社ノ設立ヲ目的トシテ定款ヲ作り株式ヲ引受ケ株式主ヲ募集シ創
 立總會ヲ召集シ其他會社ノ設立ニ必要ナル行爲ヲ爲スモノナルカ故ニ其間意
 思ノ一致アルコト明カナリ又發起人ト株式引受人トノ間ニ於テハ株式引
 受ニ關シ一ノ契約成立シ其契約ハ會社ノ設立ヲ以テ目的トスルカ故ニ發起人
 及ヒ株式引受人ノ間ニ意思ノ一致アルコトヲ認ムルニ難カラス然レハ株式引
 受人相互間ニハ意思ノ一致アルコトヲ否ヤ惟クニ株式引受人ハ各自發起人ニ對シ
 株式引受ノ意思表示ヲ爲スモノニシテ他ノ株式引受人ニ對シ何等ノ意思ヲ表
 示スルモノニ非サルカ如シ然レトモ信ク其關係ヲ探究スルトキハ其然ラサル
 コトヲ發見スヘシ抑モ株式引受ノ申込ヲ爲ス者ハ株式引受人ト爲リ會社ヲヤ
 ク成立スルニ至ラシメントスル意思ヲ表示スルモノナラ故ニ發起人ハ在リテ

設立者ニシテ株式引受人ハ從タル設立者ナラト謂フヲ得ルシテ此等ノ設立者ハ創立總會ヲ招集シ議決權ヲ行ヒ以テ會社ヲ以テ成立セシムル也又ハ成立セシムルカラタルカヲ議決スルモノニシテ其創立總會ノ決議ハ多數決ニ依リテ之ヲ爲スモノナリ故ニ會社ノ設立ニ反對ノ意見ヲ發表シタル者ト設立ニ賛成ノ意見ヲ發表シタル者トノ間ニハ設立ニ關スル意思ノ一致ヲ缺キ又總會ニ出席セタル者トノ間ニモ合意ニ成立セタルカ如ク然リト雖モ會社ノ設立ニ反對ノ意見ヲ有スル者ト雖モ創立總會ノ決議ニ羈束されテ反對ノ意見ヲ發表シタルコトヲ理由トシテ株式引受ヲ取消スルコトヲ得ル也當初株式引受ノ意思ハ此結果ヲ豫期スルモノニシテ此結果ヲ生シタルカ爲メ會社設立ノ意思ヲ失フモノト謂フヲ得ル也之ヲ全體ノ上ヨリ觀察スレバ株式引受人ノ會社ヲ設立セシトスル意思ハ株式引受ノ申込抹金ヲ拂込及ヒ創立總會ノ決議ニ依リテ且完全ニ表示セラルルモノト謂フナラハカクハ換言スヤハ創立總會ニ於ケル株式引受人各自ノ意見ヲ發表シ會社ノ設立ニ關スル意思ヲ表示ト認ムルモノニ非スシテ其議決ヨリ株式引受人全體ノ意思ヲ表示スルモノト謂フナリ

總會ニ出席セタル者モ亦之ト同シテ多數ノ決議ニ服從セシムル意思ヲ有スルモノト認メタルハカラス之ヲ要スルニ株式引受人相互間ニ於テモ亦會社ヲ設立ヲ目的トスル意思ノ一致アルコトハ認メ得ヘキモノニシテ株式會社ハ發起人及ヒ株式引受人全體ノ一致シタル意思表示ニ因リテ成立スルモノト謂フ可決シテ不當ニ非サルヘシ

株式會社ノ設立行為ニ付キ説明シタル所ハ株式合資會社ノ設立行為ニ付テモ亦當フコトヲ得ルカ故ニ此會社モ亦無限責任社員及ヒ株式引受人ノ一致シタル意思表示ニ因リテ成立スルモノト謂フコトヲ得ル也

以上説明シタル所ヲ略言スレバ會社ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ總テ設立者ノ一致シタル意思表示ニ因リテ成立シ其行為ハ一ノ契約ナリト云フニ歸著ス

第四章 會社ノ住所

住所ハ法律上重要ナル關係ヲ有スルモノニシテ人々普通裁判權ハ住所ニ依リテ定マル又住所ハ義務履行ノ場所ト爲リ其他沙外的法律行為ニ付テハ重要ナ

ル關係ヲ有スルハ其生活ノ本據ヲ以テ住所トスルコトハ民法第二十一條ノ規定スル所ナリ法人ニハ生活ノ本據ナシシテ以テ民法ハ法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ以テ其住所ト爲セリ(民法第五〇條)會社ハ商業ヲ營ムルヲ以テ目的トスル所ノ法人ナリ故ニ其商業ノ本據ヲ以テ會社ノ住所トスルコト至當ナリト認ムル商法第四十四條第二項ニ於テ會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノトシテ規定セル所以ナリ固シキ獨立法人ノ地位ヲ得ルモノトシテ會社ノ住所ノ規定ハ會社ハ數箇ノ營業所ヲ有スルコトヲ得一箇人タル商人ハ數箇ノ營業所ヲ有スル場合ニ其本店及ヒ支店ヲ區別スルコトハ稍々困難ニシテ之ヲ識別スルニテ事實上ノ調査ヲ爲ササルヘカラス然ルニ會社ニ在リテハ本店及ヒ支店ノ所在地ハ定款ニ記載スヘキ絶對的必要事項ナリ故ニ其本店及ヒ支店也定款ニ記載スルハ容易ニ識別スルコトヲ得ヘシ(商法第一〇條參照)商人ノ地位ハ會社ノ民事訴訟法第十四條第二項ハ法人ノ普通裁判籍ヲ以テ事務所ノ所在地ニ在ルモノト規定セリ然レトモ商法附本店ノ所在地ヲ以テ會社ノ住所ニ定ムルモノト

規定スル以上會社ノ普通裁判籍ハ其住所ニ依リ決定スルモノトシテ決テルルハ故ニ民事訴訟法第十四條第二項ノ規定中會社ニ關シテ部分ハ殆ト無業ト歸シタルモノト謂ハサレハカ及ヒ民事訴訟法第一〇條參照)商人ノ地位ハ會社ノ本店以上ノ如ク其住所ヲ定ムルハ重要ナルモノトシテ其他種種ノ點ニ於テ重要ナル關係ヲ有スル例ニシテ會社ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルハ本店ノ所在地ニ於テ登記スルコトヲ要シ合名會社及ヒ合資會社ノ退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付責任ヲ負ヒ又株式會社ノ取締役及ヒ株式合資會社ノ無限責任社員ハ株主名稱及ヒ社債ノ原簿ヲ本店ニ備附スルコトヲ要スルハ如シ第四十五條第七三條第一七一條參照)

第五章 會社ノ營業

會社ハ商業ヲ營ムルヲ以テ目的トスル所以社團法人ナリ其營業ハ商業ナラザルハカラス或ハ商業ヲ營ムル會社設立ノ要件ニシテ會社存續ノ要件ニ非サルモノ如ク論スル學者其理由ヲ見ルニ會社ハ法定ノ手續ニ從ヒ定款ヲ變更

スル所ト得而事不其定款之變更ハ法律如何等ノ制限カレテ始メテ會社
ヲ設立スルニテ商業ヲ營ムヲ以テ目的トスルコトヲ要スルモ且設立シ
ル以上ノ定款變更ノ手續ニ依リテ商業以外ノ事業ヲ目的トスルモノト得トテ
兼ハ此說ニ從スル能ハス以下其反對ノ理由ヲ説明スヘシ

(二) 民法第三十三條ノ規定ニ依レハ法人ハ民法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非
テオレハ成立スルコトヲ得ス而シテ同法第三十四條ハ宗廟宗教慈善學術技藝
其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニテ營利ヲ目的トセザルモノヲ法人トシ
ルニ主務官廳ノ許可ヲ受タルコトヲ要スル旨ヲ規定シ第三十五條ハ營利ヲ
目的トスル社團ヲ法人トスルニハ會社ニ關スル規定ニ從フヘキコトヲ定シ
第三十六條ハ外國ノ關行政府區畫及ニ商事會社ヲ法人トスルコトヲ規定シ第
三十七條以下ニ於テ社團法人及ヒ財團法人ノ設立行動及ヒ消滅ニ關スル規
定ヲ爲シタリ會社ハ商法第四十二條以下ノ規定ニ從ヒテ法人ト爲スコトヲ
得ル社團ナリ唯會社ト設立者ノ意思ニ因リテシテ當然法人タルコトヲ民法
ニ規定セザル社團法人ト異ナル所アルヲ以テ民法及ヒ商法ニ規定セルモノヲ外

他ノ法律ノ規定ニ依リテ法人ト爲ルモノ數多ク且市制町村制ニ依リテ市町村
カ人格ヲ有スルカ如キ重要輸出品同盟組合法ニ依リテ其組合カ法人ト爲ルカ
如キ又保險業法ニ依リテ相互會社カ法人ト爲ルカ如キ即チ是ナリ夫レ此ノ如
ク法人ハ法律ノ規定ニ依ルニ非ザルニテ成立スルコトヲ得ザルモノニシタ之
ヲ立法ノ方面ヨリ觀察スルニキハ種種ナル社團及ヒ財團ヲ法人トスルニハ
各其手續ヲ異ニスル必要アリト認メ或ハ民法或ハ商法或ハ其他ノ法律ニ於
テ其成立ニ關スル規定ヲ爲シタルモノナリ故ニ此等ノ規定ハ各獨立シテ決
シテ互ニ混淆スルコトヲ許オザルモノト謂ハサルニカラス今會社ハ商法ノ
規定ニ從ヒテ設立スルコトヲ得又商法ノ規定ニ從ヒテ法人タル資格ヲ取得
スルモノナリ而シテ商法第四十二條ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トスル所ノ社
團ヲ會社ト稱シ第四十四條第一項ハ之ヲ法人ト爲シタルヲ以テ觀レハ商法
ノ精神ハ商業ヲ營ムヲ目的トスル所ノ社團ヲ法人トスルニ在リテ商業以外
ノ目的ヲ有スル社團ハ他ノ法律ニ於テ之ヲ法人トスルハ格別商法ニ於テ之
ヲ法人トスルモノニ非ズルヲ解スルヲ至當トス果シテ然ラハ定款ノ變更ハ會

社ノ本質ヲ害セザル範圍内關於タラシク得ルモ、ニシテ會社ノ目的ヲ變更シテ商業以外ノ事業ヲ營ムモ、スト爲スコトヲ得ザルハ多言ヲ要セズ。若シ定款ヲ變更シ無効トシ之ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ會社ノ目的ヲ變更シテ商業以外ノ目的ヲ爲スコトヲ得トスルハ商業以外ノ目的ヲ有スル社團ヲ法人トスルニ付キ種種ナル規定ヲ設ケタル他ノ法律ハ之カ爲メニ破綻セラルレ法人ニ關スル法律ノ規定ハ支離滅裂スルニ至ルヘシ例ヘハ會社ノ目的ヲ變シテ民法第三十四條ニ規定セル公益ニ關スル事業ト爲スカ如シ此等ノ事業ヲ目的トスル社團ハ其成立ニ主務官廳ノ許可ヲ必要トスルニ拘ハラズ會社ノ定款變更ノ手續ニ依ルトキハ主務官廳ノ許可ヲ要セスシテ法人トシテ存在スルコトヲ得ルニ至ル此ノ如キ結果ヲ生スルハ解釋ノ正鵠ヲ得タルモノニ非ザルヘシ之ヲ要スルニ法人ハ法律ノ規定ニ依リテ成立スルモノニシテ法律ハ社團ノ種類ニ依リテ法人トスル手續ヲ異ニスルカ故ニ商法ノ規定ニ依リテ人格ヲ取得スル所ノ會社カ其目的ヲ變更シテ他ノ法律ニ於テ法人トスル社團ノ目的ヲ爲ル會社ノ實質ヲ變更シテ他ノ種類ヲ法人ト爲ス

ハ法律ノ解釋上爲シ能ハサル所ナリト謂フテ至當トスルハ、第五ノ條ニ於テハ、(1) 會社ノ目的トハ會社設立ノ目的トシテ異ナルモノヲ會社ノ目的トシテ其經營スル所ノ事業ヲ謂ヒ會社設立ノ目的トハ商法カ會社ト稱スル社團ノ設立ヲ必要トスル目的ヲ謂フ會社ノ設立行爲ヲ以テ一ノ法律行爲ナリトシレハ設立ノ目的ハ其法律行爲ノ目的ニシテ會社ノ目的ハ其法律行爲ノ結果トシテ生シタル社團法人ノ目的ナリ抑モ法律行爲ハ其目的ニ依リテ確定シ其目的ノ變更ハ法律行爲ノ效力ヲ消滅セシムルコト一般ノ原則ナリ例ヘハ買賣ト貸借ト異ナルハ其目的ノ異ナルニ由リ買賣ヲ變シテ貸借ト爲スコトヲ得サルカ如シ定款ノ變更ハ會社ノ基本タル規則ノ變更ニシテ會社ノ設立行爲ノ目的ヲ變更スルモノニ非ス設立行爲ノ目的ヲ變更セハ會社ハ之ニ因リテ消滅セザルヘカラス商法第四十二條ハ商業ヲ營ムヲ以テ會社設立ノ目的トモテ故ニ會社ノ目的タル事業ノ變更ハ定款變更ノ手續ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ルモ其變更ハ會社設立ノ目的ニ牴觸セザル範圍内ニ就テノミ之ヲ爲スコトヲ得換言スレバ目的タル事業ノ變更ノ爲メニ會社ヲシテ商業ヲ營ムモノニ非ナ

ル社團ト爲スヲ得ズ非シテ個人ノ團體トシテハ其ノ目的タル事業ニハ之ヲ營ムニ官廳ノ許可ヲ要スル事業ハ其許可ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得サルト同時ニ一旦許可アリテモ後之ヲ取消サレタリトキハ以後之ヲ營ムコトヲ得ス而シテ會社ハ其事業ヲ營ムニ官廳ノ許可ヲ必要トスルト否トヲ問ハズ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ開業ノ準備ニ着手スルコトヲ得ス(第四六條)況ヤ開業スルニ於テラヤ若シ會社ノ業務ヲ執行スル者亦此禁止ニ背キテ開業シ又ハ開業ノ準備ニ着手シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ(第二六一條)第五號而シテ此禁止ニ違反シタ爲シタル行爲ノ當然無効ニ非サルコトハ既ニ一言シタル所ナリ漏遺商法ノ規定ニ依ルハ株式會社ノ設立登記前ニ於テ會社ノ名ヲ以テ爲シタル行爲ニ付テハ行爲者カ其責ヲ負ハサルヘカラス是レ漏遺商法ハ登記ヲ以テ株式會社ノ成立要件ト爲シタルカ故ニ登記前ニハ會社ナルモノ絕對的ニ存在セザルカ故ナリ我商法ハ登記ヲ以テ會社成立ノ要件ト爲サズ唯之ヲ以テ第三者ニ會社ノ設立ヲ對抗スルニ

必要ナル條件ト爲セリ而シテ第三者ニ登記前ニ於テモ會社ニ對シテ其設立ヲ對抗スルコトヲ得ルカ故ニ登記前ニ於テ會社ト取引スル爲シタルトキハ其行爲ハ當事者雙方ニ對シテ有效ニ成立スルコトヲ得或ハ商法第四十六條ハ公ノ秩序ニ關スル規定ニシテ之ニ反スル目的ヲ有スル法律行爲ハ絕對的ニ無効ナルカ如キ觀アリ然リト雖モ予輩ハ此規定ヲ以テ公ノ秩序ニ關スルモノニ非スト信ス假ニ公ノ秩序ニ關スルモノナリトスルモ登記前ニ爲シタル法律行爲ハ公ノ秩序ニ反スルコトヲ目的トスルモノニ非ス何トナレハ法律ヲ禁止スル所ノモノハ登記前ニ於ケル營業ニシテ法律行爲其モノニ非サレハナリ(第五七條)會社ハ登記後一定ノ期間内ニ開業スルコトヲ要ス商法第四十七條ニ依レハ其期間ハ六箇月ヲ以テ原則トス然レトモ事業ノ性質ニ依テ六箇月内ニ開業ヲ爲スコトヲ得サルモノアリ此ノ如キ事業ヲ目的トスル會社ニ之ヲ強制スルハ正當ナラス其他正當ナル事由ニ因リテ六箇月内ニ開業スルモノト能ハサル場合ニ限リ裁判所ハ會社ノ請求ニ因リテ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得其請求ノ手續及ヒ裁判ニ關シテハ非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三百三十四條第二

項第三百三十五條ニ規定セリ第四七條(第三百二十六條第一項)第三百三十四條(二)會社カ法定ノ期間内若クハ裁判ニ由リテ定マリ其期間内ニ開業セザルトキハ其效果如何舊商法第八十二條ハ會社ノ登記及ヒ公告ヲ無効トスルニ止マリタレトモ新商法ハ裁判所ヲシテ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ許セリ其理由ヲ按スルニ會社カ登記後六箇月ヲ經過シタル後ニ於テ尙ホ開業セザルハ正當ノ理由ナクシテ開業スルコト能ハサルモノト推定スヘク開業スルコト能ハサル會社ヲシテ登記公告ヲ爲シタル儘永久ニ存續セシムルハ會社ノ取締上妨アルノミオラス或ハ之カ爲メ弊害ヲ生スル虞ナシトセズ故ニ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其開業セザル事由ヲ調査シ會社下シテ存續セシムル必要ナシト認メタルトキハ解散ヲ命スルコト商政策上甚タ便宜トスル所ナリ是レ商法第四十六條ノ規定アル所以ナランカ此場合ニ解散ニ關スル手續ハ非訟事件手續法中前示ノ法條ヲ規定セラレタリ會社カ營業中公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行為爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコト得是レ此ノ如キ會

社ヲ有續セシムルハ公益ニ害アルカ故ナリ(第四八條)

第一編 合名會社

第一章 合名會社ノ意義

合名會社ハ社員ノ全體カ無限責任ヲ負擔スル所ノ會社ナリ社員ノ責任ノ無限ナルト有限ナルトニ依リ會社ノ種類ヲ分ツ場合ニ於テ責任ナル語辭ニ適當ナル意義ヲ與ヘント欲モハ此語辭ハ經濟上ノ意義ヲ有スルモノト爲スヘキコト既ニ説明シタル所ナリ然リト雖モ茲ニ合名會社ノ意義ヲ明カニスルニ當リテハ合名會社カ法律上他ノ會社ト異ナル所ノ特質ヲ舉グル必要アリ隨テ茲ニ所謂無限責任ナル語ハ外部ニ對スル法律上ノ意義ヲ有スルモノナルコトヲ注意ヲ轉ハントスル所ナリ茲ニ其意義ハ合名會社ノ社員ノ其性質ヲ明カニスルニ當リテ舊商法ハ法律ノ規定ヲ以テ會社ノ意義ヲ定メントシ第七十四條ニ於テ合名會社ノ定義ヲ揭ケ第三百三十六條ニ於テ合資會社ノ定義ヲ揭ケ第三百五十四條ニ於テ株式會社ノ定義ヲ揭ケタリ新商法之ニ反シテ法律ヲ以テ會社ノ定義ヲ定

トス故ニ合名會社ノ組織ヲ意識者欲キハ法律ノ規定ヲ對照シ此會社カ他ノ
 會社ト異ナル所以特異ヲ探究スルハトテ要ス商法第六十三條ノ規定ニ依リ
 會社ノ財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ各社員ハ連帶シテ
 其債務ヲ責任セラルヘカラス此規定ハ合名會社ノ社員ハ其出資ノ限度トシ
 テ會社ノ損失ヲ負擔スルヲ以テ足ラセシメ自己ノ全財産ヲ以テ會社債務ヲ
 辦済ヲ爲ササルニカクナルコトヲ定メタルモノナリ之ニ反シテ合資會社及
 株式合資會社ハ無限責任社員及ヒ有責任社員ヨリ成立シ合名會社ノ社員ニ
 關スル規定ハ其無限責任社員ノミニ準用セラルルカ故ニ有責任社員ハ會社
 ニ對シテ出資ヲ爲スル義務ヲ負フニ止マリ會社ノ債務ニ付キ第三者ニ對シテ
 法律上何等ノ責任ヲ負フモノニ非ス其他株式會社ノ社員モ亦其引受文ハ讓受
 クタル株式ノ金額ヲ限度トシテ會社ニ對シテ出資ノ義務ヲ負フニ止マル之ニ依
 リテ觀レハ社員ノ全體カ會社ノ債務ニ付キ無限ノ責任ヲ負擔スルハ合名會社
 ニ於テノミ見ル所ナリ故キ之ニ據リテ合名會社ノ意義ヲ定ムルコトヲ正當ト

此無限責任ハ社員ノ意思ニ關係オク發生ス故ニ或社員カ之ニ反對ノ意思ヲ有
 ストモ理由ヲ以テ無限責任ヲ免ルルコトヲ得然レトモ其反對ノ意思カ定款
 ニ依リテ外部ニ發表セラレタル場合ニ於テハ其社員ハ無限責任ヲ負フコトナ
 シ是レ合名會社ノ社員トシテ無限責任ヲ免ルルモノニ非シテ社員中ニ此
 如キ意思ヲ有スル者アリテ其意思カ定款ニ依リテ外部ニ發表セラレタル場合
 ニ於テハ合資會社カ設立スルハ格別合名會社ノ正當ニ成立セラルカ故ナリ又
 此無限責任ハ會社ノ外部ニ對スルモノナリ故ニ會社ノ内部ノ關係ニ於テ或社
 員ノ責任ニ制限ヲ加フルコトハ合名會社ノ特質ニ反スルモノニ非ス唯其内部
 ノ制限之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルノミ第三者カ其内部ノ制限
 ヲ知ルト否トハ區別ナシトスルハ當然ノ事ナリ
 夫レ此ノ如ク合名會社ノ社員ノ責任ハ外部ニ對シ無限ナリト雖モ第三者トシ
 テ特約ニ因リテ制限スルコトハ法律ヲ禁スル所ニ非ス是レ無限責任ノ規定ハ
 第三者ノ保護ヲ目的トスルモノニシテ第三者カ其利益ヲ拋棄スルハ一般ノ場
 合ト同シテ他人ノ利益ヲ害セサル範圍内ニ於テ爲シ得ル所ナルカ故ナリニ非

獨逸商法ニハ合名會社ヲ法人トスル法條ナク多數ノ學者ハ之ヲ以テ法人ニ非
 ナルモノトスルコト既ニ述ヘタル所ナリ而シテ合名會社ヲ以テ法人ニ非スル
 スル學說ノ根據ハ此社團ノ無限責任ヲ以テ法人ノ思想ニ輕觸スルモノト
 爲スニ在リ故ニ此無限責任ノ果シテ法人ノ思想ニ輕觸スルモノ否キヲ研究スルハ
 決シテ無用ノ事ニ非ス以下之ニ付キ少シク論述スヘシ
 法人ト組合トノ區別ヲ要點ニ總論第一章ニ於テ說述セリ法人ハ權利ノ主體ニ
 シテ組合ハ組合員間ノ法律關係ナリ組合事業ヨリ生シタル債務ハ組合員ノ共
 同債務ニシテ組合ノ財産ハ組合員ノ共同財産ナルカ故ニ組合ノ財産ヲ以テ其
 債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ組合員自己ノ全財産ヲ以テ其債務ノ責
 任スルハ當然ノ結果ナリ之ニ反シテ法人ノ債務ハ法人ナル權利主體ノ債務ニ
 シテ社員ノ共同債務ニ非ス法人ノ財産モ亦法人一箇ノ財産ニシテ社員ノ共同
 財産ニ非ス果シテ然ラハ法人ノ債務ハ法人ノ財産ノミヲ以テ辨済シ不足アル
 トキハ法人ノ破産ヲ惹起シ法人ハ之ニ依リテ解散スヘキモノニシテ法人ト全
 然別箇ノ權利主體タル社員ハ其財産ヲ以テ法人ノ債務ヲ辨済スルキ義務ヲ生

セザルモノトスルコト論理上正當ナリ若シ夫レ社員カ會社ノ債務ニ付キ辨済
 ノ責ニ任スルモノトスルニハ保證ノ如キ法律上他人ノ債務ニ付キ辨済ノ責ニ
 任スヘキ原因アルヲ必要トス然ルニ合名會社ニ於テハ社員ハ此ノ如キ原因ナ
 クシテ會社ノ債務ニ付キ辨済ノ責ニ任ス是レ合名會社ハ法理上一ノ組合ニシ
 テ法人ニ非タルカ故ナリト云フハ非法人說ヲ主張スル獨逸學者ノ唱道スル所
 ナリ此說ハ理論上正當ナリ故ニ社員ノ無限責任ヲ以テ法人ノ理論ヨリ生スル
 當然ノ結果ナリトスルハ正當ヲ得タルモノニ非ス立法上合名會社ヲ法人トス
 ルヲ可トスルモノ否キハ別問題ナリ
 合名會社ノ特質トシテ掲テヘキモノハ社員ノ無限責任ノ外ニ之ヲキヤ否キ黃
 商法第七十五條ハ合名會社ノ商號ニハ總テハ社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏
 ヲ用ヒ之ニ會社ナル文字ヲ附スヘキコトヲ規定シ第三百三十九條ハ合資會社ノ
 商號ニハ社員ノ氏ヲ用フルコトヲ得ザルヲ原則トシ唯無限責任社員ノ氏ヲ用
 フルコトヲミマ許シ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附スヘキコトヲ
 規定シ第三百七十三條ハ株式會社ノ商號ニハ株主ノ氏ヲ用フルコトヲ得ス且株

式會社ナル文字ヲ附スヘキコトヲ規定セリ故ニ會社ノ商號ニ社員ノ氏ヲ用アルコトハ合名會社ノ特質トシテ揭クヘキモノナリトシ佛逸及ヒ佛蘭西ノ商法ニモ之ト同一ノ規定アリ我新商法ハ此點ニ修正ヲ加ヘ第十七條ニ於テ會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用フヘキコトヲ規定セリ故ニ合名會社ノ商號ニ社員ノ氏ヲ用フルコトハ必要ナシ獨佛等ノ法律ニ於テ合名會社ノ商號ニ社員ノ氏ヲ用フルコトハ理由ニ出ツルモノニ非ス往時ニ在リテハ合名會社ノ社員ハ會社ノ債務ニ付キ各自連帶無限ノ責任ヲ負フモノニ非スシテ會社ノ業務ヲ執行スル社員ノ限之ニ對シ連帶無限ノ責任ヲ負擔シタリ故ニ無限ノ責任ヲ負擔スル業務執行社員ヲ表示スルカ爲メ其氏ヲ會社ノ商號ニ用フルノ必要アリタリ然ルニ其後無限責任ノ負擔ハ共同事業ノ爲メ社員各箇ノ對人の信用ヲ基礎トスルモノナリトノ觀念ヲ生シ業務ヲ執行セザル社員モ亦無限責任ヲ負擔スルニ至レリ故ニ初メ合名會社ノ商號中ニハ業務ヲ執行スル者ノ氏名ヲ揭ケ之ニ依リテ或社員カ業務ヲ執行

シ且無限ノ責任ヲ負擔スルコトヲ表白シタレトモ其後業務執行ト無限責任トハ必要ノ關係ヲ有セザルニ及ヒ商號中ニハ唯或社員ノ氏ヲ揭クルコトヲ必要トスルニ至リタルモノナリ我舊商法力第百十三條ニ於テ社員ニ非ザル者カ會社ノ商號ニ其氏ヲ顯ハスコトヲ承諾シ又ハ之ヲ顯ハスニ任セタル者ハ社員ト同一ノ責任ヲ負擔スルコトヲ規定シタルハ能ク商號中ニ氏ヲ顯ハスコトト無限責任トノ關係ヲ說明シタルモノナリ然リト雖モ現今ノ法律ニ於テハ無限責任ヲ負擔スル者ハ商號ニ氏ヲ顯ハシタル社員ノ限ニ限ラスシテ其他ノ社員モ亦之ト同一ノ責任ヲ負擔スルカ故ニ合名會社ノ商號ニ社員ノ氏ヲ用フルコトヲ必要トスルハ現今ニ於テハ至テ其實用ヲ失ヒタルモノナリ

此他明治二十三年ノ舊商法ハ合名會社ヲ組織スヘキ人員ノ最大數ヲ七名ト定メ他ノ種類ノ會社ニハ此ノ如キ制限ヲ加ヘザルカ故ニ此點モ亦合名會社ノ特質ノ一トシテ數フルヲ得タリ然レドモ新商法ハ此ノ如キ制限ナキヲ以テ今日ニ於テハ之ヲ以テ合名會社ノ特質トシテ揭クルヲ得ス蓋シ合名會社ノ社員ハ各自無限ノ責任ヲ負擔シ且各自業務ヲ執行スル權利ヲ有スルモノナルカ故ニ

此會社ハ社員相互間ニ大ナル信用ヲ有スルニ非タルハ成立スルヲ得ス故ニ法律ニ於テ社員ノ最大數ヲ制限セザルモ實際上合名會社ヲ組織スル者ノ數ハ制限アリ又假ニ多數ノ人カ合名會社ヲ組織ストスルモ之ヲ辦スルノ理由ナシ

第二章 合名會社ノ設立

合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス(第四九條定款ニ記載スヘキ經營の必要事項ハ第五十條ニ掲ケラル即チ左ノ如シ) 一 目的 目的トシテ會社カ經營スル事業ヲ謂フ此事業ハ必ス商行為ヲ目的トスルモノナラサルヘカラス是レ會社カ商業上ノ社團法人タルコト生スル當該ノ結果ナリ

二 商號 商號ニハ必ス合名會社ナル文字ヲ用ヅルコトヲ要ス(第一七條是レ商號ニ依リテ其會社ノ社員カ無限責任ヲ負擔スルコトヲ公示セシメテスルカ爲メナリ社員ノ氏ヲ用ヅルコトハ商號ノ要件ニ非ス) 三 社員ノ氏名住所 社員ノ氏名住所ヲ揭タルハ之ニ依リテ無限責任ヲ負擔

スル者ヲ明カニスルハ商號ニ出ツ商法ハ氏名ナル語辭ト商號ナル語辭トヲ區別シテ用ヒタリ故ニ商號ヲ記載スルコトハ法律ノ認メタル所ナリト開ハサルヘカラス

四 本店及ヒ支店ノ所在地 是ハ營業所ヲ記載ナリ茲ニ本店及ヒ支店トアリテ支店ノ所在地ハ必ス定款ニ記載スルコトヲ要スルモノノ如キ觀アリ然レトモ支店ヲ有セザル會社ニ於テ支店ノ所在地ノ記載ヲ爲スハ事實上不能ナリ法律ハ人ニ不能ヲ強制スルモノニ非ス故ニ設立ノ當時支店ヲ有セザル會社ニ在リテハ定款ニ本店ノ所在地ヲ記載スルヲ以テ足ルモノト解セザルヘカラス法文ニ拘泥シ會社ヲ設立スルニハ必ス本店及ヒ支店ヲ置クコトヲ要シ其所在地ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ストスルヲ採ラサル所ナリ

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ價額又ハ評價ノ標準 是レ會社財產ト社員ノ私產トヲ區別シ損益分配等ノ標準ヲ定ムルニ付キ必要ナル事項ナリ抑モ會社ハ社員ノ出資ヲ資本トシ營業スル者ニシテ虧ニ差入レタル出資ハ社員ノ私產ヲ屬シテ會社ノ財產ニ歸スルモノナルヲ故ニ一方ニ於テハ會社ノ財產ヲ明カニシ

他方ニ於テハ出資者社員ノ他ノ財産トノ區別ヲ明カニスルコトハ會社ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルニ於テ必要アリ且出資ノ多寡ハ營業上ニ生シタル會社ノ損益ヲ社員間ニ配當シ會社解散ノ場合ニ於テ殘餘財産ノ分配ヲ爲スニ付テモ常ニ標準ト爲ルモノナラカ故ニ定款又以テ出資ノ額ヲ明確ナラシムルハ後日ハ紛議ヲ防止スルニ於テ最も必要トスル所ナリ蓋シ對シテハ別ナリ

商法第五十條ニ揭ケタル事項ハ定款ニ記載スヘキ絕對的必要事項ニシテ其一ヲ缺クトキハ定款ハ無効ニシテ會社ハ成立スルコトヲ得ス然レトモ定款ニ記載スル事項ハ必スシモ第五十條ニ揭ケタルモノノミニ限ラズ尙ホ其他ノ事項ヲ記載スルコトヲ得面シテ其事項ニ法律カ特ニ認メタルモノト然ラザルモノトアリ法律カ特ニ認メタル事項ト下ノ如シキモノハ或チ附テ然レドモ

一 會社ノ業務ヲ執行スル社員ノ氏名第五六條參照

二 會社ヲ代表スヘキ社員ノ氏名第六一條參照

三 會社ノ存立時期第六八條參照

四 退社ノ事由第六九條第一號參照

五 持分ノ拂戻ニ關スル事項第七一條參照

六 解散ノ事由第七四條第一號參照

七 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法第八五條參照

此他法律ニ特ニ規定カキ事項ニテモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セス且合名會社ノ本質ニ戻ラザル事項ハ總テ定款ニ記載スルコトヲ得然ラザルモノハ之ヲ記載スルモ其效ナシ

會社ハ定款ヲ作りタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ法律ニ定メタル事項ヲ登記ヲ爲スコトヲ要ス會社ハ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ因リ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルハ既ニ説明シタル所ナリ其登記スヘキ事項ハ第五十一條ニ規定セラル即チ左ノ如シ

一 目的

二 商號

三 社員ノ氏名住所

四 本店及ヒ支店

五 設立ノ年月日

六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

七 社員ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

八 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ二週間内ニ前掲ノ事項ヲ登記シ且本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テ同シ期間内ニ支店設置ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス又本店若クハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其新設支店ノ所在地ニ於テ前記事項ノ登記ヲ爲ス必要ナク唯本店若クハ支店ノ所在地ニ於テ支店新設ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル(第五一條第二項第三項)

會社カ其本店又ハ支店ヲ他ノ登記所ノ管轄區域内ニ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第五一條第一項ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス然レトモ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル(第五二條

又第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス(第五三條) 登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ忘リタルトキハ會社ノ業務ヲ執行スル社員カ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ(第二六一條第一號)

第三章 社員

合名會社ハ社員ト財産トヲ以テ其基礎ト爲ス本章ニ於テハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ル者社員ト爲ルコトヲ得サル者及ヒ社員タル資格ノ得喪ニ付キ説明セント欲ス 合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ル者ニ付キ特ニ法律ノ定メタルモノナシ故ニ一般ノ法則ニ從ヒ總テ人ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ト謂フヲ原則トスルヲ至當ナリト信ス而シテ合名會社ノ社員ト爲ルニハ法律行為ヲ必要トスルコト普通ナリ故ニ人ハ一般ニ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルモ社員ト爲ルニ必要ナル行為ヲ爲スニハ行為能力ヲ有セザルヘカラス未成年者カ法定代理

人ノ許可ヲ得テ若クハ其法定代理人ノ行爲ニ依リ單禁治産者カ保佐人ノ同寫
 ヲ得テ妻カ夫ノ許可ヲ得テ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルハ論ヲ埃タズ然
 ラハ禁治産者ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤ商法第六十九條第五
 號ニ依レハ社員ノ禁治産ヲ以テ退社ノ原因ト爲セリ故ニ此規定ニ依レハ禁治
 産者ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得サルカ如シ然リト雖モ此第六十九條ノ
 規定ノ全部ハ決シテ人ノ意思ニ因リテ動スコトヲ得サル公益上ノ規定ニ非ス
 定款ヲ以テ變更スルコトヲ得サルモノハ破産ニ關スル規定ノミニシテ其他ハ
 皆定款ヲ以テ自由ニ變更スルコトヲ得禁治産ノ如キモ即チ其一ニシテ會社ハ
 定款ニ禁治産ヲ以テ退社原因ト爲ササルコトヲ定ムルヲ得故ニ第六十九條ノ
 規定ニ基キ禁治産者ハ當然合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得サルモノト謂フハ
 正當ナラス之ヲ要スルニ禁治産者ハ法定代理人ノ行爲ニ依リテ合名會社ノ社
 員ト爲ルコトヲ得

破産者ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルヤ商法施行法第一百四十三條ハ破産
 ノ宣告ヲ受ケタル債務者ハ復権ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員ト爲ル

コトヲ得ナル旨ヲ規定セリ合名會社ノ社員ハ即チ無限責任社員ナルカ故ニ破
 産者ハ復権ヲ得ナル限ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ス此他商法施行法第
 百三十七條民法施行法第二條第三條ノ規定ニ依レハ家資分散者及ヒ身代限ノ
 處分ヲ受ケ未タ債務ヲ完済セサル者ハ破産者ト同シク合名會社ノ社員ト爲ル
 コトヲ得ス

法人ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤ此點ニ付テハ議論アリ予輩ハ
 法人ト雖モ法律又ハ定款ノ規定ニ依リ禁セラレサル限ハ合名會社ノ社員ト爲
 ルコトヲ得ト信ス故ニ合名會社カ他ノ合名會社ノ社員ト爲リ合資會社株式會
 社若クハ株式合資會社モ亦合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得獨逸ニ於テハ此點
 ニ付キ或ハ合名會社ハ他ノ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルモ合資會社株式
 會社ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得スト曰ヒ或ハ合名會社ハ勿論合資會
 社及ヒ株式會社ト雖モ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ト曰ヒ或ハ合名會社合
 資會社及ヒ株式會社ハ總テ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得スト曰ヒ學說一定
 モス是レ獨逸商法ハ合名會社ヲ以テ法人ト看做ササルヨリ生シタル結果ナリ

然レトモ我商法ハ合名會社ヲ以テ一ノ法人ト爲シタルカ故ニ會社ト社員トハ各別箇ノ人格ヲ有ス隨テ他ノ法人カ合名會社ノ社員ト爲ルハ法人ノ理論ニ反スルモノニ非ス或ハ説ヲ爲ス者アリ法人ハ定款ニ依リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テノミ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ得ルモノナルカ故ニ合名會社ノ社員ト爲ルカ如キハ其爲シ得ザル所ナリト此說一理アルカ如シ然リト雖モ會社カ他ノ株式會社ノ株式ヲ取得シテ株主ト爲ルハ實際上常ニ見ル所ノ事實ニシテ何人モ之ニ付キ會社カ株式會社ノ株主ト爲ルコトヲ得スト言フ者ナシ子輩ハ此點ニ關シ株主ト合名會社ノ社員トノ間ニ區別ヲ設ケルコト能ハスト信ス株式ヲ取得スルモ合名會社社員ノ持分ヲ取得スルモ共ニ資金ノ利用ヲ爲スモノナリ唯株式ハ其讓渡ノ自由ナルニ反シ持分ノ讓渡ハ自由ナラス然レトモ是レ資金利用ノ便否ニ關スル事項ニシテ既ニ資金ノ利用ヲ以テ會社ノ目的ニ反セザルモノトスル以上ハ其利用ノ便否ニ因リ一ハ會社ノ爲シ得ル所ニシテ一ハ其爲シ得ザル所ナリトスルハ正當ナラス

第一節 社員タル資格ノ取得

合名會社ノ社員タル資格ヲ取得スルニハ種種ノ原因アリ以下一之ヲ説明セシム

第一 會社ノ設立者ト爲ルコト 合名會社ノ設立ヲ目的トシ定款ヲ作リテ之ニ署名スル者ハ會社ノ成立ト同時ニ社員ト爲ルコト言フヲ埃タス

第二 會社ト入社契約ヲ爲スコト 會社ノ成立後會社ト入社契約ヲ爲スニ因リテ社員ト爲ルコトヲ得設立後新社員ノ入社ヲ許スコトハ商法第六十四條ノ規定ニ照シテ疑ヲ容レズ社員ノ氏名住所ハ商法第五十條ニ依リテ定款ニ記載スヘキ絕對的必要事項ナリ故ニ會社カ入社契約ヲ締結シテ新ニ社員ヲ得ルニハ定款ノ變更ニ必要ナル手續ヲ爲スコトヲ要ス商法第五十八條ハ定款ノ變更ヲ爲スニ總社員ノ同意ヲ必要トスル旨ヲ規定セリ故ニ入社契約ヲ爲スニモ亦總社員ノ同意アルコトヲ要ス而シテ入社契約ニ因リテ新ニ社員ヲ得タルトキハ其氏名住所ハ商法第五十三條ノ規定ニ從ヒテ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所

在地ニ於テ登記スルコトヲ要ス、
 第三 社員ノ持分ヲ讓受タルコトハ、商法第五十九條ニ依レハ社員カ他ノ社員ノ承認ヲ得テ其持分ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得而シテ持分ノ讓渡ハ如何ナル效果ヲ生スルヤト云フニ商法第七十三條第二項ニハ他ノ社員ノ承認ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ノ責任ヲ規定シ本店ノ所在地ニ於テ其讓渡ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負ヒ其責任ハ登記後二年ヲ經過シタルトキ消滅スル旨ノ規定アリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ持分ヲ讓渡シタル社員ハ退社員ト同シク會社ヨリ脱退スルコト明カナリ果シテ然ラハ其社員ノ持分ヲ取得シタル者ハ之ニ代リテ社員ノ資格ヲ取得スルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ持分ハ社員タル資格ヲ維持スル必要條件ナルコト第七十三條第二項ノ規定ニ徴シ明カニシテ他ニ必要條件トシテ認ムヘキモノナケレハナリ其他同法第七十一條ニモ持分ノ拂戻ニ關スル規定アリテ退社員ハ努力又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ持分ノ拂戻ヲ受タルコトヲ得持分ヲ有スルコトカ社員タル資格ノ唯一ノ要件ナルコト

新

ト此規定ニ依リテ意、明白ナリ之ヲ要スルニ社員ノ持分ヲ讓受ケタル者ハ之ニ因リテ社員タル資格ヲ取得ス持分ノ何タルヤハ後ニ詳説スヘキモ茲ニ其大略ヲ述ヘンニ持分トハ社員カ社員タル資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル財産上ノ關係ヲ謂ヒ之ヲ動的ノ方面ヨリ觀ルトキハ出資ヲ爲ス義務利益ノ配當ヲ受クル權利退社シタルトキ持分ノ拂戻ヲ受クル權利會社解散シタルトキ殘餘財産ノ分配ヲ受クル權利是ナリ持分ヲ讓渡シタルトキハ社員ノ變更ヲ生スルカ故ニ同法第五十三條ノ規定ニ從ヒ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス、
 以上ハ商法ニ規定セル社員タル資格ノ取得原因ナリ其他定款ニ於テ社員カ死亡シタルトキ其相續人ヲ以テ社員トスルコトヲ定メタルトキハ相續人ハ社員ノ死亡ト同時ニ當然社員ト爲ル此場合ニ於テハ社員ニ變更ナキモノト看做スト雖モ社員ノ氏名ノ變更ヲ生スルモノナルヲ以テ是レ亦變更ノ登記ヲ爲スヘキモノナリ

第二節 社員タル資格ノ喪失

會社ヲ解散シタルトキ社員カ其資格ヲ喪失スルコトハ當然ノ理ナリ然レトモ會社ハ解散ノ後ト雖モ清算中ハ其目的ノ範圍内ニ於テ存續スルモノト看做ナルカ故ニ社員モ亦清算中猶ホ其資格ヲ持續スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ社員タル資格ノ絶對的ニ消滅スルハ清算終了ノ時ナリ以テハ會社ノ消滅ニ因リテ社員タル資格ノ消滅スルモノニシテ此場合ニハ總テノ社員カ同時ニ其資格ヲ喪失ス此他特定ノ社員カ特別ニ其資格ヲ喪失スル場合アリ以下一之カ説明ヲ爲サン

第一 持分全部ノ讓渡 商法ハ退社ト持分ノ讓渡トヲ區別セリ然レトモ持分全部ノ讓渡アルトキ讓渡人ハ之ニ因リテ全然社員タル資格ヲ喪失スルモノナルカ故ニ持分全部ノ讓渡カ一ノ退社原因タルコトハ論ヲ竣タス唯單純ナル退社ト持分全部ノ讓渡ト異ナル所ハ單純ナル退社ニ在リテハ現在ノ社員カ其資格ヲ失フノミニシテ他八カ之ニ代ルコトナキモ持分全部ノ讓渡ニ在リテハ讓受人ハ讓渡人ニ代リテ社員タル資格ヲ取得ス之ヲ要スルニ持分全部ノ讓渡ハ社員ノ變更ヲ生スル一ノ原因ナリ

第二 退社 退社ニハ任意ノ退社ト不任意ノ退社トアリ以下之ヲ分説セン

(甲) 任意ノ退社

(一) 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ六箇月前ニ豫告シテ營業年度ノ終ニ於テ退社スルコトヲ得第六八條第一項此規定ハ一方ニ於テハ社員ノ利益ヲ圖リ他方ニ於テハ會社ノ利益ヲ害セザラシコトヲ期シタルモノナリ蓋シ定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキハ各社員ハ會社ノ債務ニ付キ永久無限責任ヲ負ハサルヘカラスシテ其負擔甚ク大ナリ又或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタル場合ニ於テモ會社ハ何時マテ存續スルカ之ヲ知ルコト能ハスシテ社員ノ責任ノ存續期間モ亦自ラ不確定ナリ此ノ如キ場合ニ於テ退社ノ自由ヲ與ヘサルトキハ何人ト雖モ安シテ社員ト爲ル者ナク到底會社ノ成立ヲ妨グルニ至ル故ニ此二箇ノ場合ニ於テハ社員ニ自由ノ退社ヲ許スコトハ實際上甚ク必要ナリ然レトモ之カ爲メ會社ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス會社ハ退社員アルトキハ之ニ對シテ持分ノ拂戻ヲ爲サ

ナルヘカラス故ニ營業年度ノ半ニ於テ安ニ退社ヲ許ストキハ會社ハ其財産ノ幾部分ヲ失フノミナラス之カ爲メ事業ノ上ニモ亦妨カレザル不便ヲ生スルコトヲ免レヌ是レ法律カ六箇月ノ豫告ヲ以テ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ許シタル所以ナリ

- (二) 會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社スルコトヲ得第六八條第二項已ムコトヲ得ザル事由トハ事實上ノ問題ニシテ一概ニ論スルコトヲ得ス茲ニ一例ヲ示サハ勞力ヲ出資ノ目的トセル社員カ疾病ニ因リテ引續キ勞力ヲ供スルコト能ハサルトキ又ハ社員間ニ業務執行ニ付キ衝突ヲ起シテ調和ノ見込ナキトキノ如キハ已ムコトヲ得ザル事由アルモノト謂フコトヲ得此ノ如キ場合ニ於テ社員ニ何時ニテモ退社ヲ許スハ會社及ヒ社員ノ雙方ノ爲メ利益ナルカ故ナリ
- (三) 定款ニ定メタル事由ノ發生第六九條第一號ノ如キ社員ノ退社ノ事由ニ於テ
- (四) 總社員ノ同意第六九條第二號
- (乙) 不任意ノ退社

- (一) 死亡 合名會社ハ社員ノ人の信用ニ重キヲ置ク所ノ會社ナリ故ニ社員死亡シタルトキ其相續人ハ當然社員ト爲ルコトナシ然レトモ定款ヲ以テ相續人ヲ社員トスルコトヲ定メタルトキハ社員ノ死亡ニ因リ其相續人當然社員ト爲ル(第六九條第三號)
- (二) 破産第六九條第四號 破産者ハ經濟上ノ信用ヲ喪失シテ自ラ財産ノ占有管理及ヒ處分ヲ爲ス能力ヲ有セザルモノニシテ商法施行法第百四十三條ハ復權ヲ得ザル破産者ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ禁シタリ故ニ破産カ合名會社ノ社員ノ退社ノ原因タルコトハ論ヲ埃タス此點ニ付テ定款ニ反對ノ規定ヲ爲スコトヲ得ス家資分散者ハ破産者ト同一視セララルコト商法施行法第百三十七條民法施行法第二條ノ規定スル所ナリ故ニ家資分散ノ宣告ヲ受クルコトハ退社ノ原因ト謂ハサルヘカラス
- (三) 禁治産 合名會社ノ社員ハ各自業務ヲ執行スル權利義務ヲ有シ又會社ヲ代表スル權限ヲ有スルコトヲ原則トス然ルニ禁治産者ハ自ラ法律行爲ヲ爲ス能力ヲ有セス故ニ法律ハ禁治産ヲ以テ退社ノ原因ト爲セリ但定款ニ反

對ノ規定ヲ爲スハ法律ノ辨スル所ニ非ス。茲ニ其ノ規定ヲ詳シク述ベテ見ルニ、
 (四) 除名ノ場合トハ或社員ニ其社員タル資格ヲ剝奪スル處分ヲ附シ、除名ヲ
 爲スコトヲ得ル場合ニ制限アリ且除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非テ
 レハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス。除名スルコトヲ得ル場合左ノ如
 シ(第七〇條) 三十三條ノ規定ニ依リ、社員タル資格ヲ喪失スル者ハ、

- (イ) 社員カ出資ヲ爲ス能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ
 出資ヲ爲ササルトキ
- (ロ) 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得シテ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業
 部類ニ屬スル商行ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無
 限責任社員ト爲リタルトキ
- (ハ) 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當リ會社ニ對シテ不
 正ノ行爲ヲ爲シタルトキ
- (ニ) 社員カ會社ノ業務ヲ執行スルノ權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務執行
 ニ干與シタルトキ

(ホ) 其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ
 以上ハ他ノ社員ノ一致ヲ以テ或社員ヲ除名スル場合ナリト雖モ其他除名ニ
 關スル特別ノ場合アリ即チ商法第八十三條ニ規定スル場合はナリ此規定ニ
 依ルトキハ巴ムコトヲ得ナル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ニ代ヘテ
 或社員ヲ除名スルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘク裁判所ハ判決ヲ以
 テ除名ノ裁判ヲ爲スコトヲ得第八三條

第四章 會社ノ資産

商法第二百十條ニ依レハ株式會社ノ定款ニハ資本ノ總額ヲ記載スルコトヲ要
 スルヲ以テ資本ノ額ノ一定スルコトハ株式會社ノ要件ナルコト毫モ疑フ容レ
 ス。合名會社ノ資本ニ付テハ此ノ如キ明確ナル規定ナシ然レトモ會社ノ事業ト
 會社ノ資本トハ互ニ密接ノ關係ヲ有シ會社ノ資本ハ必ス一定スルコトヲ要ス
 何トナレハ資本ノ額ハ事業ノ大小難易ニ從ヒテ定マルヘキモノニシテ會社ノ
 事業定マル以上ハ會社ノ資本モ亦一定スル必要アリナリ合名會社ニ在リテ

モ資本ノ一定スルコトヲ必要トセザル理由ナシ商法第五十條第五號ハ合名會社ノ定款ニ社員ノ出資ノ種類及ヒ價額又ハ評價ノ標準ヲ記載スヘキコトヲ命シタリ此法條ハ社員ノ出資ノ方面ヨリ規定シタルモノナリト雖モ出資ハ資本財産ヲ組織スヘキモノニシテ各社員ノ出資ノ種類及ヒ價額一定スルトキハ之ニ依リテ會社ノ資本ノ額モ亦自ラ一定スルコトヲ得故ニ予輩ハ第五十條第五號ヲ以テ社員ノ出資ニ關スル規定ヲ爲スト同時ニ會社ノ資本ニ關スル規定ヲ爲シタルモノナリト解セント欲ス然ラハ資本トハ何ヲ謂フカ予輩ハ出資ノ價額ノ總計ヲ以テ會社ノ資本ナリト謂フヲ至當ナリト信ス資本ハ實質的ノ存在ヲ有スルモノニ非スシテ一ノ思想上ノ計算ナリ今會社ノ資本カ十萬圓ナリト云フハ十萬圓ノ價格ヲ有スル動産不動産其他ノ財産ヲ云フモノニ非スシテ會社カ保存セザルヘカラサル財産ノ總計ヲ謂フ會社カ現ニ有スル所ノ動産不動産其他ノ物ハ所謂會社ノ財産ニシテ會社ノ資本ニ非ス會社ノ資本ハ抽象的ノモノニシテ會社ノ財産ハ具體的ノモノナリ資本ノ増減アリタルトキハ財産モ亦増減ス之ニ反シテ財産ノ増減アルモ資本ハ増減スルコトナシ資本ハ定款ニ

依リテ一定ス故ニ資本ヲ増減スルニ於テ定款變更ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス財産ハ事業ノ狀況ニ依リテ常ニ變動ヲ止マザルモノナリ會社ノ資本トハ會社ノ財産トノ間ニ區別アリコトハ特ニ注意ヲ要スル點ト爲ス(註六十六)會社ハ資本ノ額ニ應スル財産ヲ保有スルコトヲ要ス是レ蓋シ會社ノ財産ハ會社債權者ノ擔保ヲ爲スモノニシテ第三者ハ會社ノ資産ニ重キヲ置キ會社ト取引ヲ爲スモノナルカ故ニ會社債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニハ資本ニ應スル財産ヲ保有スル必要アルニ由ル商法第六十七條ニ會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非テレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得スト規定シタルハ資本財産維持ノ法則ヲ定メタルモノナリ會社財産カ資本ニ超過スルトキハ會社ノ利益アリト謂ヒ會社財産カ資本ニ不足スルトキハ會社ニ損失アリト謂フ社員ハ會社ノ利益ヲ資本ノ増減ニ定款變更ノ一ノ事項ナリ故ニ會社ハ第五十八條ノ規定ニ依リテ資本ノ増減ハ定款變更ノ一ノ事項ナリ故ニ會社ノ増減ヲ爲スコトヲ得ス資本ノ増加ハ會社ノ社員ノ同意アルニ非テレハ資本ノ増減ヲ爲スコトヲ得ス資本ノ増加ハ會社財産ノ増加ヲ牽起スノ原因ト爲ル故ニ會社ノ債權者ハ資本ノ増加ニ因リテ利益ヲ享タルコトアルヲ損失ヲ招クコトナラズ之ニ反シテ資本ノ減少ハ會社財

産ヲ減少ヲ惹起スル原因ナルヲ故ニ自由ニ資本ヲ減少ヲ爲スルハ許シ得
 ハ會社債權者ノ不利益ヲ醸成スル甚シク或ハ各名會社ノ社員ハ會社ノ債務ニ付
 キ連帯シテ無限ノ責任ヲ負擔スルハ故ニ會社ノ資本ヲ減少スルハ會社債權者
 ハ大ナル不利益ヲ被ルコトナキカ如キ觀アリ然リテ雖モ會社債權者ニ對シテ
 第一ノ擔保ハ會社財産ニシテ社員ノ財産ハ第二ノ擔保ナリ社員ハ會社財産ヲ
 以テ會社債務ヲ完済スルコトヲ當ハサル部分ニ付キ辨濟ノ責任ヲ而シテ債權
 者カ社員ノ財産ニ付キ辨濟ヲ求ムルニハ會社財産ニ付キ辨濟ヲ求ムルコト
 一層繁雜ナル手續ヲ要ス故ニ會社財産ニ付キ全部ノ辨濟ヲ受タルコトニ付キ
 一部ノ辨濟ヲ受ケ更ニ社員ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受タルトハ其便否同クハ論
 非ス是レ予輩ガ資本ヲ減少ヲ以テ會社債權者ノ利益ヲ害スルモノナリト言フ
 所以ナリ商法第二百二十條第七十八條乃至第八十條ハ株式會社ノ資本減少
 付キ種種ナル規定ヲ爲スト雖モ各名會社ノ資本減少ニ付テハ僅ニ第六十六條
 ノ規定アルヲミ第百六十六條ノ規定シテ白ク社員ノ出資ヲ減少スルコトヲ以テ會社
 債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二

年間債權者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘザラントキハ此限ニ在ラスト此法律ハ出
 資ノ減少ニ付キ規定シタルモノナリト雖モ既ニ述ヘタル如ク會社ノ資本ハ
 出資ノ價額ノ總計ニシテ出資ノ減少ハ當然資本ノ減少ヲ惹起ス若シ出資ヲ減
 少スルモ資本ノ減少ヲ惹起スモノニ非ストセハ取テ出資ノ減少ニ付キ債權者
 ノ同意ヲ要スルコトナシ是レ予輩ガ第六十六條ヲ以テ資本ノ減少ニ關スル規
 定ナリト言フ所以ナリ會社ハ社員ノ出資ヲ減少スルモノ之ヲ以テ債權者ニ對抗
 スルコトヲ得ス此規定ヲ以テ會社ハ債權者ノ同意ナクハ出資ノ減少ヲ爲ス
 コトヲ得サルモノト爲ス勿レ會社ハ定款變更ノ手續ニ從フトキハ自由ニ出資
 ノ減少ヲ爲スコトヲ得而シテ其減少ハ會社ノ内部ノ關係ニ於テハ固ヨリ其效
 アリ第六十六條ノ規定スル所ニ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルモノト得ス
 ト云フニ在ルノミ會社債權者カ其出資ノ減少ヲ承認シタル場合ニ於テハ會社
 ハ之ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ルハ論テ埃タス又豫メ會社債權者ノ承
 認ヲ得シテ出資ヲ減少シタル場合ニ於テモ其登記ヲ爲シタル後二年間債權
 者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘザラントキハ之ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得是レ債

權者カ暗黙ニ承認ヲ與ヘタルモノト推定スルモトヲ得ルニミナラズ永テ法律關係ヲ不確定ナラシムルハ宜キヲ得タルモノニ非ザレハ尤モ以上ハ出資者少ニ付キ述ヘタルモノナレトモ資本ノ減少ニ付クモ亦之と同ク論ズルコトヲ得ヘシ

會社ノ資產ヲ形成スルモノハ社員ノ出資營業ニ依リテ得タル財產其他ノ物ナリ此財產ハ會社ナル法人ノ財產ニシテ社員ハ其上ニ何等ノ權利ヲ有セズ唯出資ヲ爲シテ會社財產ヲ組成ストノ理由ニ因リ會社ニ對シ財產上ノ計算關係ヲ有スルノミ此關係ヲ社員ノ持分ト謂フ持分ニ付テハ後ノ章ニ於テ詳説スヘシ會社財產ト社員ノ財產トハ全ク別箇ノモノナルカ故ニ社員ノ債權者ハ會社財產ニ對シ直接ニ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ唯社員カ會社ニ對シテ有スル財產上ノ權利ヲ差押フルコトニ因リ社員ニ代リテ利益ノ配當殘餘財產ノ分配又ハ社員カ退社シタルトキ持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ルニ過キス之ニ反シテ社員カ會社ノ債務ニ付キ其私財ヲ以テ辨濟ノ責ニ任スル時全ク便宜上ノ理由ニ基キタルモノニテ論理ノ結果ニ非ナルコトハ實テ論述シタル所ナリ會社

カ破産スルモ其效果ハ會社財產ノ上ニノミ發生シ當然社員ノ私產ニ及ハサルヲ原則トス社員ノ破産ニ付テモ亦之ト同シク會社財產ハ之カ爲メ當然影響ヲ受クルコトナシ獨逸商法第百三十一條第五號カ社員ノ破産ヲ以テ會社ノ解散事由ト爲シタルハ合名會社ヲ法人ト認メタル結果ナリ

合名會社ハ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス一年ニ二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス是レ會社財產ノ狀況ヲ明カニシ且利益配當ノ計算ヲ爲スニ必要アルカ爲メナリ第二六條第二七條

第五章 會社ノ法律關係

合名會社ノ法律關係ハ之ヲ内部ノ關係ト外部ノ關係トニ分ツコト通常學者ヲ爲ス所ナリ内部ノ關係トハ會社ト社員トノ間ノ關係ヲ謂ヒ外部ノ關係トハ會社ト第三者トノ關係及ヒ社員ト第三者トノ關係ヲ謂フ或ハ内部ノ關係トシテ社員相互間ノ關係ヲ數フル者アリト雖モ社員ハ其資格ニ於テ相互ニ關係ヲ有

スルコトナシ例ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員相互間ノ關係又ハ業務ヲ執行
 スル社員ト業務ヲ執行セサル社員トノ間ノ關係ノ如キハ社員相互間ノ關係
 如キ觀アリト雖モ決シテ然ラス會社ノ業務ヲ執行スル社員ハ業務ヲ執行ス目
 的トスル會社ノ機關ナリ故ニ前ニ掲タル各ノ關係ノ如キモ其ノ機關ヲ組
 織スル者ノ相互間ノ關係ニシテハ社員ト會社ノ機關トノ關係ナリ之ヲ以テ
 社員トシテ相互ノ關係ヲ有スルモノトスルハ正當ナラス蓋シ會社ヲ一ノ法人
 ナリトスル以上ハ社員ハ會社ニ對シテ權利義務ノ關係ヲ有スルコトヲ商法ニ據
 ニ社員タル資格ニ於テ權利義務ノ關係ヲ有スルコトヲ商法ニ據ル社員間ノ權
 利義務ト題シテ第八十五條乃至第七條ニ規定ヲ爲セシハ各名會社ヲ法人ト
 スル主義ニ背シコト甚シキモノナリ社員カ第三者ニ對シテ法律關係ヲ有スル
 ハ各名會社合資會社及ヒ株式合資會社ニ於テ見ル所モシテ株式會社ニハ之ナ
 キ所ナリ是レ法律カ無限責任社員ヲシテ會社ノ債務ニ付テ第三者ニ對シ責任
 ヲ負ハシメタル結果ナリトシテ會社ノ債務ニ對シテ無限責任社員カ對シ責任
 内部ノ關係ハ定款ヲ以テ自由ニ定ムルコトヲ得之ヲ關スル法律ニ規定ハ定款

ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テ適用セラルルニ過キテ原則トス之ニ反シテ外
 部ノ關係ハ定款ヲ以テ自由ニ定ムルコトヲ得タル原則トス是レ外部ノ關係
 ヲ定ムル所ノ法律ノ規定ニ於テ利益關係ヲ有スル者トシテ甚ク多ク強制的ノ性質ヲ
 有スル多數ノ社員トシテ社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲
 一ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立
 對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲
 對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲
 對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲ニ對シテ獨立對社員ノ欲ハ其ノ欲

第一節 會社ノ内部ノ關係

各名會社ハ一ノ法人ニシテ組合利ハ其本質ニ於テ異ナル所アリ勿論ナルモ
 此會社ハ社員ノ人的信用ニ基礎ヲ置クモノニシテ社員ノ會社ニ對スル權利義
 務ハ組合員相互ノ權利義務ト同一ニ定ムルヲ得各社員カ會社ノ業務ヲ執行ス
 ル權利義務ヲ有スルモ如キ其議決權ノ平等ナルカ如キ若クハ自由ニ退社ヲ許
 サタルカ如キ皆會社社員ノ人的信用ニ基礎ヲ置クニ原因スルモノナリ是ヲ
 以テ商法第五十四條ハ會社ノ内部ノ關係ニシテ定款又ハ商法ニ別段定テ
 モノニ付テハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ專用スルニキコトヲ定メタリ蓋商法ハ
 民法ヨリ獨立シテ商法ヲ編纂シタル所カ爲メニ民法ノ規定ト同一ノ規定ヲ商法

中ニ多ク存セシモ新商法民法ヲ規定シテ商事ニ準用スルコトヲ得ルハ皆之ヲ準用シキリ定メ之ニ依リテ法律ニ規定ノ重複スルコトヲ避ケタルハ立法上體裁ノ宜キヲ得ルモノト謂フヘシ本節ニ於テハ社員ノ義務ヲ説明シ次ニ社員ノ權利ヲ説明スヘク同節ニ於テハ自由ニ選擇シ得ル

第一款 社員ノ義務

第一項 出資

出資トハ社員カ會社ノ資産ヲ組織スル爲メニ供出スル所ノ財産上ノ價格ヲ有スルモノヲ謂フ我商法ノ用語トシテハ出資ノ目的ト謂フヲ可トス商法第五十條ニ依レハ社員ノ出資ノ種類及ヒ價格ハ定款ニ記載スルコトヲ要スル事項ナリ故ニ會社ヲ設立シテ社員ト爲ル者及ヒ會社ノ設立後社員ト爲ル者ハ皆一定ノ出資ヲ爲スル所ニカラス但現社員ノ持分又讓受ク之ニ因リテ新ニ社員ト爲ル者ハ讓渡人ノ有ル所ノ財産上ノ權利義務ヲ承繼スル所以カ以テ讓渡人カ職ニ出資ノ義務ヲ全部履行スル所カキテ讓受人ハ金名出資ノ義務ヲ負ハス

モ讓渡人カ未タ出資ノ義務ヲ全部履行セザルモノナルトキ讓受人ハ其讓受クタル持分ノ割合ニ於テ出資ノ義務ヲ負擔スル之ヲ要スルニ出資ハ社員ニ隨伴スル所アリ必然ノ義務ナリ出資ノ義務ハ會社ヲ設立スルニ因リテハ會社ト入社契約ヲ爲スニ因リテ發生シ其何レノ場合ニ於テモ此義務ノ範圍ハ定款ニ依リテ定マルモノトス社員ハ定款ニ定メタルヨリ以外ニ出資ヲ爲スノ義務ナク又之ヲ爲スコトヲ得ズ出資ノ範圍ヲ變更スルニハ定款變更ノ手續ヲ爲スコトヲ要シ社員ハ一旦出資ヲ爲シタル以上ハ其目的カ消滅シ又ハ毀損スルモ之ヲ填補スル所ノ義務ナキコト多官ヲ要セズ又ハ毀損シタルモノハ其價額ニ對シテ出資ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモノニ三種アリ財産義務及ヒ信用是ナリ以下之ヲ分チテ説明スヘシ自由ニ選擇シ得ルモノト謂フヘシ本節ニ於テハ自由ニ選擇シ得ル第一ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第二ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第三ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第四ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第五ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第六ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第七ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第八ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第九ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ第十ノ財産ハ其價額對シテ出資ノ目的ト爲ルモノト謂フヘシ

入ラ不財産中ニ先出資ノ目的上レ最優先權ヲ行ハル所限ハ金銀ノ先取トシテモ其他ノ動産不動産債權特許權等再優先權ヲ得ル出資ノ目的ト爲スニモ其得動
 産不動産ノ所有權ヲ以テ出資ノ目的ト爲スル者トキハ之ヲ會社ニ引渡シテ所
 以上ハ社員ハ其滅失毀損ニ付テ責ヲ負ハサレトモ動産不動産ノ使用權若クハ
 收益權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキハ其動産不動産ヲ會社ニ引渡シタル
 後ニ於テモ其滅失毀損ニ付テ社員ハ之ヲ填補スル義務アリ何トオレハ之ヲ填
 補セザレハ會社ニ定款ニ定カレカ如キ使用又ハ收益ヲ爲スコトヲ得サレハナ
 リ若シ社員ハ此ノ如キ場合ニ其填補又爲サザレハ完全ニ出資ノ義務ヲ履行セ
 ラルモノトシテ其責任ヲ負ハルベシトモ其後ハ出資ノ目的ト爲スル者トキハ
 第二ノ義務トシテ其責任ヲ負ハルベシトモ其後ハ出資ノ目的ト爲スル者トキハ
 勞務ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得ルハ商法第七十一條ノ規定ニ據リテ其
 レニ勞務ヲ出資ノ目的ト爲スコトハ會社ノ爲メニ精神上若クハ肉體上ノ活動ヲ
 爲スニ關スル故ニ其精神若クハ肉體ノ衰弱若クハ活動スルコト能ハズルニ至リ
 ルトモハ出資ノ不能ト爲スルベシトモ其後ハ出資ノ目的ト爲スル者トキハ

ニ依リテ社員ヲ除各スルコトヲ得勞務ノ目的ト爲スコトキハ其價格及シ勞務ノ
 標準ヲ定メ之ヲ定款ニ記載セザルベシトモ其後ハ出資ノ目的ト爲スル者トキハ
 第三ノ信用ノ義務トシテ其責任ヲ負ハルベシトモ其後ハ出資ノ目的ト爲スル者
 信用カ出資ノ目的ト爲スコトヲ得ルハ商法第七十一條ノ規定ニ據リテ其容
 レニ舊商法ハ財産上ノ勞務ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ許セシモ信用ヲ以テ
 出資ノ目的ト爲スコトヲ認メス其理由ハ社員ハ出資ヲ爲シテ共有資本ヲ繼續
 スヘキモノナルガ故ニ出資ノ目的ト爲スコトヲ得ルモノハ移轉スルコトヲ得
 ルモノナラサルヘカラス然レモ信用ハ專屬ノモノニシテ移轉スルコトヲ得
 ス隨テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得ス又信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ許
 ストキハ會社ハ信用者各別給リテ第三者ヲ嗜著シ之ニ不測ノ損害ヲ被
 ラシムル虞アリト云フニ在リ然レトモ是レ信用出資ニ關スル大抵ノ理見ナリ
 抑モ物カ出資ノ目的ト爲スコトキハ財產上ノ價格ヲ有シ他人ヲ欺之ガ利用ヲ爲
 タシムルコトヲ得ルニ足レリ必ズシテ移轉スルコト能ハズ必要トモ動産不動産
 ノ所有權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其權利ヲ移轉スルト雖モ之

ニ反シテ動産不動産ノ使用權若クハ收益權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ之ヲ嚴格ニ言フハ使用權若クハ收益權ト設定スルモノニシテ此等ノ權利ノ移轉アルモノニ非ス勞務ヲ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テモ勞務ハ汎シテ他人ノ移轉スルコトヲ得ルモノニ非ス唯他人ニ勞務ヲ利用セシムルコトヲ得セシムルニ過キス信用其モノハ人ニ專屬スルモノナリト雖亦之ヲ他人ニ利用セシムルコトハ爲シ得アル所ニ非ス而シテ商業上ノ信用ハ財産上ノ價格ヲ有スルコト論ヲ埃タス故ニ商業上ノ信用ヲ以テ出資ノ目的トシムルモ出資ノ論理ニ背クモノニ非ス又信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲スルコトヲ許ストキハ之ヲ約シタル者ハ之ニ因リテ社員ト爲ル隨テ其者ハ他人社員ト同シテ會社ノ債務ニ付キ連帯シテ無限ノ責任ヲ負フ故ニ第三者ハ其社員ヲ信シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ニ於テモ第三者ハ會社ガ其社員ノ名ヲ籍タスルカ爲メ少シモ損害ヲ被ルコトナシ加之信用ヲ出資ノ目的トシテ商業上ニ名望アル者ヲ社員ト爲スコトヲ得ルハ會社ノ事業ヲ營ムニ於テ非常ニ便宜トスル所ナリ夫レ此ノ如ク信用出資ヲ許スモ實際ニ弊害ナク却テ大ナル便益アリ是レ爲商

法カ信用ヲ以テ出資ト爲ユテ許シタル所以ナリ故ニ第三者ハ其社員ヲ信シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ニ於テモ第三者ハ會社ガ其社員ノ名ヲ籍タスルカ爲メ少シモ損害ヲ被ルコトナシ加之信用ヲ出資ノ目的トシテ商業上ニ名望アル者ヲ社員ト爲スコトヲ得ルハ會社ノ事業ヲ營ムニ於テ非常ニ便宜トスル所ナリ夫レ此ノ如ク信用出資ヲ許スモ實際ニ弊害ナク却テ大ナル便益アリ是レ爲商
 法カ信用ヲ以テ出資ト爲ユテ許シタル所以ナリ故ニ第三者ハ其社員ヲ信シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ニ於テモ第三者ハ會社ガ其社員ノ名ヲ籍タスルカ爲メ少シモ損害ヲ被ルコトナシ加之信用ヲ出資ノ目的トシテ商業上ニ名望アル者ヲ社員ト爲スコトヲ得ルハ會社ノ事業ヲ營ムニ於テ非常ニ便宜トスル所ナリ夫レ此ノ如ク信用出資ヲ許スモ實際ニ弊害ナク却テ大ナル便益アリ是レ爲商
 法カ信用ヲ以テ出資ト爲ユテ許シタル所以ナリ故ニ第三者ハ其社員ヲ信シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ニ於テモ第三者ハ會社ガ其社員ノ名ヲ籍タスルカ爲メ少シモ損害ヲ被ルコトナシ加之信用ヲ出資ノ目的トシテ商業上ニ名望アル者ヲ社員ト爲スコトヲ得ルハ會社ノ事業ヲ營ムニ於テ非常ニ便宜トスル所ナリ夫レ此ノ如ク信用出資ヲ許スモ實際ニ弊害ナク却テ大ナル便益アリ是レ爲商
 法カ信用ヲ以テ出資ト爲ユテ許シタル所以ナリ故ニ第三者ハ其社員ヲ信シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ニ於テモ第三者ハ會社ガ其社員ノ名ヲ籍タスルカ爲メ少シモ損害ヲ被ルコトナシ加之信用ヲ出資ノ目的トシテ商業上ニ名望アル者ヲ社員ト爲スコトヲ得ルハ會社ノ事業ヲ營ムニ於テ非常ニ便宜トスル所ナリ夫レ此ノ如ク信用出資ヲ許スモ實際ニ弊害ナク却テ大ナル便益アリ是レ爲商

ニ在大ナル理ニ會社ハ爲メテ活動スルモノトシテ、債權ニ在リテハ會社ヲ對テ之ヲ利
 用セシメ、且、同ノ債權カハハ債權讓渡ノ手續ヲ經テ、他債權利在リテハ普通名義
 ノ書據ヲ必要トシ、金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲テ、各場所場合ニ付テハ法律ノ特別
 ノ規定ニ依リテ民法第六百六十九條ニ規定スル所ニシテ社員共出資ヲ爲スル
 トトシテ、タルトキハ遲延利息ヲ支拂フ外尚ホ損害ヲ賠償セシムルハナラズ、民法
 及ヒ商法ノ規定ニ從ハハ金錢債務ハ原則トシテ之ヲ怠ラズキ法定若シハ約定
 ノ利息ヲ支拂フシテ、以テ義務不履行ニ對スル損害賠償ノ方法ト爲シ、此利
 息ノ外ニ尚ホ損害ヲ賠償セシムルコトナラズ、故ニ金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シ
 タル者ノ義務不履行ニ對スル民法第六百六十九條ノ規定ハ、金錢債務ニ關シテハ
 原則ノ例外ヲ爲スモノナリト謂ハサルヘカラス、又社員カ債權ヲ以テ出資ノ目
 的ト爲セル場合ニ債務者ガ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザレバ、社員ハ其辨濟ノ
 責ニ任ズ、此場合ニ於テハ其利息ヲ支拂フ外尚ホ損害ヲ賠償スル責ニ任ズ、第
 三若シ債權者ガ以テ債權ヲ以
 テ出資ノ目的ト爲シ、既ニ之ヲ會社ニ移轉シタル後ニ於テ債務者カ資力ヲ失ヒ

會社ニ損失ヲ生ぜシムルハ、同ホ社員活動產者タルハ不動產ノ所有權ヲ以テ出資
 目的ト爲セル之、會社引致シテ其利益或動產者タルハ不動產ヲ滅失毀損ニ因リ
 會社ニ損失を生ぜシムルコト同シニシテ、理論上ヨリ、損害賠償ノ場合ニ於
 テ社員ニ其缺損ヲ填補スル責任ヲ負キ、同シク前ノ場合ニ於テモ社員共辨濟ノ
 責任ヲ負キ、且、ト爲サザレバハカラス、然ルニ商法カ債權出資ノ場合ニ限リ特別ノ
 規定ヲ爲シ、社員共辨濟ノ責任ヲ負擔セシメタルヲ按ズルニ、此ノ如ク爲サザル
 トキハ有名無實ノ債權ヲ出資ノ目的ト爲セル弊害ヲ生ズル虞アリカ故ナルヘシ
 社員カ出資ヲ爲スル時、同ノ債權トキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出
 資ヲ爲サザレバトキ、會社ニ之ヲ除名スルコトヲ得、第七〇條第一號出資ヲ爲ス
 ル不能ナルトキハ例ヘハ勞務ヲ出資ノ目的ト爲シタル社員カ身體若シハ
 精神ノ衰弱ニ因リ勞務ヲ供スル能ハサルニ至レル如キヲ謂フ社員カ出資ヲ爲
 スコト能ハサルトキ之ヲ除名スルハ會社ノ自由ニ爲シ得ル所ナレトモ之ヲ除
 名スル時、社員共辨濟ノ責ヲ負キ、且、果實其社員ノ出資ノ一部ヲ免除セ
 ルモ、同ノ定款ニ記載出資ノ事項變更ヲ生ぜシムルコトナラズ

變ノ解釋スル所ニ依レテ出資ヲ爲スコト能ハサル社員ヲ除キテトキニ出資ニ關スル定款ノ一部ヲ變更スル必要アリ其社員ノ出資ノ一部ヲ返還スルコトハ會社ノ自由ニ依リ得テ之ヲ爲スルモノナリ

第二項 業務ノ執行

業務ノ執行トハ會社ノ營業ニ屬スル總テノ行為ヲ爲スヲ謂フ是レ業務執行ノ正當ナル意義ナリ然レトモ合名會社ハ商法第五十八條ノ規定ニ依リテ總社員ノ同意アルトキハ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲スコトヲ得ヘタ而シテ此場合ニ於ケル行為ヲ以テ業務ノ執行ニ非スト謂フコトヲ得タルカ故ニ業務執行ナル語ニハ上掲ケタルモノヨリ稍ヤ廣汎ナル意味ヲ與ヘタルヘカラスニ會社ハ法人ニシテ自然人ノ如ク意思能力ナシ故ニ會社カ事業ヲ營ムニ付テハ自然人ノ力ヲ藉ラサルヘカラス業務ノ執行ニ付テ會社ニ代リテ之ヲ爲ス者ヲ業務執行社員ト稱ス業務執行社員ハ業務ノ執行ニ關スル會社ノ機關ナリ是レ酒ニ株式會社ニ於ケル取締役カ業務執行ノ機關タルカ如ク我商法ハ業務ノ執行ヲ爲ス者ヲ社員ニ限ルト爲ス故ニ社員ニ非サル者ハ業務執行社員ト

能ハス是レ會社事業ノ成績ニ重要ナル利害關係ヲ有スル者ニ以テ業務ヲ執行スルコトヲ得ルニ至當ナルカ故外リ其職務ヲ行ハシメテ之ヲ爲スルモノナリ商法第五十六條ノ規定ニ依リテ各社員ハ會社ノ業務ヲ執行スル權利又ハ義務ヲ負フヲ以テ原則トス定款ニ於テ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキハ其社員ハミ業務執行ノ權利ヲ有シ義務ヲ負ヒ他ハ社員ハ其權利義務ヲ有セズ蓋シ合名會社ハ屬述ニタリ如ク社員間ハ信用甚差厚ク且各社員ハ連帶シテ無限責任ヲ負擔スルモノナレハ會社ハ業務ノ執行ニ付テ各社員ヲシテ之ニ干與スルコトヲ得セシムルハ甚ク穩當ナリ唯社員ノ多數ナルトキ又ハ社員中ニ業務執行ノ任ニ當ルコトヲ欲セタル者アルトキ又ハ特ニ會社事業ニ付テ繼續ヲ有スル者アルトキ等ノ場合ニ於テ特定之社員ヲ選任シテ業務執行ノ任ニ當ラシムルハ實際上甚ク便宜ナリ是レ商法第五十六條ノ規定アル所以ナリ夫レ此ノ如ク定款ニ別段ノ定キトキハ各社員ハ業務ヲ執行スル權利義務ヲ有ス然レトモ業務ノ執行ト業務ノ執行ヲ爲スニ決定スル區別アルコトヲ要ス各社員ハ獨立シテ業務ノ執行ヲ爲ス權利義務ヲ有スルニ止マテ如何ナル業務ニカニ

專斷ニテ之ヲ爲スルコトヲ得ルモノニ非ス業務ノ執行ヲ爲スルモノヤ否ヤハ社員ノ過半數ニ依リテ之ヲ決定スルモノナリ唯常務ハ各社員專斷ニテ之ヲ決行スルコトヲ得但其結了前他ノ社員カ異議ヲ論ヘアルモノニ限リ(第五四條民法第六七〇條參照)其ノ明定ナキ限リ商會社ハ十六歳ノ限リハ超過スルヲ得業務執行ノ方法ニ付テハ定款ヲ以テ之ヲ制限シ總社員共同スルニ非ズ他ノ之ヲ爲スコトヲ得スト定款ルコトヲ得業務執行ニ關スル決議ノ方法モ律モ亦同シ業務執行ハ各社員ノ權利ナルカ故ニ他ノ社員ハ之ヲ妨タルコトヲ得ス又業務ノ執行ハ各社員ノ義務ナルヲ以テハ社員カ惡意又ハ過失ニテ業務ヲ執行セザリシ爲メ會社ニ損害ヲ加ヘタルトキハ損害賠償ノ責任ニテ業務上不正ノ行爲アリシトキハ會社ハ他ノ社員ノ一致ヲ以テ其社員ノ除名スルコトヲ得第七〇條第三號參照)其ノ決議ニ依リテ業務執行委員ノ選任ハ其決議定款以テ特ニ業務執行社員ヲ定メ得ルモノナリ其選任セザレバ社員ハ業務執行ノ權利義務ヲ有シ他ノ社員ハ此權利義務ヲ有セザルカ故ニ業務執行ヲ爲スルモノヤ否ヤハ決定地亦業務執行社員ノ過半數ニ依リテ爲スルモノナリ

ナ他ノ社員カ之ニ干與スルコトヲ得タルニ由テ被ク若シ之ニ干與セバ商法第七十條第四號ノ規定ニ依リ除名セザルルコトアリ業務執行社員ノ選任ハ總社員ニ業務執行ノ權利ヲ與フルモノニ非ズシテ他ノ社員ニ業務執行ノ權利ヲ刺奪シ其義務ヲ免除スルモノナリ何トナレハ總社員ハ初ヨリ業務執行ノ權利義務ヲ有スルモノナレハナリ業務執行社員トシテ選任セザルル者ハ正當ノ事由アルニ非テハ辭任スルコトヲ得タルト同時ニ又解任セラルルコトナシ是レ蓋シ業務ノ執行ハ各社員ノ本來ノ義務ニシテ且權利ナルカ爲メニ外ナラス(民法第六七二條參照)其ノ選任ハ其目的ハ業務ノ執行ニ在リ支配人ノ選任及ヒ解任ハ一ノ業務ノ執行ナリ支配人ハ主人ノ營業ニ關シテ概括的ノ代表權ヲ有シ其適任者ナルト否トハ主人ノ營業上ニ重要ナル關係ヲ有ス是ヲ以テ商法第五十七條ハ支配人ノ選任及ヒ解任ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケ業務執行社員ノ定アルトキト雖モ其社員ノ專斷ニ任スルコトヲ許シ總社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルモノト定メタリ(第五八條)合資會社及ヒ合資會社ニ以上ハ合名會社ノ目的ノ範圍内ニ在ル業務ノ執行ニ關シテ法則ヲ說明スル商

法第五十八條ノ規定ニ依リ合名會社ハ總テ其社員ノ同意ヲ得テ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得是レ合名會社及ヒ合資會社ニアル所ニシテ株式會社及ヒ株式合資會社ニ之ヲキ所キ合名會社ノ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲スハ法人ノ理論ニ依リ合名會社ハ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲スコトヲ得ルハ論ヲ埃ク然レトモ我商法ノ如ク會社ヲ以テ法人トスル以上ハ其目的ノ定款ニ依リテ定マリ會社ハ其目的ヲ達センカ爲メニ存在スルモノナラズ其業務モ亦目的ノ範圍内ニ超越スルコトヲ得ス抑モ社團ハ一定ノ目的ヲ爲スニ成立スルモノナリ而シテ法律カ社團ニ人格ヲ認メ之ヲ法人トスルハ其目的ヲ達セシメシトスルニ在リ目的ノ法人ノ神髓モシテ目的ノ大ニハ法人ノ大ニ依リテ定マリ而目的ノ範圍内ニ於テノモ人格ヲ有ストスルハ理論上正當ナルカ如ク民法第四十三條カ法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行為ニ依リテ定テ其目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負スト定テ其目的ヲ達セシメルモノト

ス果シテ然ラハ法人タル會社カ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲スハ法人ノ理論ニ依リ合名會社モト明ニサレベカラス此理論ヲ貫徹スルトキハ法人ノ如何ナル手續ヲ以テスルモ其目的ノ變更更スルコト能ハサルモノト爲スルカ否カトス然ルニ民法及ヒ商法ハ其定款變更ノ手續ヲ以テ法人ノ目的ヲ變更スルコトヲ許セリ是レ實際上ノ便宜ヲ圖リタルニ外ナラス故ニ問題ハ會社カ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲スコトヲ得ルカ否カニ在ラスシテ會社ヲシテ目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲シムルハ實際上便宜ナルカ否カニ在リ予輩ハ商法第五十八條カ合名會社ニ許ズニ目的ノ範圍外ノ行為ヲ爲スコトヲ以テシタルニ拘ハラズ株式會社及ヒ株式合資會社ニ之ト同一ノ規定ヲ爲ササルハ如何ナル理由ニ出ツルモノナラヤ知ルコト能ハサルナリ合名會社カ其目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲スニハ總テ其社員ノ同意ヲ必要トスルカ故ニ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ其社員ノ同意ヲ必要トスルカ否カトモ得スルモノトモ社員ノ同意ヲ必要トスルカ否カトモ之ヲ爲スコトヲ是ヨリ社員カ業務ヲ執行スルニ付テ有スル權利義務ニ付テ說明セシム社員カ會

社ノ業務ヲ執行スルハ如何ナル法律關係ニ基キヤ會社ハ會社ナル法人ノ業務ニシテ社員ノ業務ニ非ス故ニ社員カ會社ノ業務ヲ執行スルハ會社ナル他人ノ爲メニ行爲ヲ爲スモノニシテ其關係ハ委任ノ關係ト加シ唯之ヲ以テ純然タル委任關係ト看ルコト能ハサルモノナリ何ソキ特ニ業務執行社員ヲ定メタル場合ニ於テ各社員カ業務執行ノ權利義務ヲ有スルハ商法第五十六條ノ規定ニ基クモノニシテ會社ト社員トノ間ニ委任契約カ成立セシモノト看ルコト能ハス又特ニ業務執行社員ヲ定メタル場合ニ於テモ其社員カ業務ヲ執行スル權利義務ヲ有スルハ定款ニ依ルニ非ズシテ商法第五十六條ノ規定ニ依ルモノナリ此場合ニ於テ他ノ社員ハ業務執行ノ權利義務ヲ失フモノニシテ會社ト業務執行社員トノ間ニ委任契約ノ成立ナシ是レ業務執行ニ付キ會社ト社員トノ關係ヲ以テ純然タル委任關係ト看ル能ハサル所以ナリ然レモ其性質ハ最モ密ク委任關係ニ類似シ之ト同一ニ規定スル點トヲ得ルヲ以テ商法第五十四條民法第六百七十一條中之ニ對シ委任ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタリ業務執行ニ付キ社員ヲ有スル權利義務左ノ如クニ定メテ置カス

(一) 社員ノ義務

(イ) 社員ハ善良ナル管理ヲ注意ヲ以テ業務ヲ執行スル責任ナリ民法第六十四條參照) 社員ハ利益ニ適當ニ注意シテ執行スルハ會社ト社員トノ間ニ委任契約ノ成立ナシ是レ業務執行ニ付キ會社ト社員トノ關係ヲ以テ純然タル委任關係ト看ル能ハサル所以ナリ然レモ其性質ハ最モ密ク委任關係ニ類似シ之ト同一ニ規定スル點トヲ得ルヲ以テ商法第五十四條民法第六百七十一條中之ニ對シ委任ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタリ業務執行ニ付キ社員ヲ有スル權利義務左ノ如クニ定メテ置カス

(ロ) 社員ハ業務ヲ執行スルニ當リ會社ノ爲メニ受取リタル金銀其他ノ利益ヲ會社ニ引渡シ又ハ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ會社ニ移轉スル義務アリ引渡又ハ移轉ヲ怠ラズ其引渡スヘカリン日以後ノ利息ヲ支拂ハサルヘカラス(民法第六四六條參照) 社員ハ會社ノ爲メニ受取リタル金銀其他ノ利益ヲ會社ニ引渡シ又ハ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ會社ニ移轉スル義務アリ引渡又ハ移轉ヲ怠ラズ其引渡スヘカリン日以後ノ利息ヲ支拂ハサルヘカラス(民法第六四六條參照) 社員ハ會社ノ爲メニ受取リタル金銀其他ノ利益ヲ會社ニ引渡シ又ハ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ會社ニ移轉スル義務アリ引渡又ハ移轉ヲ怠ラズ其引渡スヘカリン日以後ノ利息ヲ支拂ハサルヘカラス(民法第六四六條參照) 社員ハ會社ノ爲メニ受取リタル金銀其他ノ利益ヲ會社ニ引渡シ又ハ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ會社ニ移轉スル義務アリ引渡又ハ移轉ヲ怠ラズ其引渡スヘカリン日以後ノ利息ヲ支拂ハサルヘカラス(民法第六四六條參照)

(二) 社員ノ權利

(イ) 社員ハ特約アリテ非テハ業務執行ニ付テ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス(民法第六四七條參照) 社員ハ會社ノ爲メニ受取リタル金銀其他ノ利益ヲ會社ニ引渡シ又ハ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ會社ニ移轉スル義務アリ引渡又ハ移轉ヲ怠ラズ其引渡スヘカリン日以後ノ利息ヲ支拂ハサルヘカラス(民法第六四六條參照)

(一) 社員ノ業務ヲ執行スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ會社ニ對シテ其前拂ヲ請求スルコトヲ得民法第六四條參照ニ於テ聲明ヲ請求スルモノイマザルニ付キ

(二) 社員ノ業務ヲ執行スルニ付キ必要ト認ムヘキ費用ヲ支出シタルトキハ會社ニ對シテ其費用及支出ノ日以後ニ於テ其利息ノ償還ヲ求ムルコトヲ得又社員カ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ會社ニ對シテ自己ニ代テ其債務ヲ爲サシメ又其債務カ清期ニ至ラザルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得又社員カ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ會社ニ對シテ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノイハレリ

以上ハ業務ノ執行ニ關スル法則ノ說明ナリ茲ニ附加シテ業務ノ監督ニ付キハ首シテ定款ヲ以テ特ニ業務執行ノ社員ヲ定メタル場合ニ於テ他ノ社員ハ業務執行ニ干與スル權利ヲ有セザルモ業務執行ノ良否ハ會社ノ盛衰ヲ大ニ關係シテ業務ノ執行ヲ監督スル權利ヲ有セシムルコトニ於テ適當ナリ業務執行ノ權利ヲ有セザル社員ハ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ検査スル

コトヲ稱(民法第六四九條參照)是レ即チ合名會社ノ業務監督ノ目的トスル機關ニシテ猶ホ株式會社ノ監査役ノ如シイニハテモ同ノ旨ヲ以テテ規定スルヘキモノイハレリ

第三項 就業ノ禁止

社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非テハ自己又其第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス是レ民法第六十條第一項ノ規定スル所ニシテ社員カ會社ニ對シテ有スル一ノ義務ナリ此規定ノ理由ヲ約言スレバ社員又ハ第三者ノ利益ト會社ノ利益トノ衝突ヲ避ケルニ在リ蓋シ合名會社ハ社員ハ特ニ業務執行社員ヲ選任セザルトキハ皆業務ヲ執行スル權利ヲ有シ特ニ業務執行社員ヲ選任シタルトキハ會社ノ財產及ヒ業務ノ狀況ヲ検査スル權利ヲ有スルカ故ニ何レノ場合ニ於テモ能ク會社ノ業務及ヒ財產ノ狀況ヲ知ルコトヲ得然ルニ社員カ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲リテ其會社ノ業務ヲ執行ス

又ハ監督スルトキハ自ラ其地位ヲ利用シ自己若クハ第三者又ハ他ノ會社ノ利益ヲ圖リ會社ニ損失ヲ被ラシムルキ虞アリ是レ法律カ社員ニ職業禁止ノ義務ヲ負ハシメタル所以ナリ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲ストハ自己又ハ第三者ノ計算ニ於テ商行爲ヲ爲スヨリテ兩方モハシテ其名稱ハ何人ノ名稱ヲ以テスルモ區別ナシ隨テ自己又ハ第三者ノ名稱ヲ以テスルモ其實會社ノ計算ニ於テ爲スモシハ本條ニ場合ニ入ラヌ又社員ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得サルノミナラカ故ニ株式會社又ハ株式合資會社ノ株主ト爲リ又ハ合資會社ノ無限責任社員ト爲ルストハ法律ノ禁スル所ニ非ス是レ株主其他ノ無限責任社員ハ其資格ニ於テ當然會社ノ業務ヲ執行シ又ハ監督スル權利ヲ有セザルカ故ナリ但合名會社ノ社員ハ株式會社ノ取締役ト爲ルヲ得ストナレハ取締役ハ株式會社ノ業務ヲ執行スル者ニシテ商法第六十條第一項ニ所謂第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲ス者ナレハナリ商行爲カ會社ノ營業部類ニ屬スルヤ否ヤ他ノ會社カ同種ノ營業ヲ目的トスルヤ否ヤ各場合ニ付キ審查スヘキ事實問題ナリ他ノ社員ノ承諾ニ必ズシテ明示カルモノト要セズ社員ノ限員會

社ノ無限責任社員タルコトヲ認メナカラ之ヲ入社後シテタリ場合等ニ於テハ暗黙ニ承諾ヲ與ヘタルモノト推徹スルコトヲ得ルニ依リテ社員ノ限員ニ依リテ商法第六十條第一項ノ規定ハ第三十二條第一項ノ規定ト能ク類似セリト雖モ全ク其精神ヲ異ニス第六十條第一項ハ利益ノ衝突ヲ防止スルヲ以テ目的トシレトモ第三十二條第一項ハ支配人ヲシテ忠實ニ其義務ヲ盡サシムルヲ目的トス之ヲ以テ合名會社ノ社員ハ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得タルニ止マレ其制限ハ別種類ノ商行爲又ハ營業ニ及ハスト雖モ支配人ハ商行爲又ハ營業カ主人ノ營業ト同種ナルヤ否ヤ問ハス總テ之ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルヲ得ス第六十條第一項ヲ以テ會社ノ業務ニ忠實ナラシメシテ其義務ヲ履行セタル規定ナリトスルハ正當ノ見解ニ非スルニシテ其義務ヲ盡シタル後其責任社員カ此職業禁止ノ義務ニ違反シタル下キ如何ナル制裁アリヤ之ニ付テ總テノ場合ニ共通ナル制裁ハ他ノ社員ヲ一致ヲ以テ其社員ノ姓名ヲ且損害アリタルトキハ之ヲ賠償セシムルコト是ナリ(第七〇條第二號參照)唯社員カ自己ノ爲

メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シタル場合ニ付テ特別ノ規定アリ
 即チ此場合ニ於テハ他ノ社員ハ過半數ノ決議ニ依リ其行爲ヲ以テ會社ヲ爲シ
 ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得之ヲ會社ノ引受權ト謂フ此權利ハ會社カ社
 員ニ對シテ有スル權利ニシテ第三者ニ對スルモノニ非ス故ニ會社ハ其行爲ヲ
 原因トシ第三者ニ對シテ直接ニ權利ヲ行使スルコトヲ得ス第三者モ亦社員ニ對
 シテノ義務ノ履行ヲ爲シ得ルモノニシテ會社ニ對シテ之ヲ爲スモ社員ニ對ス
 ル責任ヲ免ルルコトヲ得ス但會社カ引受權ノ實行ニ依リ社員ヲシテ第三者ニ
 對スル權利ヲ讓渡シシメタルトキハ此限ニ在ラス法律カ此權利ヲ認メタル所
 以ノモノハ會社ヲシテ社員ノ行爲ニ因リ損害ヲ被ルコトヲ防シ得ンガ爲メ
 ニ外ナラス故ニ會社ハ利益アル場合ニ於テ之ノミ之ヲ行使スルヲ得然ラザル場
 合ニハ損害賠償ヲ以テ満足セザルヘカラス損害賠償ノ權利ト引受權トハ其性
 質相反スルモノナリ故ニ會社ハ二者ノ中其一ヲ行使スルコトヲ得ルニ止リ
 二者共ニ之ヲ行フコトヲ得ズ引受權ヲ行使スル方法ニ二アリ(一)社員ノ爲シタ
 ル商行爲カ未タ完結セザル場合ニハ會社ハ社員ニ對シ其行爲ヲ注シタル債

權ノ讓渡ヲ爲シシムルコトヲ得(二)其行爲カ既に完結シタル場合ニハ會社ハ社
 員カ之ニ因リテ得タル利益ヲ會社ニ移轉セシムルコトヲ得(三)其行爲カ未
 會社カ引受權ヲ行使シタルトキハ會社ト社員トノ間ノ關係ハ一ト業務執行ノ
 關係ナリ故ニ會社ハ社員カ其行爲ヲ爲スニ付キ支出シタル必要ナル費用ヲ辨
 償シ又ハ社員カ其行爲ニ因リテ負擔シタル債務ヲ自ラ辨濟スル責任アリ是レ
 業務執行ニ關スル法則ノ適用ニ外ナラス(四)會社ハ其行爲ニ對シテ無
 此引受權ハ社員カ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタル場合又ハ他ノ會社ヲ無限
 責任社員ト爲リテ其會社ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタル場合ニ適用ナシ是レ蓋シ
 社員ノ爲シタル不法ノ行爲ニ對シ會社ヲ保護スルカ爲メニ第三者ノ利益ヲ害
 スルハ到底許スヘキコトニ非サレハナリ引受權ハ他ノ社員ノ一人カ其行爲ヲ
 知リタル時ヨリ二週間又ハ行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス是レ
 當事者間ニ於ケル法律關係ヲシテ永ク不確定ナラシムルヲ避ケンカ爲メナリ
 此權利ノ消滅ハ時效ニ因ルモノニ非サルコトヲ注意スヘシ

第二款 社員ノ權利

第一項 會社ノ機關ニ干與スル權利

此權利ヲ說明スルニ付テハ先ズ會社ノ機關トハ如何ナルモノヲ謂フヤヲ明カニスルノ必要アリ抑モ合名會社ハ法人ニシテ自然ノ意思ヲ有セザルカ故ニ自然人ヨリ成立スル種種ノ機關ヲ必要トス此機關ニハ四アリ(第一)會社ノ業務ヲ執行スルコトヲ以テ目的トスル所ノ機關之ヲ執行機關ト稱ス(第二)會社ヲ代表スル機關之ヲ代表機關ト稱ス(第三)會社ノ業務ノ監督ヲ以テ目的トスル機關之ヲ監督機關ト稱ス(第四)此等ノ諸機關ノ上ニ立テテ之ヲ統括シ重要ナル事項ノ裁決ヲ爲スヲ目的トスル機關之ヲ最高機關ト謂フ第一ノ機關ハ業務執行社員第二ノ機關ハ代表社員第三ノ機關ハ業務執行ノ權利ヲ有セザル社員第四ノ機關ハ總社員ヲ以テ組織ス此四者ハ法律カ合名會社ニ要スル所ノ機關ナリ他會社カ便宜上支配人其他ノ商業使用人ヲ選任シテ會社ノ業務ヲ執行セシムルコトヲ得ルハ論ヲ埃タス但監督機關ハ時トシテ存在セズモトシテ之ヲ專テ會社

員カ業務執行ノ權利義務ヲ有スル場合はナリ
 商法第五十四條ニ依リ合名會社ノ業務執行ニ付キ專用セラルル民法第六百七十三條ニハ各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得トアリテ之ヲ合名會社ニ專用スルキハ各社員ハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得ルカ故ニ各社員カ業務執行ノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ勿論業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢查スル權利ヲ有スルカ如キ觀アリ然リト雖モ業務ノ執行ト業務ノ監督トハ其性質ヲ異ニシ各社員カ業務執行ノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ之ニ業務監督ノ權利ヲ認ムル必要ナシ株式會社ニ於テ監督役ニ取締役及ヒ支配人ヲ兼任スルコトヲ禁ジタルハ即チ此理由ニ出テ故ニ合名會社ニ於テ各社員カ業務執行ノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ業務執行ノ機關アルモ業務監督ノ機關ナキモノト謂ハサルヘカラス
 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ業務ヲ負フコト及ヒ業務執行ノ權利ヲ有セザル社員ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況

況テ検査スルモ得ル本節第一款第三項ニ說明セラル所ナリ社員カ執行機關及監督機關ニ于其スル權利ヲ有スルコト之ニ依リテ見ルモ明カナリ會社ノ代表機關タル代表社員ニ付テハ次節ニ於テ之ヲ説明スヘシト雖モ茲ニ其要領ヲ示セテ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ各社員ハ會社ヲ代表スル權限ヲ有ス(第六一條參照)社員カ會社代表機關ニ于其スル權利ヲ有スルコト此規定ニ依リテ明カナリ業務ノ執行ハ會社ノ代表トシテ其性質ヲ異ニスル事項ニシテ之ヲ區別スルヲ要ス業務ノ執行ハ會社ト社員トノ間ノ關係即チ内部ノ關係ナルモ會社ノ代表ハ會社ト第三者トノ關係即チ外部ノ關係ナリ會社ノ業務ノ重要ナルモノハ法律行為ナリ而シテ其法律行為ニ因リ會社ヲシテ第三者ニ對シ權利義務ヲ有セシムルモノ其行為ヲ爲ス所ノ社員ニ會社ヲ代表スル權限アルコトヲ必要トス故ニ業務執行ノ權利ヲ有スル社員ハ亦會社ヲ代表スル權限ヲ有スルコト普通ノ狀態ナリ然レトモ時トシテ社員ハ業務執行ノ權利ヲ有スルモ會社ヲ代表スル權限ヲ有セザルコトアルベク又代表ハ權限ヲ有スルモ業務執行ノ權利ヲ有セザルコト

アルヘシ前ノ場合ニ於テ社員カ會社ノ爲メニ法律行為ヲ爲シタルトキハ當然會社ニ對シテ其效果ヲ生ズルモ會社カ之ヲ追認シタルトキハ會社ニ對シテ其效果ヲ生ズ又社員ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ法律行為ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其法律行為カ直接ニ會社ニ對シテ效果ヲ生ゼサルハ勿論ナレトモ會社ハ其行為ヨリ生シタル利益ヲ享受スルコトヲ得何トナレハ其行為ハ社員ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ爲サレタルモノナレハナリ但社員カ其行為ノ爲メニ必要ナル費用ヲ支出シタルトキハ之ヲ辨償シ又必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ社員ニ代リテ之ヲ辨償スルコトヲ要ス民法第六五〇條參照是ニ依リテ觀ルモ社員カ代表ノ權限ヲ有セザルモ業務執行ノ權利ヲ有スルトキハ會社ノ爲メニ法律行為ヲ爲シ得ルコト明カナリ況ヤ法律行為ニ非ザル行為ヲ爲スニ於テヤ後ノ場合即チ社員カ業務ノ執行ヲ爲シタルトキハ會社ハ商法第七十條第四號ノ規定ニ依リテ該社員ヲ除名スルコトヲ得然レトモ其行為ハ代表權アル者ノ爲シタルモノナルカ故ニ第三者ト會社トノ間ニ於テハ完全ニ其效果

商法會社 會社ノ法律關係 會社ノ内部ノ關係

ヲ發生ス夫レ此ノ如ク業務ノ執行ト會社ノ代表トハ其性質ヲ異ニス隨テ執行機關ヲ組織スル社員ト代表機關ヲ組織スル社員トカ同一人ナル場合ニ於テモ常ニ區別シテ觀察セザルヘカラス商法ノ規定ニ依レハ業務執行社員ハ定款ヲ以テ若クハ定款ニ定メタル方法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ要スルモ代表社員ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス(第五六條第六一條參照)其結果トシテ代表社員ハ單ニ總社員ノ同意ヲ以テ解任スルコトヲ得レトモ定款ニ依リテ選任シタル業務執行社員ハ定款變更ノ手續ヲ爲スニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得ス但正當ノ事由アルトキハ他ノ社員ノ同意ヲ以テ業務執行社員ヲ解任スルコトヲ得民法第六七二條參照)

以上ニ說明シタル三機關ノ上ニ立テテ之ヲ總括シ重要ナル事項ノ裁決ヲ爲ス所ノ最高機關ハ總社員ナリ社員カ此最高機關ニ干與スル權利ヲ有スルコトハ言ハスシテ明カナリ合名會社ノ總社員ハ株式會社ノ株主總會ニ該當スルモ此機關カ行動ヲ爲スニ付テ株主總會ノ如ク法律ニ何等ノ規定ナキカ故ニ總社員カ一場ニ會合シ決議ノ方法ニ依ルコトヲ必要トスルモノニ非スト解スルヲ至

當トス此機關ニ干與スルコトヲ得ル者ハ各社員ナレトモ之ニハ三箇ノ例外アリ第一ハ社員カ就業禁止ノ義務ニ違反シテ自己ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル行為ヲ爲シタルトキ其行為ヲ會社ニ引受クル場合第六〇條第二項參照)第二ハ社員ヲ除名スル場合第七〇條參照)第三ハ正當ノ事由アリタルトキ業務執行社員ヲ解任スル場合民法第六七二條參照)是ナリ此三箇ノ場合ニ於テ當該社員ノ同意ヲ必要トスルトキハ會社ハ到底其處分ヲ爲スコトヲ得ス是レ法律カ此三場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ事ヲ處決スルコトヲ許シタル所以ナリ此他各社員カ此最高機關ニ干與スル權利ヲ有スル法則ニ對シ例外ヲ爲スカ如キ觀アルモノアリ商法第五十九條及ヒ第六十條第一項ニ規定スルモノ即チ是ナリ社員カ持分ノ讓渡ヲ以テ會社ニ對抗スルニ他ノ社員ノ承諾アルコトヲ要シ又自己若クハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルニ他ノ社員ノ承諾アルコトヲ要ス然レトモ此二箇ノ場合ニハ當該社員ノ申込ニ對シ他ノ社員ノ承諾アルモノニシテ結局持分ノ讓渡又ハ該業の行為ハ總社員ノ同意アルニ因

リテ會社ニ對シ其效果ヲ生スルモノナリ故ニ此二場合ハ決シテ原則ニ對スル
 例外ヲ爲スモノニ非ス
 法律ハ最高機關カ重要事項ノ裁決ヲ爲スニ付キ其方法ヲニ二分テタリ一ハ總
 社員ノ同意ヲ要シ一ハ總社員ノ過半数ノ同意ヲ要ス總社員ノ同意ヲ要スル事
 項ハ左ノ如シ
 一 定款ノ變更(第五八條)
 二 目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スコト(第五八條)
 三 持分ノ讓渡(第五九條)
 四 競争ノ行爲ノ承許(第六〇條第一項)
 五 代表社員ヲ定ムルコト(第六一條參照)
 六 退社(第六九條第二號參照)
 七 解散(第七四條第三號參照)
 八 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル解散事由ノ發生シタルトキ會社ヲ繼
 續スルコト(第七五條參照)

九 會社ノ合併(第七七條參照)
 十 解散後ニ於ケル會社財産ノ處分方法(第八五條參照)
 此他正當ノ事由アルトキ業務執行社員ヲ解任スルトキ及ヒ社員ヲ除名スルト
 キニハ他ノ社員ノ同意ヲ要スルコト前述セルカ如シ
 總社員ノ過半数ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ
 一 支配人ノ選任及ヒ解任(第五七條)
 二 社員カ自己ノ爲メ競争ノ行爲ヲ爲シタルトキ引受權ヲ行フコト(第六〇條
 第二項)
 社員ノ議決權ハ平等ナルヲ原則トス是レ合名會社ノ社員ハ各自無限責任ヲ負
 擔スルモノニシテ會社事業ニ對スル利害ノ關係ハ相同シキモノト認ムルコト
 ヲ得ルカ故ナリ然レトモ定款ニ於テ之ト反對ノ規定ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論
 法律ノ禁スル所ニ非ス(第五四條)

第二項 會社財産ノ分配ヲ受ケル權利

社員ハ出資ヲ爲シ會社ノ資産ヲ形成スルモノニシテ會社ハ其資産ヲ以テ事業ヲ經營ス而シテ會社ノ事業ハ社員ノ利益ヲ目的トスルモノナルカ故ニ會社ノ財産ニ付キ社員ニ或權利ヲ與フルハ甚タ正當トスル所ナリ唯之カ爲メ他人ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス組合ニ於テ各組合員カ組合財産ノ分配ヲ受クル權利ハ組合財産カ組合員ノ共有財産ナリトノ理由ニ出ヅルモノナリ之ニ反シ社員ノ有スル會社財産ノ分配ニ與ル權利ハ法律カ特ニ社員ニ與ヘタルニ因ル是レ二者ノ甚シク異ナル要點ナリ此權利ハ分レテ三ト爲ル(一)利益ノ配當ヲ受クル權利(二)持分ノ拂戻ヲ受クル權利(三)殘餘財産ノ分配ヲ受クル權利是ナリ六〇

第一 利益ノ配當ヲ受クル權利
會社ハ其資本ノ額ニ對スル財産ヲ保有スルコトヲ要シ之ヲ資本維持ノ原則ト云フコトハ既ニ述ヘタル所ナリ若シ財産ノ價額カ資本ノ額ニ超過スルトキハ其差額ヲ利益ト稱ス此利益ハ會社事業ニ因リテ生スルコトアリ或ハ經濟上ノ狀況ノ變動ニ俾ヒ財産ノ價額ノ騰貴シタルニ因リ自然ニ生スルコトアリ何レノ場合ニ於テモ其利益ヲ社員ニ分配スルハ第三者ノ利益ヲ害スルコトナク之

ニ依リテ社員ノ欲望ヲ満足セザルニ由リ得ルカ故ニ法律カ社員ニ與フルニ利益ノ配當ヲ受クル權利ヲ以テ第六百三十四條ニ於テ「會社ノ利益ノ配當ハ社員ノ利益ヲ配當ヲ求ムル權利ハ何時發生スルモノナルヤ予單ノ解スル所ニ依レム此權利ハ會社ノ業務執行機關カ利益ヲ配當ヲ爲スヘキコトヲ決定シタルトキニ發生ス株式會社ニハ此點ニ付キ詳細ナル規定アリテ取締役ハ利益ノ配當ニ關スル議案ヲ作リテ監査役ニ提出シ監査役ハ之ヲ検査シテ報告書ヲ作リ株主總會ノ承認ヲ得タルトキ各株主ハ利益配當ノ權利ヲ取得ス合名會社ニ在リテハ此ハ如キ詳細ナル規定ナシト雖モ實際ニ於テハ之ト同様ノ手續ヲ爲スヘキモノナリト信ス(第一九〇條乃至第一九二條參照商法第二十七條ノ規定ニ依レハ利益ノ配當期ニ於テ業務執行社員ハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り會社財産ノ狀況ヲ明カニス而シテ會社事業ノ狀態ニ從ヒ利益ノ配當ヲ爲スヘキヤ否ヤ若シ配當スルキモノトモハ其額決定メタルヘカラスニ其額ノ大小ハ商法第六十七條ノ規定ニ依レハ會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ナレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ此規定ハ予單ノ見ル所ニ依レハ殆ト其必要ナシ抑モ利

益トハ會社財產ノ價格カ資本ノ額ニ超過セルトキ存在スルモノナルカ故ニ損失ヲ填補シタル後ニ非ズルハ利益ナルモノアリ得ヘカラス故ニ此規定ハ當然ノ事項ナリ唯通俗ニ於テハ或事業年度ニ於ケル支出ト收入トヲ比較シ收入カ支出ニ超過スルトキハ之ヲ以テ面サニ利益アリタルモノト看ル場合アリ然レトモ道ハ利益ナル語ハ正確ナラザル用例ニシテ探ルニ足ラス會社力損失ヲ彌補セスシテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ即チ利益ナキニ利益アルモノトシテ會社財產ヲ分配シタルモノナルカ故ニ社員ハ不當ニ利得ヲ得タルモノナリ會社ノ債權者ハ之カ爲メニ其利益ヲ害セラル故ニ會社ノ債權者ハ社員ニ對シ之ヲ返還セシムルコトヲ得會社力不當利得ヲ原因トシテ社員ニ其返還ヲ求ムルヲ得ルハ論ヲ埃タス會社力不當利得ノ原因トシテ社員ニ其返還ヲ求ムル利益ノ配當ハ會社ノ内部ノ關係ナリ故ニ其割合ハ定款ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得若シ定款ニ別段ノ定ナキトキハ商法第五十四條ニ依リ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス而シテ民法第六百七十四條ニ依リハ利益配當ノ割合ハ出資ノ額ニ依リテ定マルヲ原則トス是レ出資ノ額ハ社員力會社事業ニ干與ス

ル程度ヲ示スモノナルヲ以テ之ニ從ヒテ利益ノ配當ヲ爲スラ經營トス謂フ利益配當ノ效果如何ト云フニ會社力遺法ノ手續ニ依リ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ其財產ハ社員ノ所有ニ歸スルコト論ヲ埃タス未タ配當ヲ實施セザル以前ニ在リテモ既ニ利益ヲ配當スヘキコト確定シタルトキハ利益配當ノ目的トスル社員ノ權利ハ既ニ發生シタルモノナルカ故ニ其後會社ニ損失ヲ生スルモ社員ノ此權利ハ其レカ爲メニ影響ヲ受タルコトナシハ當然又ハ債權者ハ其出資ノ額ニ對シテ持分ノ拂戻ヲ受タル權利ヲ有ス故ニ其權利ハ其出資ノ額ニ對シテ合名會社ノ社員ハ各持分ヲ有ス社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ其持分ヲ讓渡シタルトキハ該社員ハ之ニ因リテ會社ヨリ脱退スルコトハ商法第七十三條第二項ノ解釋上疑ヲ容レヌ故ニ持分ハ社員タル資格ノ要件ニシテ之ヲ有スル者ハ社員タリ之ヲ失フ者ハ社員タル資格ヲ失フ然ラハ持分トハ果シテ何ヲ云フカ是レノ問題ナリ蓋シ會社ハ社員カ互ニ財產ヲ讓出シテ會社ノ資產ヲ形成シ之ヲ資本トシテ其共同ノ事業ヲ營ムコトヲ目的トスル一ノ經濟の制度ナリ會社ノ資產ハ社員ノ出資ヨリ成立ス故ニ社員ハ法律上會社財產ノ上ニ直接ニ物權

ヲ有スルモノニ非ズト雖モ出資ヲ爲シ會社ノ資產ヲ形成ストノ理由ニ依リ會社ニ對シ一種ノ財產上ノ關係ヲ有セタルヘカラス此關係ハ金錢上ノ價格ヲ有シ會社財產ノ狀況ニ因リ異動ス此關係ヲ其作用ノ方面ヨリ觀察スルトキハ出資ノ義務利益ノ配當ヲ受クル權利退社シタルトキ持分ノ價額ニ應シテ會社財產ノ一部ノ拂戻ヲ受クル權利及ヒ會社カ解散シタルトキ殘餘財產ノ分配ヲ受クル權利ト爲ル故ニ予輩ハ持分ヲ解シテ社員カ其資格ニ於テ會社財產ニ與ル關係ナリト言ハント欲ス

以上ハ予輩カ社員ノ持分ニ付テ有スル見解ナリ今此見解ノ正當ナルコトヲ法文ニ依リテ證明セント欲ス商法第七十一條ニハ社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得トアリ此規定ニ依レハ社員ハ如何ナル種類ノ出資ヲ爲シタル場合ト雖モ退社シタルトキハ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得此規定ノ裏面ニ於テハ出資ヲ爲ササル者ハ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得ス故ニ社員ノ持分ハ出資ヲ原因トシテ發生スルモノナルコト疑ヲ容レズ次ニ持分ノ拂戻ハ社員ト會社トノ間ノ關係即チ内部ノ關

係ニシテ商法第五十四條ニ依リ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ而シテ民法第六百八十一條ニ依レハ組合員ハ脫退ノ當時ニ於ケル組合財產ノ狀況ニ從ヒ持分ノ拂戻ヲ受ケ且其拂戻ハ出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ爲サルヘキモノナリ此規定ヲ會社ニ準用スルトキハ社員ノ持分ハ會社財產ノ狀況ニ因リ變動スル所ノ金錢ニ見積リ得ヘキ財產上ノ關係ナルコト明カナリ又各社員ハ商法第五十四條民法第六百七十四條及ヒ第六百八十八條第二項ノ規定ニ依リ出資ノ額ニ應シテ利益ノ分配ヲ受ケ又會社解散ノトキ殘餘財產ノ分配ヲ受クルコトヲ得是ニ依リテ觀ルニ持分ハ社員カ出資ヲ爲スニ因リテ會社財產ノ分配ヲ受クルニ在ルコト明カナリ

或ハ曰ク持分ハ社員カ其資格ニ於テ有スル權利義務ノ全體ナリト蓋シ論者ノ意ハ財產上ノ權利義務ノ外ニ社員ノ有スル業務執行ノ權利義務若クハ業務監督ノ權利ヲ包括シテ持分ナリトスルニ在リ然レトモ此ノ如ク持分ヲ解釋スルトキハ持分ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ於テ讓渡人ハ之カ爲テ毫毛業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ニ影響ヲ受ケサル理由ヲ説明スル能ハズ予輩ハ社員

ノ財産上ノ權利義務ヲ以テ社員ノ基本タル權利義務トシ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ以テ社員ノ從タル權利義務トス蓋シ後ノ權利義務ハ社員ノ財産上ノ權利ヲ確保センカ爲メニ付與セラレタルモノナリ隨テ後ノ權利義務ハ財産上ノ權利義務ニ隨伴ス財産上ノ權利義務ヲ有スル者ハ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ有シ財産上ノ權利義務ヲ有セサル者ハ此權利義務ヲ有セス持分ノ一部ヲ讓渡シタル社員カ其讓渡以後ニ於テモ從前ト同一範圍ニ於テ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ有スルハ即チ此理ニ因ル予輩ノ言ハント欲スル所ハ社員タルカ故ニ持分ヲ有スルニ非ス持分ヲ有スルカ故ニ社員タリ而シテ社員タルカ故ニ業務執行若クハ業務監督ノ權利ヲ有スルモノトス退社員ハ任意ノ退社ト不任意ノ退社トヲ區別セス持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得此請求權ハ社員ノ有スル純然タル一ノ債權ナリ故ニ若シ會社カ退社員ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テハ其債權ト社員ノ此權利トヲ相殺スルコトヲ得又此請求權ハ退社員カ金錢其他ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ハ勿論勞務又ハ信用ヲ以テ出資トシタル場合ニ於テモ存在ス但定款ニ別段ノ定

アルトキハ此限ニ在ラス(第七一條)舊商法第二百二十四條ハ勞力又ハ退社ト共ニ終止スル所ノ出資ヲ爲シタル者ニ付テハ特別ノ合意アルニ非テハ報償ヲ爲ス義務ナキ旨ヲ規定セリ之ヲ説明スル者ハ曰ク此等ノ出資ハ退社後會社ニ殘存スルモノニ非スシテ會社ハ之カ爲メ利益ヲ受クル所ナキカ故ニ報償スル義務ナキナリト然レトモ勞力信用其他退社ト共ニ終止スル所ノ出資モ金錢其他ノ出資ト同シク會社ノ資産ヲ組成スルモノナルカ故ニ其社員モ亦他ノ社員ト同シク會社ニ對シテ財産上ノ關係ヲ有セサルヘカラス既ニ財産上ノ關係ヲ有スル以上ハ退社後其出資ノ目的カ會社ノ財産ニ殘存スルト否トニ因リテ二ノモノノ間ニ區別ヲ設クルコト能ハス況ヤ勞力ノ如キモノモ之ヲ會社ニ供給シタル結果ハ永ク存續スルニ於テラヤ

持分ノ拂戻ハ會社ノ財産中ヨリ爲スヘキモノニシテ其計算ハ退社ノ當時ニ於ケル會社財産ノ狀況ニ從ヒテ之ヲ爲ス故ニ會社ノ財産カ會社ノ資本ニ超過スル場合ニ於テハ多額ノ拂戻ヲ受クルモ之ヨリ減少スルトキハ少額ノ拂戻ヲ受ケナルヘカラス要スルニ拂戻ノ價額ハ資本ヲ標準トセスシテ財産ヲ以テ標準

ト爲スモノナルカ故ニ決シテ一定不動ノモノニ非ス法律カ此ノ如ク退社ノ常時ニ於ケル財産ヲ以テ持分拂戻ノ標準ト爲シタルハ退社員ハ退社前ニ生シタル會社ノ損益ニ就テ持分ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フカ故ニ外ナラス而シテ其拂戻ハ出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ爲スヘキモノナリ特別ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス退社員カ會社財産ノ分割ヲ請求スルコトヲ得サルハ會社財産ノ上ニ共有權ヲ有セザレハナリ會社ハ退社ノ當時ニ於ケル財産ノ貸借對照表ヲ作りテ以テ其狀況ヲ明カニシ退社員ノ持分ニ應ジテ之ヲ計算ス若シ退社ノ當時ニ於テ未タ結了セザル事業アリテ其計算ヲ爲ス能ハサルトキハ其終了後ニ於テ計算スルコトヲ得此場合ニ其未タ結了セザル事業ヲ度外ニ措キテ退社員ノ持分ヲ計算シ後日利益アリタルトキハ其一部ヲ退社員ニ配當シ損失アリタルトキハ其一部ヲ退社員ノ責任ニ歸セシムルコトヲ得ルハ論ヲ俟タズ持分ノ拂戻ハ任意ノ退社及七除名ノ場合ニハ退社員本人ニ之ヲ爲スモ其他ノ不任意ノ退社ノ場合ニハ退社員本人ニハ之ヲ爲サス例ヘハ死亡ノ場合ニハ相續人破産ノ場合ニハ破産管財人統治産ノ場合ニハ其後見人ニ拂戻スカ如シ退社

員カ持分ノ拂戻ヲ受ケル法律關係ハ會社内部ノ關係ナレハ商法第五十四條ノ規定ニ依リ民法第六百八十一條ノ規定ヲ準用ス
 第三 殘餘財産ノ分配ヲ受ケル權利
 會社カ解散シタルトキハ其財産ノ處分ヲ爲ササルヘカラス會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済シタル後ニ於テ尙ホ殘餘ノ財産アルトキハ之ヲ社員ニ分配ス之ヲ殘餘財産ノ分配ト謂フ此分配ニ關スル法則ハ清算ヲ論スルニ當リテ説明スルコトヲ便宜ナリトスルヲ以テ後章ニ讓リ茲ニ之ヲ説明セシ

第二節 會社ノ外部ノ關係

會社ノ外部ノ關係ハ公益ニ關スルコト多キヲ以テ定款ヲ以テ自由ニ定ムル能ハサルコトヲ原則トスルコトハ既に述べタル所ナリ此外部ノ關係ハ何時ヨリ發生スルヤ會社ハ其設立ノ登記ヲ爲スニ非サレハ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルハ商法第四十五條ノ規定スル所ナリ然レトモ是レ會社ヨリ第三者ニ對シテ其設立ヲ主張シ得サルコトヲ規定セルモノニシテ第三者ヨリ

會社ニ對シ其設立ヲ主張スルハ法律ノ許サザル所ニ非ス故ニ會社ノ外部ノ關係カ發生スルニハ必ズシモ設立ノ登記ヲ要スルモノニ非ザルコトヲ注意セザルヘカラス唯既ニ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ縱令定款ヲ以テ其外部ノ關係ノ發生時期ヲ特定スルモ第三者ニ對シテハ其效ナシ要スルニ會社ノ外部ノ關係ハ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ當然ニ發生スルモ其登記以前ニ在リテ第三者ト取引ヲ爲シタルトキハ其時ヨリ發生スルモノトス

第一款 會社ノ代表

合名會社ノ各社員ハ會社ヲ代表スル權限ヲ有ス此權限ハ會社カ外部ニ對シテ存在スルコトヲ得ルニ至リタルトキ直チニ發生スルモノニシテ社員ノ當然ニ有スル權能ナリ又此權限ハ會社ノ解散ヲ以テ終ル故ニ會社ノ清算中會社ヲ代表スル者ハ清算人ニシテ各社員ハ之ニ就テ代表權ヲ有セス
社員ノ有スル代表權ノ範圍ハ最モ廣汎ニシテ會社ノ營業ニ關スル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得目的ノ範圍外ニ在ルモノニテモ總社員ノ同意ヲ得タルモノニ付

テハ會社ヲ代表シテ之ヲ爲スコトヲ得第六十二條ニハ會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スト規定セリ代表社員カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ會社ニ對シテ其效力ヲ生ズルコトハ一般代理ノ法則ニ依リテ明カナリ民法ニ於テハ代理人ノ爲シタル行爲カ本人ニ對シテ效力ヲ生ズルニハ本人ノ爲メニスルコトヲ表示スルコトヲ必要トシ唯對手人カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知り又ハ之ヲ知り得ヘカリシトキハ本人ニ對シテ效力ヲ生セシム之ニ反シテ商法ニ於テハ縱令本人ノ爲メニスルコトヲ表示セザル場合ニ於テモ本人ノ爲メニ爲ラレタル商行爲ハ本人ニ對シテ效力ヲ生ズルコトヲ原則トス故ニ合名會社ノ代表社員カ會社ノ爲メニスルコトヲ表示セシメテ爲シタル商行爲ニ付テモ會社ハ之カ爲メニ權利ヲ得義務ヲ負フ是レ代表社員カ會社ノ爲メ爲ス所ノ行爲ノ商行爲タルト否トニ因リテ異ナル要點ナリ代表社員ノ爲シタル不法行爲ニ付テハ會社ハ當然其義務ヲ負擔フコトナシ然レドモ其不法行爲ニシテ社員カ會社ノ爲メ其職務ヲ行フニ當リテ爲テタルモノナル場合ニ於テハ之ヨリ生シタル損害ニ付キ會社ニ賠償ノ

責任ヲ負ハレムルハ被審者ヲ保護スル上ニ於テ必要ナクテ以テ商法ハ此點ニ付キ民法第四十條ノ規定ヲ準用シタリ會社カ社員ノ不法行為ニ因リ第三者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負擔スルハ其行為カ會社ノ業務ヲ執行スルニ當リテ爲ラレタルニ由ル其他ノ場合ニ於テハ之ヲ爲シタル社員ノミ其實ニ任セザルヘカラス

社員ノ代表權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス然レトモ其制限ハ社員ニ對シテハ勿論有效ナルヲ以テ社員カ之ニ從ハスシテ第三者ト行爲ヲ爲シタルトキハ會社ハ其社員ニ對シテ除名又ハ損害賠償ノ制裁ヲ加フルコトヲ得第三者カ制限アルコトヲ知リタルトキハ其制限ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得法律カ此ノ如キ規定ヲ設ケタルハ取引ノ安全ヲ圖リ善意ノ第三者ヲ保護スルニ在リ代表權ノ制限ハ之ヲ登記スルモノニ非ス假ニ之ヲ登記スルモノトスルモ第三者ハ會社ト取引スルニ當リ一一登記簿ニ付テ調査スルニ非サレハ登記ノ有無ヲ知ルコト能ハス此ノ如キハ實際關係ナル商業ニ於テ爲レ難キ事トナリ故ニ原則トシテ第三者ハ凡テ其制限ヲ知ラザルモノトス

シテ之ニ對シ效力ヲ有セシメス惡意ノ證據アル場合ニ限リ之ニ對シ效力ヲ有セシムルハ最モ正當トス惡意ノ證明ハ會社ニ於テ爲ス責任アリ(第六二條第二項民法第五四條參照)

代表權ハ各社員ノ當然有スル所ナレトモ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ選任スル場合アリ是レ多數ノ社員ヲ有スル會社ニ於テハ實際上便宜トスル所ナリ此場合ニ於テハ他ノ社員ハ代表權ヲ失ヒ其選任セラレタル社員ノ代表權ヲ有ス代表社員ハ單獨ニ會社ヲ代表シ得ルコト商法第六十二條ノ規定ニ照シテ明カナレトモ若シ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ代表社員共同スルニ非サレハ會社ヲ代表スルコトヲ得スト定メタル場合ニハ代表社員各節ハ代表權ヲ有セス此代表社員ノ選任ハ第三者ニ對シ其效力アリ故ニ代表社員ノ氏名ハ登記スルコトヲ要ス(第五一條第六號又定款ヲ以テ定メタル代表社員ノ解任ハ定款ノ變更ナルカ故ニ總社員ノ同意ヲ經ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ザルモノトス

第二款 社員ノ義務

社員ノ外部ニ對スル義務トハ社員カ會社ノ債務ニ付キ第三者ニ對シテ負フ所ノ義務ヲ謂フ合名會社ハ法人ニシテ自ラ獨立シテ權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得ルカ故ニ其財産ハ會社ノ財産ニシテ社員ノ財産ニ非ナルト同シク其債務モ亦會社ノ債務ニシテ社員ハ之ニ付テ責任ヲ有セサルモノト爲テナルヘカラス然ルニ商法第六十三條ハ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任スト規定セリ社員ノ此連帶責任ハ論理ニ出ラタルモノニ非ス第三者ヲ保護セントスル實際上ノ便宜ニ出テタルモノナリ蓋シ會社ノ財産ハ決シテ固定ノモノニ非ス社員ノ意思ニ依リテ増減スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ會社ノ財産ノミヲ以テ其債務ノ辨濟ニ充テ社員カ之ニ付キ何等ノ關係ヲ有セサルコトスルトキハ第三者ハ常ニ危險ナル地位ニ立タサルヘカラス之ヲ保護スルニハ社員ヲ以テ會社ノ債務ニ付キ連帶ノ責任ヲ負ハシムル必要アリ此義務ハ法律ノ規定ニ依リテ當然發生シ且公債

上ノ理由ニ出ツルモノナルカ故ニ之ニ反スル契約ハ其效ナシ但第三者カ或社員ニ對シ此責任ヲ免除スルコトハ固ヨリ其自由ナリ此免除ノ意思表示ハ會社債務ノ發生以前ニ爲スモ或ハ發生以後ニ之ヲ爲スモ其效力ニ於テ異ナル所ナシ然レモ商法第六十三條ニ依リテ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員ハ連帶シテ辨濟ノ責ニ任ストアリテ此法文ヲ一讀スルトキハ社員ノ連帶責任ハ會社財産カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ始メテ發生スルモノノ如シト雖モ決シテ然ラス社員ノ義務ハ社員タル資格ヲ取得スルト同時ニ直チニ發生シ唯會社財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハサルトキニ非サレハ社員ハ其辨濟ノ請求ニ應セザルコトヲ得ルノミナリ故ニ會社ノ債權者カ社員ニ對シテ辨濟ヲ請求スルニハ先ツ會社ニ對シ辨濟ヲ請求シ破産若クハ強制執行ノ結果辨濟ヲ得ナリシ部分カ確定セタル後ヲラサルヘカラル社員ハ相互ニ連帶ノ關係ヲ有スレトモ會社ト社員トノ間ニハ連帶ノ關係カシ會社ノ社員カ會社ノ債務ニ付テ第三者ニ對シテ負フ所ノ義務ニ一列保證債務ナリ保

證債務ハ主タル債務者カ債務ヲ履行セザル場合ニ於テ之ノ代リテ履行ノ責任スルモノナルコトハ民法第四百四十六條ノ規定スル所ナリ合名會社ノ社員ハ會社カ其財產ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ私產ヲ以テ辨濟ノ責任スルモノナルカ故ニ之ヲ保證債務ナリト論スルハ正當ナリ唯其效果カ一般ノ保證債務ト少シク異ナル所アリ即チ左ノ如シ

(一) 社員ハ各自連帶シテ辨濟ノ責任スレトモ一般ノ保證債務ニ於テ保證人數人アルトキハ其義務ハ保證人間ニ分割セラレ(民法第四五六條商法第六三條參照)

(二) 一般ノ保證債務ニ於ケル保證人ハ主タル債務者カ履行ヲ爲ササルトキ其履行ノ責任スルモノニシテ檢索ノ利益ハ之ヲ抗辯タルニ過キス故ニ保證人カ此抗辯ヲ提出セザリシトキハ縱令主タル債務者ニ辨濟ノ實力アル場合ニ於テモ保證人ハ其責ヲ盡ササルヘカラス之ニ反シ合名會社ノ社員ハ會社財產カ其債務ヲ完済スルコト能ハザリシトキニ至リ始メテ辨濟ノ責任スルモノナリ故ニ債權者ハ會社ノ無費方ナルコトヲ立證シタル後ニ非サレバ保證人タル

社員ニ對シ請求ヲ爲スコトヲ得ス社員カ檢索ノ抗辯ヲ提出スルト否トハ關係ナシ(民法第四五二條第四五三條參照)

以上ニ掲ケタル二點ヲ除キ其他ノ保證債務ニ關スル民法ノ規定ハ合名會社ノ社員ノ義務ニ付テモ亦適用セラル社員ノ此義務ハ法律ノ規定ニ依ル保證債務ナリ

社員ノ無限責任ハ會社カ本店ノ所在地ニ於テ解散ヲ登記ヲ爲シタル後五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス(第一〇三條)社員カ會社ノ存續中退社シ又ハ持分ノ全部ヲ譲渡シタルトキハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス(第七三條參照)

會社ノ債務ニ對シ辨濟ノ責任ヲ負フ者ハ各社員ナリ故ニ特ニ業務執行社員ノ定アル場合ニ於テモ他ノ社員モ亦連帶責任アリ而シテ既ニ社員タル以上ハ會社ノ設立以後ニ於テ加入シタル者ト雖モ加入前ニ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此義務ハ法律ノ命スル所ニシテ之ヲ免レシムヘキ契約ヲ爲スモ第三者ニ對シ其效ナシ但第三者カ之ヲ免除シ得ルコトハ論ヲ換タス社員ノ入社ハ登記スヘキノ事項ナレトモ其社員ノ責任ハ登記ヲ要セスシテ入社ト同時ニ發生ス

第六四條參照

以上ハ會社ノ社員タル者ノ責任ニ付テ說明シタルモノナレドモ現實會社ノ社員ニ非タル者モシテ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ者アリ即チ左ノ如クシテ

(一) 自己ヲ社員ナリト信セシメタル者(第六五條參照)ハ債務ニ付テ責任ヲ負

現實會社ノ社員タラストモ第三者ニ對シテ恰モ社員タルカ如キ行為ヲ爲シタル者ハ善意ノ第三者ニ對シ社員ト同一ノ責任ヲ負フ是レ合名會社ハ社員ノ信用ヲ基礎トスルモノナルカ故ニ此ノ如キ規定ヲ設ケタルナリ惡意ノ第三者ニ對シテハ此規定ヲ適用セス此者ノ責任ハ其行為アリタル後ニ生シタル會社ノ債務ニ對シ其以前ノ債務ニ及ハス又其責任ハ社員ト連帶ナリ

(二) 退社員第七三條第一項參照

退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス退社ノ登記後ニ生シタル債務ニ付テ責任ヲ負ハ勿論ナリ法律カ登記前ノ債務ニ付キ退社員ニ責任ヲ負ハシメタル所以ノモノハ第三者ハ其退社シタル社員ニ信用ヲ負

社ト取引ヲ爲シタルキモ計ラレシ然ルニ退社ト共ニ全ク責任ヲ免レシムルトキハ第三者ニ不測ノ損害ヲ加ラ且時トシテハ第三者ヲ欺クカ爲メニ一時信用アル者ヲ入社セシメ取引後直チニ退社セシムルカ如キコトナシトモス此等ノ詐欺ヲ防キ第三者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニハ退社員ヲシテ責任ヲ負ハシムルコト必要ナリ唯制限ナク責任ヲ負ハシムルハ第三者ヲ保護スルニ偏シ退社員ノ爲メニ甚タ苛酷ナリ故ニ法律ハ其責任期間ヲ登記後二年トモテ此責任ヲ消滅ハ時効ニ依ルモノニ非ス故ニ法定ノ期間ヲ經過スレバ當然消滅ス

(三) 特分ヲ讓渡シタル社員

特分全部ノ讓渡ハ社員ノ變更ヲ惹起シ讓渡人ハ之ニ因リ會社ヨリ脱退ス故ニ其讓渡人ニ對シ退社員ト同一ノ責任ヲ負ハシメタルハ其常ヲ得タルモノナリ

第六章 解散

合名會社ハ社員ノ意思ニ因リテ解散スルコトアリ又社員ノ意思ニ因ラヌシテ

解散アルコトアリ何レノ場合ニ於テモ解散後會社ハ其營業上ノ存在ヲ失フモ止マリ絕對的ニ消滅セラルル原則トス純理上ヨリ謂フトキハ會社ノ解散ハ會社ナル社團ノ消滅ニシテ之ヲ法人ノ點ヨリ觀察スレハ人格ノ喪失ナリ會社ノ解散前ニ生シタル法律關係ニシテ解散ノ當時未タ終了セタルモノハ解散ニ因リテ其主體ヲ失フカ爲メ之ト同時ニ消滅セラルヘカラス會社財產ハ無主物ト爲リ會社債權者ハ其權利ヲ失フ此ノ如キハ論理ノ結果ナリトモ公益上許シヘキ事項ニ非ス是ヲ以テ法律ハ解散ノ後ト雖モ會社ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存続スルモノト看做スト規定セリ(第八四條參照)故ニ法律上解散トハ清算ヲ必要トセザル場合ニ於テノミ會社ノ絕對的消滅ヲ生スル原因ナレトモ其他ノ場合ニ於テハ會社ノ營業能力喪失ノ原因タルニ過キテ會社力解散スルモ清算ヲ必要トセザル最モ著シキ例ハ合併ニ因リテ解散スル場合是ナリ此場合ニハ合併ニ因リテ解散スル所ノ會社ノ權利義務ハ合併後尙ホ存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立セタル會社ニ承継セラレルカ故ニ取テ清算ヲ爲ス必要ナク會社ハ解散ニ因リテ絕對的ニ消滅ス其他定款ヲ以テ會社解散シタルトキ

其一切ノ權利義務ハ當然該社員ニ承継セラルルコトヲ規定シタル場合ニ於テモ亦會社ノ解散ニ因リテ絕對的ニ消滅スル之ヲ要スルニ解散ハ二三ノ場合ヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ會社ノ營業能力喪失ノ原因ニシテ絕對的消滅ノ原因ニ非ス解散前ノ會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トシ解散後ハ會社財產ノ處分ヲ以テ目的トシ二者全ク其性質ヲ異ニスレトモ法律ハ便宜上之ヲ以テ同一ノ會社ト看做セラレ得ル(會社ノ目録)ハ事業ノ與イテ其効力

第一節 解散ノ原因

第一款 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由

是レ商法第七十四條第一號ニ規定スル解散ノ原因ニシテ會社力之ニ因リテ解散スルハ多言ヲ要セス此場合ニ於テ社員ノ全部又ハ一部ハ其同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得純理ヨリ謂フトキハ會社ハ存立時期ヲ滿了其他解散ノ事由發生ニ因リテ當然解散スルモノナルカ故ニ社員ハ且解散ノ手續ヲ爲シタル上ニ更ニ新設ノ手續ヲ爲サザルハ得ラス然レト雖此ノ如キハ無用ノ手續

ヲ爲シ毫モ實際上ニ利益ナキカ故ニ法律ハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ
 前會社ヲ繼續スルコトヲ許セリ但此場合ニ於テ同意ヲ爲サズシ社員ヲ限制
 シテ依然社員タル資格ヲ有セシムルハ相當ナラザルヲ以テ不同意ノ社員ハ常
 然退社シタルモノト看做ス此ノ如ク法律ハ會社ノ繼續ヲ以テ會社ノ變更ト看
 做スカ故ニ此場合ニハ設立ニ要スル手續ヲ爲スノ必要ナシ唯第五十三條ニ依
 リ變更ノ登記ヲ爲スヲ以テ足レドトス同意セザリシ社員ニハ持分ノ拂戻ヲ爲
 スコトヲ要シ又此社員ト雖モ前會社ノ債務ニ付キ退社ノ登記後二年間ハ責任
 ヲ負擔セザルヘカラス(第七五條參照)

第一款 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功

會社ハ一定ノ商業ヲ營ムヲ以テ其目的トス然ルニ其目的ヲ達シタルトキハ結
 局目的ナキニ至リタルモノナリ又其目的カ到底成功セザルニ至リタルトキハ
 目的ナキト同時ニ論スルコトヲ得故ニ此ニツツ場合ニ於テ會社ヲ解散スルハ
 當然ナリ目的ノ成功ノ不能ハ法律上ノ理由ニ因リテ生ズルコトアリ又經濟上

ノ理由ニ因リテ生ズルコトアリ會社ノ事業カ經濟上ノ狀況ノ爲メニ到底損益
 相償ハザルニ至リタルトキハ之ヲ以テ目的ノ成功不能ニ至リタルモノト看做
 ストテ得第七四條第二號參照) 會社ノ解散ハ合併ノ必要ニ至リタルトキハ
 第七四條第二號參照) 會社ノ解散ハ合併ノ必要ニ至リタルトキハ

第三款 總社員ノ同意

總社員ハ合名會社ノ最高機關ニシテ此機關ノ決議ヲ以テ會社解散ノ原因ト爲
 シタルハ至當ナリ此決議ハ即時ニ會社ヲ解散セシムヘキコトヲ目的トシテ
 (カラス將來ニ於テ會社ヲ解散セシムヘキコトヲ目的トシテ決議ハ愛無所開
 解散ノ決議ニ非スシテ存立時期若クハ解散事由ニ關スル定款ノ變更トシテ見
 ルヘキモノナリ解散ノ決議ハ存立時期ノ定アルト否トヲ問ハズ何時モ之
 ヲ爲スコトヲ得第七四條第三號參照) 決議ハ合併ノ必要ニ至リタルトキハ

第四款 會社ノ合併

合併トハ二ツ以上ノ會社ヲ相合シテ一新會社ヲ爲スヲ謂フ其方途ニ二アリ

一 甲會社ヲ解散シ乙會社ニ加入シ一ハ甲乙二會社カ各自解散ノ事ニ丙會社ヲ設立スルモノヲ謂フ第一ノ方法ニ依ルトキハ合併ハ甲會社解散ノ事由乙會社變更ノ事由ニシテ第二ノ方法ニ依ルトキハ合併ハ甲乙二會社ノ解散ノ事由丙會社設立ノ事由ナリ此ノ如ク合併ノ效果ハ會社ノ解散ノミニ限ラズト雖モ商法第七十四條第四號カ之ヲ以テ解散ノ事由ト爲タルハ合併ノ例ヲテ解散スル會社ノ方面ヨリ觀察シタルモノナリ然レトモ合併ハ解散ノ外ニ會社ノ變更若クハ設立ヲ生スルカ故ニ其變更ヲ受タル會社及新ニ設立スル會社ニ在ラバ其會社ノ種類ニ從ヒ之ニ必要ナル手續ヲ爲スコトヲ要スルハ論ヲ俟タズ本款ニ於テ說明スル所ハ各名會社カ合併ニ因リテ解散ノ場合ニ關スル規則ノ說明ナリ會社ノ合併ハ商法ノ認メタル所ナリシト雖モ實際上ノ必要ハ會社ノ合併ヲ認メタルヘカラザルニ至リ明治二十九年法律第八十五號ヲ以テ銀行合併法ヲ發布シタルニ至リ銀行以外ノ會社ニハ合併ノ方法ナカリシ爲メ甚ク不便ヲ感シタルヲ新商法カ廣ク會社カ合併ヲ認メタルハ其實際上ノ必要ニ應ジタルナリ

合名會社カ他ノ會社ト合併スルニ總社員ノ同意ヲ必要トス第七七條參照合名會社カ他ノ合名會社ト合併スルニ得ルハ論ヲ俟タレト雖モ種類ノ異ナリテ他ノ會社ト合併スルコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ問題ナリ此點ニ付テハ二說アリ第一說ニ曰ク種類ノ異ナラザル會社互ニ合併スルコトヲ得ルハ我商法ニ特ニ認メタル二三ノ場合ニ限リ會社組織ノ變更ヲ許セリ然レモ種類ノ異ナラザル會社カ合併ハ會社組織ノ變更ヲ惹起スルカ故ニ此ノ如キハ法律カ認メタル所ナリト解スルヲ要信トスト第二說ハ合併ニ付キ法律上何等ノ制限ナキカ故ニ種類ノ異ナラザル會社ト雖モ互ニ合併ヲ爲スコトヲ得ト論セリ予輩ハ此二說ヲ以テ共ニ論斷ス廣キニ失スルモノアリト信ス予輩ハ言ハシト欲ス種類ノ異ナラザル會社ト雖モ會社組織ノ變更ヲ惹起サザル範圍内ニ於テハ合併スルコトヲ得ト論セリ會社組織ノ變更ハ法律カ特ニ之ヲ認メタル二三ノ場合ニ於テハ爲スコトヲ得ル所ト第一說ノ云フカ如ク第一一八條第二四七條第二五二條參照故此二三ノ場合ヲ除クカハ如何ナル場合ニ於テモ會社組織ノ變更ハ法律ノ許サザル所ト解スルヲ至當トス然レト雖モ種類ノ會社ノ合併

ハ必クレハ會社組織ノ變更ヲ生スルモノニ非ズ會社組織ノ變更ヲ惹起サザル
 場合ニ於テ其合併ヲ認メタルノ理由ナク例ヲ以テ之ヲ示セハ合名會社ト合
 資會社トカ合併レ合名會社ヲ解散シ合資會社カ存續スル場合ニ於テハ合資會
 社ハ其定款ニ變更ヲ受ケルコトアルモ其組織ヲ變更スルコトナシ又之ト同シ
 ク合資會社カ解散シ合名會社カ存續スル場合ニ於テモ合資會社ノ有限責任社
 員カ無限責任社員ト爲ルコトヲ承諾セタルトキハ必ズシテ組織ノ變更ヲ生ス
 ルモノニ非ズ此他合名會社ト株式會社トカ合併シ新ニ株式合資會社ヲ設立ス
 ル場合ニ於テハ亦モ會社組織ノ變更ナルモノナシ故ニ異種類ノ會社カ合併ハ
 常ニ會社組織ノ變更ヲ生スルモノトシ絕對的ニ之ヲ許サザルモノト解スルハ
 誤レリ然レトモ第二說ノ如ク如何ナル場合ニ於テモ異種類ノ會社カ合併ヲ認
 むルハ稍々廣キニ失ス之ヲ要スルニ合名會社ハ會社組織ノ變更ヲ生セザル限
 リ異種類ノ會社ト合併スルコトヲ得ルハ例ニ依リテハ其債權者ハ會社カ
 會社カ合併ハ會社カ債權者ニ大ナル利害ノ關係ヲ有ス例ニハ負債少キ會社カ
 負債多キ會社ト合併セザルキハ前者ノ債權者ハ之カ爲メニ其擔保ヲ減セラズ

ル結果ヲ見ルコトアルカ如シ是ヲ以テ商法ハ一方ニ於テ會社ノ便宜ヲ圖リ合
 併ヲ爲スヲ許シタルト同時ニ他方ニ於テ債權者ノ利益ヲ保護センカ爲メ種種
 ナル規定ヲ設ケタリ即チ商法第七十八條乃至第八十條ニ規定スルモノ是カ
 此等ノ規定ニ依リテ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週
 間内ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作リ以テ會社財産ノ狀況ヲ明カニシ且二箇
 月以上ノ期間ヲ定メテ債權者ニ對シテ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知
 レタル債權者ニハ各別ニ催告セザルヘカラス債權者カ其期間内ニ異議ヲ述
 テラシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做シ直チニ合併ヲ爲スコトヲ得ルモ
 之ニ對シテ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ其異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ
 又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非テハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ若シ辨濟又ハ擔保
 ノ供給ヲ爲サズシテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ
 對抗スルコトヲ得ス故ニ會社カ債權者ニ異議アルトキハ絕對的ニ合併ヲ爲ス
 コトヲ得スト爾ラ非ズシテ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ザルニミ
 又債權者ニ對シテ一定ノ期間内ニ異議ヲ述フルコトヲ得ル旨ノ公告ヲ爲サズ

又知シタル債權者三對以開帳申立ル催告ヲ爲スルシテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ遺テノ債權者又ハ催告ヲ受ケテナリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス會社ノ業務ヲ執行スル社員カ此等ノ手續ヲ履行セシメテ合併ヲ爲シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ(第二六二條第二號參照)又ハ前記合併ノ效果ハ合併スル會社ニ依リテ異ナリ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ爲メニハ解散ノ效果ヲ生シ合併後存続スル會社ノ爲メニハ定款變更ノ效果ヲ生シ合併ニ因リテ成立スル會社ノ爲メニハ設立ノ效果ヲ生シ此他合併ノ重要ナル效果ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承継スルコト是ナリ(第八二條參照)又ハ其會社カ合併シタルトキハ二週内ニ本店及ビ支店ノ所在地ニ於テ合併存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲ス(同項)要ス(第八二條參照)又ハ其會社カ合併ニ因リテ消滅スルコトトシテハ其債權者ハ其債權ノ爲メニ其債權者ニ對シテ催告ハ一次ニ之ヲ爲シ會社ノ清算ノ期

第五款 社員カ一人ト爲リタルコト

民法第六十八條第二項ノ規定ニ依リテ社團法人ハ社員ノ缺乏ニ因リテ解散スルモ社員カ一人ト爲リタルカ第一當然解散スルコトナシ然レモ命名會社ハ社員カ一人ト爲リタルトキ當然解散ス(第七四條第五號參照)是レ民法ト商法ト異ナル點ナリ社團法人ノ解散ニ關シテハ學理上三說アリ第一ハ社團法人ハ社員ヨリ成ルモノナルカ故ニ社員缺乏スルニ至リテ解散ス社員カ一人ト爲リタルノミニテハ未ダ其基礎ヲ失フモノニ非サルヲ以テ當然解散スルコトナシト謂ヒ第二ハ社團法人ハ人格ヲ有スル社團即チ人ノ團體モシテ社員カ一人ト爲リタルトキハ最早之ヲ社團ト云フコト能ハサルカ故ニ當然解散セザルカ(カ)ラ社員ノ缺乏ヲ待テ必要ナシト謂ヒ第三ハ社團法人ハ且成立シタル以上其生存上社員ノ變更増減若クハ消滅ニ何等ノ關係又ハ有スルモノニ非ス故ニ社員缺乏スルモ當然解散スルコトナシト謂フニ在リ予輩ハ此三說中第三說ヲ以テ適當ナリト信ス抑モ社團法人ハ社團カ人格ヲ有スルモノナルカ故ニ社員カ一

入ト爲リタルトキハ最早之ヲ社團ト云フヘカヲタルヲ以テ當然解散セタルヘ
 カラス唯營利ヲ目的トセタル社團法人ハ成ルヘク未ク存続セザルニシテトテ公
 益上便宜トスルヲ故ニ民法ハ社員カ一人ト爲リタルノミヲ以テテ來テ社團法
 人ノ解散ヲ生セシメス然ルニ會社ハ社員ハ利益ヲ目的トスル法入ニシテ社員
 カ唯一人ト爲リタルトキハ商業上ニ於ケル團體ヲ保護シ監督スルカ爲メニ設
 ケラレタル會社法ノ規定ヲ之ニ適用スルニ穩當ナラス要スルニ社員カ一人ト
 爲リタルトキハ一箇人タル商人ト區別スル必要ナキカ故ニ法律ハ之ヲ會社ト
 シテ繼續セシムルコトヲ認メス

第六款 破産

會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トス然ルニ破産ノ宣告ヲ受タルトキハ會社ハ營
 業上ノ能力ヲ失フ是レ破産ヲ以テ解散ノ原因ト爲シタル所以ナリ(第七四條第
 六號參照)

修正條 社員カ一人ト爲リタルトキ

第七款 裁判

會社ハ解散ヲ命スル裁判所ノ裁判ニ因リテ解散ス此裁判ニハ決定ヲ以テスル
 モノト判決ヲ以テスルモノトアリ會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル
 後正當ノ理由ナクシテ六箇月内ニ開業セザルトキ及上營業中公ノ秩序又ハ善
 良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權
 ヲ以テ解散ヲ命ス(第四七條第四八條)此二場合ニ爲ス所ノ裁判ハ決定ノ方式ニ
 依ル其手續ハ非訟事件手續法ニ規定セラレ非訟事件手續法第一二六條第一項
 第一三四條第一三五條參照之ニ反シ(商法第八十三條ノ規定ニ依リ社員ノ請求
 ニ因リ裁判所カ解散ヲ命スル裁判ハ判決ノ方式ニ依ル此場合ニ判決ヲ以テ解
 散ヲ命スヘキモノナルコトハ非訟事件手續法第百八十四條ニ於テ其解散登記
 ノ申請書ニ判決ノ原本ヲ添附スルコトヲ要スト規定セルニ散シ疑ヲ容レシ故
 ニ社員カ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルニハ訴ノ方法ニ依ルコトヲ必要トス
 左ニ商法第八十三條ノ規定ニ付テ説明セシメ置カントス

會社ノ事業ヲ豫期ニ反シ十分ナル利益ヲ得ル能ハサルトキ又ハ會社カ引續キ
 損失ヲ被リタルカ爲メ將來其事業ヲ維持スル見込ナキトキ又ハ社員中ニ仲傳
 ノ行爲ヲ爲シ爲メニ會社ノ信用ヲ失墜シ到底回復スル能ハサルトキ其他會社
 ヲ維持スルコト能ハサル事由アルトキ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求ス
 ルコトヲ得蓋シ此等ノ事由アル場合ニ於テ總社員ノ同意アルトキハ直チニ解
 散ヲ爲スコトヲ得ルモ時トシテハ總社員ノ同意ヲ得ル能ハサルコトアリ然ル
 ニ其同意ナクシテハ解散スルコト能ハストモ一都ノ社員ハ蓋シキ不利益ヲ被
 ラサルヘカラス故ニ已ムコトヲ得タル事由アルヤ否ヤヲ裁判所ノ判斷ニ一任シ
 各社員ヲシテ解散ノ請求ヲ爲スコトヲ得セシムルハ甚テ至當ナリ是レ商法第
 八十三條ノ規定アル所以ナリ但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代
 テ或社員ヲ除名スルコトヲ得例ヘシ或社員カ特權ノ行爲ヲ爲シタルカ爲メ會
 社ノ信用ヲ失ヒタル場合ニ於テハ狀況ニ依リ其社員ヲ除名スルコトキハ會社ノ
 解散ヲ必要トセタルコトアリ

第二節 解散ノ登記

會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支
 店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス第七六條參照茲ニ合併及ヒ破産ノ
 場合ヲ除外シタルハ合併ニ付テハ別ニ第八十一條ノ規定アリ破産ノ場合ニハ
 非訟事件手續法ニ依リ破産裁判所ノ通知ニ依リ登記所カ職權ヲ以テ破産ノ登
 記ヲ爲スカ故ニ敢テ解散ノ登記ヲ必要トセタルナリ非訟事件手續法第一八一
 條乃至第一八四條第二五二條第一五三條參照

第七章 清算

會社ハ解散ニ因リ營業能力ヲ喪失スルカ故ニ爾後營業ヲ爲ス能ハサルコト勿
 論ナレトモ會社財産ノ處分ヲ爲ス必要アルカ故ニ之ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケ
 ル必要アリ而シテ會社財産ノ處分ヲ爲スニハ既ニ著手シテ未タ終了セタル業
 務ヲ速ニ終了セシメ債權ヲ取立テ債務ヲ辨濟シ殘餘財産ヲ社員間ニ分配セテ

ルヘカラス會社財產ノ處分終了シテ始メテ會社ハ絕對的ニ消滅ス此ノ如ク會社ノ絕對的消滅ヲ準備スル手續ヲ廣義ノ清算ト謂フ會社ノ解散後ト雖モ清算中其目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續シ清算ノ終了ト同時ニ絕對的ニ消滅ス第八四條參照清算中會社ハ解散前ノ會社ト其目的ヲ異ニスレトモ法律ハ之ヲ以テ前後同一ノ會社ト看做スコトハ既ニ前章ニ説明シタルカ如シ

會社ノ解散後ハ營業ニ關スル法律ノ規定ヲ適用スルヲ得サルコト既ニ前章ニ説明シタル所ナリ合名會社カ社員ノ人的信用ニ重キヲ置キ社員死亡シタルトキト雖モ其相續人ハ定款ニ別段ノ定ナキ限り當然前者ノ權利義務ヲ承繼シ社員ト爲ルコトヲ得ルハ一ニ營業上ノ信用ヲ維持セシカ爲メニ外ナラス故ニ一旦會社カ解散シ營業能力ヲ失ヒタル以上ハ此ノ如キ法則モ亦自ラ適用ヲ失フ社員死亡シタルトキ其相續人ハ當然前者ノ地位ヲ襲踏ス相續人數人アリタルトキハ社員ノ權利ヲ其共有ニ歸セラルヘカラス然ルニ清算ニ關シ數人ノ相續人ヲシテ各其權利ヲ行使セシムルハ徒ニ事ノ繁雜ヲ來スニ過キス是ヲ以テ商法第百二條ハ斯ル場合ニハ其數人ノ中ニ付テ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人

ヲ選定スルコトヲ命ジタリ(第一〇二條參照)但シ清算中會社ハ當然タル會社ノ解散ニ非ザルモノ以上ハ清算ニ關スル總論ナリ然ルニ商法ハ總然タル會社ノ解散ニ非ザルモノヲ解散ト同一ニ看做シ清算ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ命ゼルモノアリ即チ會社カ事業ニ着手シタル後其設立カ取消セラレタル場合はナリ第一〇〇條參照此場合ニハ會社ナルモノハ存在スヘキ理カキヲ以テ之ニ關シ當然清算ノ手續ヲ適用スルコトヲ得スト雖モ其財產ノ處分ヲ爲ス必要ハ解散ノ場合ト異ナルコトナク其手續ニ至リテモ亦之ト同一ナラシムルコトヲ得是レ法律カ之ヲ解散ノ場合ニ準シ清算ヲ爲スヘキコトヲ命ゼタル所以ナリ會社ノ設立カ取消セラレタルトキトハ設立行為ニ關シ詐欺若クハ強迫等因リ意思ヲ表示シタル者アリテ雖日其意思表示ヲ取消シタルカ如キ場合ヲ附テ會社ノ設立カ當然無効ナルトキ及ビ會社カ未タ事業ニ着手セザルニテ其設立カ取消セラレタル場合ハ商法第百條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ズニ付テ則チハ當然無効ト認ムルハ可キ

會社ノ清算ノ手續ニ關シハ前章ニ於テ詳述セタル如クハ茲ニハ略ス

第一節 任意清算

會社カ解散シタルトキ其財産ノ總分ハ必ス法律ニ規定スル所ノ嚴密ナル手續ニ依ルコトヲ必要トスルカ舊商法ニ於テハ此點ニ付テ明文ヲ缺キタルカ爲メ變テ生シタルトモ新商法ニハ此點ニ付テ明カナル規定アリ商法第八十五條ニ曰ク解散ノ場合ニ於テハ會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得下蓋シ合名會社ハ通常少數ノ社員ヲ以テ組織スルモノニシテ其業務及ヒ社員第三者ニ對スル關係ハ必スシモ複雜ナリト謂フヘカラス故ニ或場合ニ於テハ特ニ嚴密ナル清算ノ手續ニ依ルコトヲ要セスシテ社員間ノ同意ニ依リ簡單ニ終結セシムルコトヲ得例ヘハ會社財産ノ全部又他人ニ讓渡シ其代金ヲ社員間ニ分配スルカ如シ此カ如キ場合ニ於テ法律ニ規定スル清算ノ手續ニ依ルコトヲ強制スルハ實際上何等ノ利益ナキ所ナリ是レ法律カ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ財産ノ處分方法ヲ許シタル所以ナリ之ヲ法定ノ清算ニ對シ任意ノ清算ト稱ス此方法ニ依リ財産ヲ分配スルニ當リ夫レ往來會社ノ債權者ヲ皆スルカ如キコトカキテ保セシムル之ニ關係債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲メ適當ノ方法ヲ規定スル必要アリ會社ハ此場合ニ於テハ解散ノ日ヨ

ヲ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り二箇月ヲ下ラサル期間ヲ定メテ債權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告セザルヘカラス債權者カ其期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ナレハ財産ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス此辨濟又ハ擔保ノ供給ヲ爲クニシテ財産ノ處分ヲ爲クニ之ヲ以テ異議ヲ述ハタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス又若シ會社カ債權者ニ對シ異議ヲ述フヘキ旨ノ公告又ハ催告ヲ爲サスシテ財産ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ總テノ債權者又ハ催告ヲ受ケザラシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス是レ商法第八十五條第二項ノ規定スル所ナリ

第二節 法定清算

會社財産ニ付キ任意處分ノ定テキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除キ其他交易合ニ於テハ必ス商法ニ規定スル所ノ方法ニ依リ之ヲ處分スルヘカラス其方法ヲ法定ノ清算ト謂フ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除外シタルハ合併ノ場合ニ屬ス

併後存積スル所ノ會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リ清算セタル會社ノ權利義務ヲ承繼スルカ故ニ特ニ清算ヲ爲ス必要アリ又破産ノ場合ニハ別ニ定メタル財産ノ處分方法アルカ故ナリ以下法定清算ニ關スル手續ヲ説明スヘシ

第一款 清算人ノ選任及ヒ解任

清算ハ總社員之ヲ爲スコトヲ得ルモ多數ノ社員ヲ有スル會社ニ在リテハ特ニ清算人ヲ選任スルヲ以テ便宜トスルカ故ニ法律ハ其選任ヲ許セリ清算人ノ選任ハ社員中ヨリ爲スコトヲ必要トセス社員外ノ者ト雖モ之ヲ選任スルコトヲ得是レ最モ適任ノ者ヲ得シカ爲メナリ清算人ハ社員之ヲ選任スルコトヲ普通ナレトモ時トシテハ裁判所之ヲ選任スルコトアリ社員之ヲ選任スル場合ニモ其過半数ヲ以テ之ヲ決スヘキモノトス(第八七條)裁判所カ清算人ヲ選任スル場合左ノ如シ

一 社員カ一人ト爲リタルトキ(第八八條)場合ニ於テ殘レバ一人ノ社員者タ

ハ其社員ノ選任シタル清算人ヲシテ清算ヲ爲サシムルトキハ公許ヲ失スル危險アリ是ヲ以テ法律ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所ヲシテ清算人ノ選任ヲ爲サシムルコトヲ定メタリ

二 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキ(第八九條)此場合ニ於テハ社員ハ會社事業ニ依リテ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ爲サントスル虞アリト認め解散ヲ命スルモノナルカ故ニ社員ヲシテ自ラ清算ヲ爲サシメ又ハ清算人ヲ選任セシムルハ決シテ宜キヲ得タルモノニ非ス是ヲ以テ法律ハ此場合ニモ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ヲシテ清算人ノ選任ヲ爲サシムルコトヲ定メタリ裁判所カ社員ノ請求ニ因リ判決ヲ以テ解散ヲ命スル第八十

三條ノ場合ハ此中ニ包含セラレシト信ス

三 會社カ事業ニ着手シタル後其設立カ取消テラタルトキ(第一〇〇條)此場合ニ於テハ解散ニ準シテ清算ヲ爲スヘキモノナルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ而シテ此場合ニハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所ハ清算人ヲ選任スル一清算人ノ選任及ヒ解任ハ本店所在地ノ區裁判所之ヲ管轄ス此選任ノ裁判ニ對

シテ何人モ不服ヲ申立アル能ハス裁判所カ選任スル清算人三付タル制限ヲ左ニ揭タル者ハ裁判所之ニ選任スルヲ得ニ非訟事件手續法第二三六條乃至第一三八條參照)

- 一 會未成年者ニ若キモノハ其親立ニ同意セシムルモノハ一〇〇歳 決裁
- 二 禁治産者 其中ニ一付タルモノハ一〇〇歳 決裁
- 三 準禁治産者 其親立ノ同意ニ依リテ其親立ノ同意セシムルモノハ一〇〇歳 決裁
- 四 罰金公權者 罰金ノ額ニ依リテ其親立ノ同意ニ依リテ其親立ノ同意セシムルモノハ一〇〇歳 決裁
- 五 停止公權者 其親立ノ同意ニ依リテ其親立ノ同意セシムルモノハ一〇〇歳 決裁
- 六 罰裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人自ラ新選任セシムルモノハ一〇〇歳 決裁
- 七 破産者 破産ノ宣告ニ依リテ其親立ノ同意ニ依リテ其親立ノ同意セシムルモノハ一〇〇歳 決裁

裁判所カ選任シタル清算人ハ社員ノ決議ヲ以テ解任スルコトヲ得タルニ重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ解任スルコトヲ得社員カ選任シタル清算人ハ何時ニシテモ社員ヲ過半数ヲ決議ヲ以テ解任スルコトヲ得ル外重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ解

任スルコトヲ得重要ナル事由アルトキハ其事實問題ナレトモ其一例ヲ示セハ清算人カ不正ヲ行フヲ爲シ又ハ計算ヲ曖昧ニ付スル等ノ如シ(第九六條參照)

清算人ノ選任解任及ヒ變更ノ三週限内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スモノヲ要ス選任ノ登記ハ選任セラレタル清算人自ラ之ヲ申請シ解任及ヒ變更ノ登記ハ現在ノ清算人之ヲ申請ス登記ヲ申請スベキ者カ之ヲ忘リタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ總社員カ清算ヲ爲ストキハ登記ノ必要ナレ(第九〇條第九七條第二六一條第一號非訟事件手續法第一七七條參照)

二 清算ノ期 清算ノ期ハ清算人ノ職務

清算ハ會社ノ絶對的消滅ヲ準備スル手續ニシテ換言スレバ會社財產ノ處分方法ナリ會社財產ヲ處分スルニハ先テ現務ヲ終了シ債權ヲ取立テ債務ヲ辨濟セタルヘカラス此ノ如クシテ猶ホ殘餘ノ財產アルトキハ之ヲ社員間ニ分配シ以テ會社ヲシテ全然消滅ニ歸セシムルコトヲ得商法第九十一條カ清算人ノ職務ヲ規定シ一現務ノ終了ニ債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟三殘餘財產ノ分配ト爲シ

タリ此處應有又第三二節附ノ取立及ハ附屬ノ特種ノ債權ノ消滅ノ在リ
 一 現務ノ終了然レテ清算ニ付テハ清算人ハ清算ノ期ニ至リテ清算ノ期
 現務ノ終了ト一解散前ニ着手シテ未タ終結セザルモハ清算
 現務ノ終了ト一清算中ノ會社新シキ事業ヲ爲スコト能ハズレモ現
 務ノ終了スルニ必要ナルモハ限リ之ヲ爲スコトヲ得是レ清算ノ目的ハ範
 圍内ナレハナリ

二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟

債權カ條件附又ハ期限附ナルモハ條件成否ハ確定ヲ待チ又ハ期限ノ到
 來ヲ待テ之ヲ取立サヘキモノナレドモ此ノ如クモハ清算ノ終結ヲ
 遲延ナラシメ甚タ不便ナク故ニ此ノ如ク場合於テ清算人ハ期限ノ利益ヲ
 放棄セシメ若クハ條件附債權ヲ無條件ノ債權ニ更改セシメ之ヲ取立テ又
 此種ノ債權ヲ他人ニ讓渡シテ換價スルコトヲ得會社社員ヲ以テ出資ス
 ル債權ナルモ債權ノ利息ハ債權ノ利息トモ會社ハ現存ノ財産ヲ以テ其債務ヲ
 弁充済スルコト能ハズ非ナレバ社員ヲ以テ出資ヲ爲サシムルコトヲ

要セシム是レ殘餘財産ハ社員ニ分配スルコトナルガ故ニ一旦取立テタルモ
 之ヲ後日社員ニ拂戻スル如ク無益ノ手續ナレバ然レドモ現存ノ財産
 以テ債務ヲ完済スルコト能ハズモハ清算人ハ辨濟期ニ拘ハラス社員
 ヲ以テ出資ヲ爲サシムルコトヲ得第九二條(異同)ノ規定ニ依リテ
 會社ノ債務カ條件附又ハ期限附ナルトキ之ヲ無條件ノ債務ニ更改シ又ハ期
 限ノ利益ヲ放棄シ辨濟ヲ得ルコトハ言フ埃タズ茲ニ所謂辨濟ハ民法ノ規定
 セル債務消滅ノ一原因タル辨濟ヨリモ廣義ニ解スヘキモノナリ相殺ニ因リ
 テ債務ヲ消滅セシムルモ此中ニ入ル前段ニ説明シタル債權ノ取立ナル語モ
 會社ノ解釋スルヲ至當トスル點ヲ注意スルニ當リテハ清算人ハ清算ノ期
 三 殘餘財産ノ分配
 會社ノ債務ヲ完済シタル後尙ホ殘レル財産ヲ殘餘財産ト謂フ是レ社員間ニ
 分配セラルルハキモノナリ殘餘財産ノ分配ヲ爲スニハ債務ノ辨濟後ナルコト
 ヲ要スルノミニシテ其他ニ何等ノ制限ナシ故ニ未タ終了セザル業務アルト
 キ又ハ未タ取立テザル債權アルトキト雖モ之ヲ分配スルコトヲ得(第九五條)

清算人カ債務ノ辨濟前ニ會社財産ノ分配ヲ爲シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル(第二六二條第一)○配當照分配ノ割合ハ定款ニ別段ハ定ナキトキハ出資ノ額ニ從テ(第五四條民法第六八八條第二項參照)是レ殘餘財産ノ分配ハ會社ト社員トノ間ノ關係即チ内部ノ關係ナルカ故ニ組合ニ關スル民法ノ規定カ準用セララルモノトス

會社ノ清算中會社ヲ代表スル權限ヲ有スル者ハ清算人ノミニシテ他ノ者ハ何等ノ權限ヲ有セス清算人ハ其職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ之ニ加ヘタル制限之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スル能ハス清算人數人アルトキハ其過半數ヲ以テ清算事務ヲ決定ス然レトモ第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表シテ其決議ノ實行ヲ爲スコトヲ得第九一條第九三條清算人ハ就職後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付シ又社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス清算中會社ノ財産カ到底其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ト爲リタルトキハ清算人ハ直チニ破産ノ宣告ヲ請求シ其旨ヲ公告セザレバ

カラス此場合ニ清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シ其任務ヲ終了ス第九二條第九一條第三項民法第八一條參照

第三款 清算ノ結了

清算人カ前款ニ説明シタル職務ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求メタルヘカラス此計算ニ對シ社員カ一箇月内ニ異議ヲ述ヘナシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做シ爾後ノ處分ヲ爲スコトヲ得此承認ノ推定ハ絕對的ノ推定ニシテ反證ヲ舉タルヲ許サス但其計算ニ關シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス計算ニ關シテ異議アリタルトキハ清算人ハ更ニ正當ナル計算ヲ爲シ各社員ノ承認ヲ求メタル後ニ非ナレハ其責任ヲ免ルルコトヲ得各社員カ計算ヲ承認シタルトキハ清算ハ茲ニ全ク結了スルモノナルヲ以テ清算人ハ遲滞ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シ清算結了ノ事實ヲ第三者ニ知ラシメタルヘカラス清算人ノ責任ハ此登記ヲ爲スニ因リテ全ク解除セラル(第九八條第九九條)

商法第百三條第二項ノ規定ニ依レハ解散ノ登記ヲ爲シタル後五箇年ヲ経過シタルトキト雖モ未タ分配セザル殘餘財産アルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得抑モ清算ハ會社財産ノ處分ヲ目的トスルモノニシテ會社ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ解散後ト雖モ尙ホ存續スルモノナルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ未タ分配セザル殘餘財産アルトキハ即チ清算カ終了セザル證據ニシテ辨濟ヲ得ザル債權者カ之ニ付テ辨濟ヲ請求スルヲ得ルハ言フ埃タス故ニ第百三條第二項ノ規定ハ其必要ヲ見ス

第三節 會社ノ書類ノ保存

會社ノ帳簿營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分ヲ定メタル場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存セザルヘカラス而シテ其保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム(第一〇一條)

第三編 合資會社

第一章 合資會社ノ意義

合資會社ハ社員ノ一部ハ會社ノ債務ニ付キ債權者ニ對シテ責任ヲ負擔シ他ノ一部ハ之ニ付キ全ク責任ヲ負擔セザル會社ナリ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負擔スル社員ヲ無限責任社員ト謂ヒ之ニ付キ責任ヲ負擔セザル社員ヲ有限責任社員ト謂フ故ニ合資會社ニハ必ズ無限責任社員及ヒ有限責任社員アルコトヲ要ス是レ舊商法ト全ク其規定ヲ異ニスル要點ニシテ舊商法ニ於ケル合資會社ハ會社契約ニ特別ノ定ナキトキハ社員ノ責任ハ盡ク有限ナリ隨テ有限責任社員ノミヲ以テ合資會社ヲ組織スルコトヲ得タリ茲ニ責任ノ有限無限ハ外部ニ對シテ云フモノニシテ内部ノ關係ニ於テハ定款ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルハ猶ホ合名會社ノ如シ無限責任社員カ會社尙ニ第三者ニ對スル關係ハ合名會社社員ノ法律上ノ地位ト殆ト同一ナルヲ以テ商法ハ合資會社ニ付キ合名會社ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メ有限責任社員ニ關シテ特別ノ規定

ヲ爲セリ本編ニ於テ述フル所モ亦主トシテ有限責任社員ニ關スルモノナラ第
一〇四條第一〇五條

第二章 合資會社ノ設立

合資會社ヲ設立スルニハ常事者間ニ於テ之ニ關シ適法ナル合意ノ成立スルコ
トヲ要シ且其合意ハ書面ニ記載セラルルヲ要スルコト合名會社ト異ナラス定
款ニハ一目的ニ商號三社員ノ氏名住所本店及ヒ支店ノ所在地五社員ノ出資
ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準ヲ記載シ此他尙キ社員ノ責任ノ有限又ハ無限
ナルコトヲ記載セサルヘカラス(第一〇六條)又會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二
週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ノ外
各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記セサルヘカラス此登記ヲ申請ス
ヘキ義務アル者ハ無限責任社員ナリ登記事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ第五
十三條ニ從ヒ二週間内ニ變更ノ登記ヲ爲ササルヘカラス(第一〇七條)

第三章 會社ノ法律關係

第一節 内部ノ關係

合資會社ノ内部ノ關係ハ定款ヲ以テ自由ニ定ムルコトヲ得ルヲ原則トシ法律
ノ規定ハ補充的ノ性質ヲ有スルコト合名會社ノ場合ニ異ナルコトナシ殊ニ無
限責任社員ノ權利義務ニ關シテ然リトス有限責任社員ニ關シテハ特別ノ規定
アリハ尙キ合資會社ニハ亦適用ナリ
第一 出資 第六條第一〇四條第一〇五條第一〇六條第一〇七條第一〇八條第一〇九條
無限責任社員ハ合名會社ノ社員ト同シク金錢其他ノ財産ハ固ヨリ勢力又ハ債
用ヲ以テ出資ノ目的ヲ爲スヲ得レドモ有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミヲ
以テ出資ノ目的ヲ爲スコトヲ得第一〇八條
第二 業務ノ執行 社員ノ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ者ハ無限責任社員ニ
合資會社ニ於テ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ者ハ無限責任社員ニ
シテ有限責任社員ハ此權利義務ヲ有セス定款ニ別段ノ定ナキトキハ各無限

責任社員ハ此種利義務ヲ有ス若シ無限責任社員數人アルトキハ其過半數ヲ以テ業務ノ執行ヲ爲スベキ事ヲ決定ス有限責任社員ハ業務執行ノ權利義務ヲ有セザル合名會社ノ社員ノ如シ此ノ如ク法律カ無限責任社員ノミニ業務執行ノ權利ヲ與ヘタル所以ノモリ其責任無限ニシテ會社ノ盛衰ニ關係ヲ有スルコト甚ク深ク其結果業務ヲ執行スルニ當リ熱心且誠實ナルコトヲ得ヘタ且比較的利害ノ關係薄弱ナル有限責任社員ヲシテ業務執行ノ任ニ當ラシムルハ危險アルカ故ナリ第五六條第一〇九條第一一五條業務ノ執行ニ關スル第五十八條ノ規定ハ合資會社ニモ亦適用セラレ故ニ無限責任社員カ會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行為ヲ爲サント欲スルトハ有限責任社員ノ同意ヲ得テカヘカラス支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス(第十一〇條)ハモロイマシメテ無限責任以上説明スルカ如ク有限責任社員ハ全ク業務ノ執行ニ與ラスト雖モ業務ノ適當ニ執行セラレルヤ否ヤハ會社ノ盛衰ニ大ナル關係ヲ有シ延テ有限責任社員ノ利害ニモ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ業務ノ執行ニ關シ合名會社ノ場合ト

同シク此等ノ社員ニ監督權ヲ與フルコト至當ナリ然レトモ利害ノ關係ハ業務執行ノ權利義務ヲ有セザル合名會社ノ社員ニ比シ痛切ナラザルヲ以テ法律カ合資會社ヲ有限責任社員ニ與ヘタル監督權ハ甚ク重要ナルモノニ非ズ即チ合名會社ニ在ラザル業務監督ノ權ヲ有スル社員ハ何時ニテモ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得テ該合資會社ノ有限責任社員ノ營業年度ノ終ニ於テ之ヲ検査シ重要ナル事由アルトキニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ現年度ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ルニ過キス第五四條第一一一條民法六七三條參照此ノ如ク一方ニ於テ有限責任社員ノ權利カ狭小ナルト同時ニ他方ニ於テ會社及ヒ第三者ニ對シテ責任亦重要ナラズ特ニ業務執行社員ヲ定メタルニキ他ノ無限責任社員ヲ有スル業務監督ノ權利ハ各名會社ノ場合ト同シキ第三三條就業禁止ノ社員ハ亦同ノ事ニ依リテ其職務ヲ負擔スレトモ有限責任社員ハ合名會社ノ社員ト同シク就業禁止ノ義務ヲ負擔スレトモ有限責任社員ニハ此義務ナシ其理由ハ有限責任社員カ會社ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルヲ爲シ有スル所以權利甚ク薄弱ニシテ自己ノ地位ヲ利用シ會社

ノ營業上ノ利益ヲ得スルヲ如ク危險少シク報酬ヲモ在リ第六〇條第一二三條並
 應ニ社員ニハ典義ヲシテ其取由ハ亦同前社員會社ノ業務又ハ相商ノ取由
 第四項持分ノ讓渡會社ノ社員ノ同ノ業務又ハ相商ノ取由ニ依リ
 無限責任社員ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得ルニ非ナレハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ讓
 渡スコトヲ得スト雖も有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其
 持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得適法ニ持分ヲ讓渡シタルトキ讓
 受人ハ讓渡人ノ權利義務ヲ承継スルハ合名會社ノ場合ト異ナラス第一一二條
 參照スル限リ
 第五項利益ノ分配ハ事由ノ異ニ依リテ異ナル第一一二條第六十三
 利益ノ分配ニ付テハ無限責任社員ト有限責任社員トノ間ニ等差ヲ設ケタル特
 別ノ規定ナシ故ニ定款ニ別段ノ定款トキハ出資ノ額ヲ標準トシテ分配ヲ爲
 タサルヘカラス會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ナレハ利益ノ分配ヲ爲スコト
 ヲ得ス第六七條參照スルハ合資會社ノ社員ニ出資ノ額ヲ以テ標準トシテ
 同ノ典義ノ社員ニ對シテ與メルハ同ノ取由ニ依リテ與メルハ同ノ取由ニ依リテ與

第二節 外部ノ關係

會社ノ外部ノ關係ハ定款ヲ以テ自由ニ定ムルコトヲ得ナルコトハ尙ホ合名會
 社ノ如シ左ニ合資會社ニ特別ナル規定ヲ說明スルニ社員會社ノ取由ニ依
 第一 會社ノ代表ハ其業務ヲ執行スルハ自由ニ其業務ヲ執行スルハ其業務
 合資會社ニ於テ會社ヲ代表スル權限ヲ有スル者ハ無限責任社員ノミニシテ有
 限責任社員ニハ此代表權ナシ(第一一四條第一一五條其理由ハ業務ノ執行ニ付
 キ説明シタル所ト同一ナリ無限責任社員ハ各自代表權ヲ有スルヲ原則トシ定
 款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ代表社員ヲ定メタルトキハ其社員ノ代表權
 ヲ有レ他ノ社員ハ之ヲ有セス其選任ハ固ヨリ無限責任社員ノ中ニ就テ之ヲ爲
 スヲ要ス有限責任社員ハ當然會社ヲ代表スル權限ヲ有セザレトモ會社ノ支配
 人ニ選任セラレ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スルコトヲ得ルハ論ヲ埃タズ代表
 社員ノ權限及ヒ其制限ニ付テハ合名會社ノ規定ヲ準用スルヘキヲ以テ茲ニ更ニ
 贅言セズ

第二 社員ノ責任

無限責任社員ハ合名會社ハ社員ト同ク社會社債債務ヲ付キ連帶無限責任ヲ負擔ス之ニ反シ有限責任社員ハ會社ノ債務ニ付キ何等ノ責任ヲ有セス唯此社員カ自己ヲ無限責任社員ナリト信セシムルニ付其行爲ヲ爲シタルトキハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ然レトモ其行爲ヲ爲シタル以前ノ會社ノ債務ニ對シ責任ヲ負フコトナシ第一六條ニ其社員ノ行爲ノ責任ヲ明セシメテ置キ

第四章 退社

合資會社ノ社員ハ有限責任社員カハ無限責任社員カハ同ク第六十八條及ヒ第六十九條ノ規定ニ依ルニ非サレハ自由ニ退社スルコトヲ得ス有限責任社員ノ退社ニ關シテハ特別ノ規定アリ即チ有限責任社員カ死亡セルトキハ其相續人之ニ代リテ社員ト爲ルコト及ビ有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケルモ之ニ因リテ退社セザルコト是サリ換言スレハ死亡及ビ禁治産ハ有限責任社員ノ退社原因ト爲ラザルコト是ナリ蓋シ有限責任社員ハ無限責任社員ト異

ナリ單ニ出資ヲ爲シ利益ノ配當ヲ受ケルニ止マリ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ザルモノニシテ内部ノ關係ヨリ見ルモ將テ外部ノ關係ヨリ見ルモ社員其人ニ重キ又嚴クコトナク尙モ出資ノ能力アリ者ハ社員ト爲ルコトヲ得ルカ故ニ死亡シタルトキ其相續人ヲシテ社員トシタルモ差支ナク又禁治産ノ宣告ヲ受ケルモ直チニ退社セシムル必要ナシ是レ法律カ死亡及ビ禁治産ヲ以テ有限責任社員ノ退社原因ト爲ラザル所以ナリ第一一七條ニ其社員ノ退社ノ原因ト爲ラザルコトヲ明セシメ置キ

第五章 會社ノ解散及ヒ清算

合資會社ハ商法第七十四條ニ規定シタル事由ニ因リテ解散スル外無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員ノ退社ニ因リテ解散ス之ヲ合資會社ニ特別ナル解散ノ事由トス蓋シ合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ組織スル會社ナレカ故ニ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員カ退社スルトキハ其一要素ヲ失ヒ直チニ解散セザルヘカラス然レトモ有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テハ殘存スル社員ハ無限責任社員トシテ其實質ハ合名會社

ト同一ナリ此ノ如キ場合ニ於テ無限責任社員カ一致シテ合名會社トシテ會社ヲ繼續セシムコトヲ欲スルトキハ之ヲ禁スル必要ナキコト尙ホ合名會社ニ於テ存立時期ノ滿了シタルトキ社員ノ全部又ハ一部カ會社ヲ繼續セシムコトヲ希望スル場合ノ如シ是ヲ以テ商法第百十八條ノ斯ル場合ニ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ許シタルヲ唯此變更ハ一ニ以テ登記事項ノ變更ニ非スシテ會社ノ組織ヲ變更スルモノナルカ故ニ合名會社ノ場合ノ如ク變更登記ヲ爲スヲ以テ足レリトセス是ヲ以テ商法第百十八條第二項ハ前段ノ場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要スル規定セリ二週間ノ期間ハ會社ヲ繼續スヘキ決議ヲ爲シタルトキヨリ起算ス會社ハ此規定ニ從ヒ合資會社ニ付テ解散ノ登記ヲ爲スト雖モ是レ唯登記ノ整理ヲ爲スニ過キスシテ其實解散シタルモノニ非ス隨テ普通解散ノ場合ニ於ケルカ如ク清算手續ヲ開始スルコトヲ前會社ト後會社ト其法律上全ク同一體ニシテ其間ニ權利義務ノ移轉アルコトヲシテ其間ニ權利義務ノ移轉アルコトヲシ

合資會社ノ清算ニ付テハ特別ノ規定ナキヲ以テ合名會社ノ清算ニ關スル規定ヲ準用セラルル所ナリ此ノ規定ニ從ヒ合資會社ハ其間ニ權利義務ノ移轉アルコトヲシテ其間ニ權利義務ノ移轉アルコトヲシ

第三編 株式會社
第一章 株式會社ノ意義

株式會社ハ資本ヲ株式ニ分割シ社員ハ其有スル所ノ株式ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スル會社ナリ今在リ株式會社ニ特別ナル事項ヲ擧ケテ説明スヘキ第一ニ株式會社ノ社員ノ數ハ七人以上ナルコトヲ要ス第二ニ九條第二ニ條第三號ニ合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ社員ノ數ニ制限ナシ外國ノ法律ニ於テハ社員ノ最少數ヲ以テ株式會社ノ設立ノ要件ト爲スニ止マリ數ヲ之ヲ以テ會社存続ノ要件ト爲サズルモノアレドモ我商法ニ於テハ之ヲ以テ會社ノ設立及ヒ存続ノ要件ト爲シタルニ非ス第三ニ株式會社ノ設立及ヒ存続ノ要件ト爲シタルニ非ス第四ニ株式會社ノ設立及ヒ存続ノ要件ト爲シタルニ非ス

第二章 株式會社ノ組織

成ルモノニシテ金額ヲ以テ之ヲ表彰セリ即チ會社ノ資本ヲ分割スル一ノ單位ナリ株式多有ル者ニ對シテ主カ會社ニ對シテ有スル權利義務ノ範圍ニ皆株式ヲ標準トシテ之ヲ定ム株式會社ノ社員タル者ハ少クトモ一箇ノ株式ヲ有セザルハカラス社員ハ株式ヲ有スルニ因リテ會社ニ干與スルモノナリ社員ノ數ハ無限ニ對テ立テ置ル可キモノトモ限リ置ル可キモノトモナリ

第三 株主ハ總テ有限ノ責任ヲ負擔ス 株主ノ責任カ有限ナリト謂フハ二ツノ意義ヲ有ス之ヲ合資會社ノ有限責任社員ノ有限責任ニ對照シテ觀察スル實ニキハ會社ノ債務ニ付キ何等ノ責任ヲ有セザルコトナリ然レトモ株主ハ此點如何ナル場合ニ於テモ其引受及ハ讓受々々別株式ノ金額ヲ超エテ出資ヲ爲スノ義務ナシ是レ商法第百四十四條第一項ノ規定スル所ニシテ株主ノ有限責任ハ此點ニ於テ他ノ會社ノ社員ノ責任ト大ニ異ナレリ

第四 株主ト自由ニ株式ヲ讓渡スルコトヲ得ルヲ原則トス 合名會社及ヒ合資會社ニ於テ社員ハ其持分ヲ讓渡スニハ他ノ社員ノ同意ヲ必要トスレトモ株式會社ニ在リテハ此點如キ地獄ナシ是レ株式會社ノ純粹ナル資本團體ニ

セテ社員ノ人的信用ヲ重シク爲管轄ノ結果ナリ

我商法ニ於テ株式會社カ他ノ種類ノ會社ト異ナル要點ハ以上列舉スル所ニ止マレトモ外國ノ法律ニ於テハ此點他重要ナル區別アリ即チ獨逸ノ商法ニ於テハ株式會社ハ商業ヲ目的トスル所トシテ必要トセスシテ尙モ株式組織ノ團體ハ總テ之ヲ株式會社トス我舊商法モ之ト同一ノ規定ヲ爲シタリ新商法ニ規定セザル株式會社ハ必ズ商業ヲ營ム所トシテ目的ト爲テ其ルヘカラス何トナレハ株式會社ハ商法第四十二條ニ規定スル會社ノ一種ナレバナリ唯民法第三十五條ニ營利ヲ目的トスル社團法人ハ會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得且其法人ハ總テ會社ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタリ故ニ營利ヲ目的トスル民事會社ニシテ株式組織ニ依ルモノハ總テ株式會社ニ關スル商法ノ規定ヲ準用スヘキモノナリトモ其會社ハ決シテ株式會社ニ非ズ然レモ以上述べタル如ク株式會社ハ總然テ其資本團體ニシテ各株主ハ其有スル株式ノ金額ノ限度トシテ其責任ヲ負ヒ如何ナル場合ニ於テモ其金額ヲ超エテ損失ヲ受テズトシテ是レ株式會社ニシテハ二ツノ危険アリ一ハ株主ニ對スルモノ

要ナルモノヲ舉ゲルニ(イ)設立ニ付キ免許ヲ必要トシタキヤム之ニ付テ種々
手續ヲ設キ多ク日月ヲ費サナルヘカラス然ルニ商業ノ最モ時機ヲ奪フカ歟
此等ノ繁雜ナル手續ノ爲メ或ハ商業上ノ機會ヲ失ヒ給フ有阻ナリヤ會社モ
終ニ設立スルコト能ハサルニ至ル(ロ)會社ノ目的ニ各種種別ヲ其事業カ果シ
テ成就スルコト否ヤハ政府ノ官吏ト雖モ其判斷ヲ誤ラズ下サキヲ保セス而シ
テ免許ヲ口實トシテ世人ヲ暗著スルノ機會ヲ得ルコトモ是レ新商法カ現今多
數ノ立法例ニ依リ免許主義ヲ廢シ準則主義ヲ採用シタリ所以ナリ左ニ株式會
社ノ設立ニ付テ遵守スルべき手續ヲ說明スルニシムルニ今日尙主務ヲ與
株式會社ノ設立ニハ二ツノ方法アリ一ハ發起人カ株式ヲ總數引受ケ之ニ同
シテ會社成立スルモノ之ヲ同時設立ト稱シ二ハ發起人カ株式ヲ總數引受ケ
シテ其引受ケタル株式ニ付キ株主ヲ募集シ之ニ因リテ會社成立スルモノ之
ヲ漸次設立ト稱ス其何レノ方法ニ依ルヲ問ハス株式會社ノ設立ニハ先テ發起
ナカルヘカラス舊商法ハ發起ト設立トヲ區別シタレトモ新商法ハ發起ヲ以テ

設立ノ第一著手段トセリ發起トハ會社カ成立スルニ至ルマテノ準備行為ヲ開
テ發起ノ任ニ當リ會社ノ設立ヲ以テ職務トスル者ヲ發起人ト稱シ株式會社ヲ
設立スルニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス法律カ發起人ノ最少數ヲ定メ
タル所以ノモトハ會社ノ起業設計ニ熟議ヲ遂ケ輕率暴動ノ結果世人ヲ誤マル
コトヲ豫防シ且世人ノ信用ヲ博シ以テ會社ノ設立ヲ容易ナラシメンカ爲メナ
リ(第一一九條)尙舊商法ニ照スルニ株式會社ニ於テ發起人ノ數ニ制限アリ
發起人ハ定款ヲ作リ之ニ重要事項ヲ記載シ署名セザルヘカラス定款ニ記載ス
ルキ事項ニ絕對ノ事項ト相對ノ事項トアリ絕對ノ事項ハ必ズ定款ニ記載スル
コトヲ要シ之ヲ記載セザリシトキハ定款ハ效力ヲ有セス之ニ反對ノ事項
ハ必ズシモ定款ニ記載スルコトヲ要スルモノニ非ス唯之ヲ記載スルトキハ定
款トシテノ效力ヲ生ス絕對ノ事項ハ商法第二百十條ニ掲ケタリ即チ左ノ如シ

一 目的
二 商號
三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 取締役カ有スヘキ株式ノ數

六 本店及ヒ支店ノ所在地

七 會社カ公告ヲ爲ス方法

八 發起人カ姓名住所

九 發起人カ以上ノ事項中其一ヲ定款ニ記載セザリシトキハ定款ニ無効トシテ之ニ依リテ會社成立スルコトナシト雖モ第五乃至第七ノ事項ハ比較的重要ナル事項ニ非ザルヲ以テ發起人ノ定款ニ記載セザルモ之カ爲テ當然定款ヲ無効トスルコトナク法律ハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ許シタリ此創立總會又ハ株主總會ヲ決議ハ定款ノ變更ニ要スルキ同ノ方法ニ從フコトヲ要ス(第一二一條第一三一條第二項同時設立ノ場合ニハ株主總會ニ於テ補足シ漸次設立ノ場合ニハ創立總會ニ於テ補足スルキ同ノ方法ニ從フコトヲ要ス)會社カ公告ヲ爲ス方法カ登記以テ絕對ノ事項ニ屬スルカ故ニ此ニ對シテ事項ハ登記申請前ニ於テ補足スルコトヲ要ス此等ノ手續ニ依リ補足ヲ爲サザリ

マトキ定款ニ無効トシテ會社成立セヨ(第一二〇條第一二一條)又ハ定款ニ記載スル相對應事項中第二百二十二條ニ掲ケタル即チ左ノ如シキ限リハ會社存立時期又ハ解散ノ事由トスルモノハ會社存立後ノ事項トシテ出資ノ自體出二ノ株式ノ額面以上ノ發行額由チ之ニ對シテ會社存立後ノ事項トシテ出資ノ自體三ノ發起人カ受テハ特別ノ利益及ビ之ヲ受テハキ者ノ姓名ハ額面以上ノ四ノ金額以外ハ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ姓名其財産ノ種類價格及ビ之ニ對シテ與スル株式ノ數 株式ノ種類 株式ノ種類ニ對シテ五ノ會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用及ビ發起人カ受テハキ報酬ノ額 存立時期及ビ解散ノ事由ハ必ズ之ヲ定ムルコトヲ要スルモノニ非ザルモノ之ヲ定ムルコトヲ要ス定款ニ記載セザルモノハ必要アリ株式ノ額面以下ノ價額ヲ以テ發行スルコトヲ許テス第一二八條第一項株式會社ハ資本團體ニシテ會社ノ資本ハ會社ノ事業ト密接ノ關係ヲ有ス然レモ株式ノ額面以下ニテ發行スルコトヲ許テトキモ總額ノ現實ノ額ヲ資本ノ總額ニ滿タズシテ事業ヲ經營スル備ヘナラズモカタク之ヲ爲シ會社債權者ノ利益ヲ害スル虞アリ之ニ反シ額面以上

ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル所ナリ。然レモ總額ハ資本ノ總額ニ超過スルコトモ
 其超過スル部分ニ之ヲ設立準備金ト爲スコトヲ得ヘタ。且會社債權者ニ對シ
 之カ爲メ何等ノ危害ヲ及ボスコトナシ故ニ株式ノ額面以上ノ發行ノ之ヲ許ス
 ル弊害ナシ唯之ヲ定メタルトキ則テ定款ニ記載スルコトヲ要ス。發起人ハ會社
 設立ニ付テ功勞アリ。若シテ故ニ發起人ニ特別ノ利益ヲ與フルコトハ實際ニ於
 テ廣ク行ハル所ナリ。然レトモ之カ爲メ不當ノ利益ヲ貪リ種種ノ弊害ヲ生ス
 ルコト實際ニ免レナシ。是ヲ以テ法律ハ發起人ニ特別ノ利益ヲ與ヘント
 欲スルトキハ其利益ノ種類及ヒ其利益ヲ受クヘキ者ノ氏名ヲ定款ニ記載スヘ
 キコトヲ命ジ以テ之ヲ生スル弊害ヲ預防スル方法ヲ講ゼリ。株式會社ノ職
 員ハ金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲スル普通ノ人ト雖モ金錢以外ノ財産ヲ以テ
 出資ノ目的ト爲スル則テ其理由ナシ唯株式會社ハ株式ヲ以テ基礎トシ株主
 ノ權利義務ハ株式ヲ以テ標準トスルカ故ニ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的
 ト爲ス者アルトモ其者有テモ株式ノ數ヲ明カニ定ムル必要アリ。然レト
 モ其出資ニ對シ然過分ハ株式ヲ與フルコトモ他ノ株主ノ利益ヲ害スルノミナ

ラス資本ト其實額トノ間ニ差異ヲ生シ債權者ノ利益ヲ害スルニ至ル是レ法律
 カ其出資ノ目的タル財産ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ定メ定
 款ニ記載スヘキコトヲ命ジタル所以ナリ。設立ニ要シタル費用ハ會社ヲシテ負
 担セシムル所トシテ特ニ發起人ノ功勞ニ對シ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得。然レ
 トモ此設立費用及ヒ報酬ニ關シ發起人ハ不當ニ多額ノ費用又ハ報酬ヲ要求ス
 ル弊害アリ。故ニ豫メ設立費用及ヒ報酬ノ額ヲ定メテ之ヲ定款ニ記載セシメ以
 テ其弊害ヲ防止セラルヘカラス以上ニ説明シタル發起人カ受クヘキ特別ノ利
 益金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ受クヘキ株式ノ數設立費用及
 ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額ヲ定款ニ記載セシムルコトモ會社ノ設立ニ
 伴フ弊害ヲ預防スル所トシテ得ル所以ナリ。モハ株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ
 株式申込證ニ依リテ此等ノ事項ヲ知ルコトヲ得ルヲ以テ若シ其不當ナル弊
 見スルトキハ申込ヲ爲サタルコトヲ得ルヘタ。又既ニ申込ヲ爲シタル後ニ於テモ
 創立總會ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得ルカ故ナリ。第二二六條第三五條
 定款ノ作成ニ關シテ一章スヘキモノアリ。合資會社及ヒ合資會社ハ定款ノ作成

ニ因リテ直チニ成立スルニ株式會社ハ定款ヲ作成スルニ由リテ成立スルニ
 トナシ是レ如何ナル理由ニ依ルモノナルカ惟フニ合名會社及ヒ合資會社ニ在
 リテハ會社ノ存在ニ必要ナル條件即チ會社ノ目的商號社員ノ氏名住所營業所
 社員ノ出資ハ定款ニ依リテ一定シ他ニ之ニ加フヘキモノナシ是レ此ニ會社
 定款ノ作成ニ因リテ直チニ成立スル所以ナリ之ニ反シ株式會社ニ在リテハ定
 款ヲ作成スルヲミニテハ未タ會社ノ存立要件完備セヌ何ゾヤ社員ノ一定セテ
 ルコト是ナリ會社ハ社團ナルカ故ニ其成立ニハ社員ノ確定スルコトヲ要ス株
 式會社ノ社員ハ株式ノ引受ニ依リテ定マル是レ株式會社カ定款作成ノ外株式
 ノ引受ヲ要スル所以ナリ漸次設立ノ場合ニ於テ此ニ要件ノ外ニ尙ホ創立總會
 ノ決議ヲ必要トスルハ發起人ノ行爲ヲ監督シ且會社ノ基礎ヲ鞏固ニスル實際
 上ノ理由ニ出ツルモノナリ其決議ハ理論上株式會社ノ成立ニ必要ナルモノ
 非ス

其出資ノ
 第二節 同時設立

其出資ノ
 同時設立

株式會社ハ多額ノ資本ヲ有シ其社員モ亦多數ナルヲ普通トス隨テ發起人ハ株
 式ノ總數ヲ引受ケ發起人ノミニテ會社ヲ組織スルコトハ多ク見サル所ナレト
 モ發起人ノ數多ク且資産ニ富ムトキハ他人ノ力ヲ藉ルコトヲ要セスシテ自ラ
 株式ノ總數ヲ引受ケ會社ヲ組織スルコトアリ斯ル場合ニ其株式ノ引受ト同時
 ニ會社ヲシテ成立セシムルコト至當ナリ舊商法ハ明カニ此同時設立ヲ認メテ
 ラント雖モ新商法ハ第二百二十三條ニ於テ明カニ之ヲ認メタリ此場合ニ會社カ
 外部ニ對シ其設立ヲ主張シ得ルニ至ルマテニ爲スヘキ手續左ノ如シ

- 一 株式總數ノ引受
- 二 取締役及ヒ監査役ノ選任
- 三 第一回ノ株金ノ拂込
- 四 検査役ノ選任及ヒ其報告
- 五 登記

第一 株式總數ノ引受

株式ノ引受ハ株式會社ノ株主ト爲ラントスル者ノ所爲ニ因テテ成立ス株式ノ

引受ヲ目的トスル行為ハ將來成立セントスル會社ノ株主ト爲ルモノトテ開始ト
 スル意思表示ニシテ一ノ法律行為ナリ何トナレハ株式ヲ引受ケタル者ハ會社
 ノ設立ニ關シ種種ノ權利義務ヲ有シ會社成立シタルトキハ其株主ト爲ルコト
 ヲ得ルカ故ナリ此行為ハ契約ナルカ將タ單獨行為ナルカ予置ノ解スル所ニ依
 レハ株式引受行為ハ契約ナリ爰ニハ唯同時設立ノ場合ニ於ケル株式ノ引受ニ
 付テ論スヘシ抑モ株式會社ノ設立ニハ同時設立及ヒ漸次設立ノ二方法アリテ
 二者ノ相違ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケルト否トニ因リテ生ス發起人カ株
 式ノ總數ヲ引受ケルニ當リテハ各發起人ノ引受タル株式ノ數ニ付テモ亦發起
 人相互間ニ合意アルコトヲ要ス然ラザレハ株式總數ノ引受ナルモノ成立セザ
 ルヘシ故ニ各發起人ノ株式ノ引受ハ發起人相互間ノ契約ニ因リテ成立シ其引
 受行為ハ一ノ契約ナラズニ各發起人ノ引受タル株式ノ總數ノ引受ニ因リテ
 發起人ノ株式引受行為ハ法律上何等ノ方式ヲ要セズ故ニ書面ヲ以テスルモ又
 口頭ヲ以テスルモ可ナリ漸次設立ノ場合ニ於ケル株式申込人カ株式申込證ニ
 依リテ株式ノ申込ヲ爲ストハ大ニ異ナレリ又發起人カ株式ヲ引受タル時期ニ

付テモ制限ナシ故ニ定款ノ作成ト同時ニ之ヲ爲スモ將タ其以後ニ之ヲ爲スモ
 可ナリ
 同時設立ノ場合ニ於ケル株式引受ノ效力ハ之ヲ全體ノ上ヨリ觀ルトキハ會社
 ノ成立セシメ之ヲ各箇ノ株式引受ニ付テ觀ルトキハ引受人ヲシテ株主タル責
 格ヲ取得セシム
 第二 取締役及ヒ監査役ノ選任
 發起人ハ會社ノ設立ニ必要ナル準備行為ヲ爲スモノニシテ會社ノ業務ヲ執行
 スルモノニ非ス故ニ一旦會社成立スル以上ハ會社ノ爲メ業務ヲ執行スル者ヲ
 選任セザルヘカラス是レ法律カ發起人ヲシテ取締役及ヒ監査役ノ選任ヲ爲サ
 シムル所以ナリ其選任ハ發起人ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス爰ニ發起人
 ノ議決權ノ過半数ト言フハ發起人ニシテ會社ノ成立ニ因リテ株主ト爲リタル者
 ノ議決權ノ過半数ト解釋スルヲ正當トス此取締役及ヒ監査役ハ發起人即チ株
 主中ヨリ選任セラルヘキモノナリ商法第百六十四條第百六十五條第百六十六
 條第百八十條及ヒ第百八十九條ハ此場合ニ適用セラレ唯茲ニ注意スヘキコト

ハ商法第六十四條第六十一條第一項ニ依リハ株主總會ニテ取締役ヲ選任
 スルニハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スヘキモノナレドモ
 第二百二十三條ノ場合ニ取締役ヲ選任スルニハ株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之
 ヲ決シ株主ノ出席シタルト否トヲ問ハサルコト是ナリ
 第三 第一回ノ株金ヲ拂込ムル人ノ義務
 發起人ハ總株式ノ引受ニ因リテ會社成立シタルトキ遲滞ナク株金ノ四分の一
 以下ヲ第一回ノ拂込ヲ爲スコトヲ要ス株金ノ全額ヲ一時ニ拂込ムコトハ
 固ヨリ自由ニシテ其場合ニ於テハ株金ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得然レドモ
 數回ニ分テ株金ヲ拂込ムコト普通ニ行ハル而シテ第一回ニ拂込ムヘキ金額モ
 亦自由ニ定ムルコトヲ得レトモ其額ハ株金ノ四分の一以下ナルコトヲ得ス其理
 由ハ之ニ依リ會社ヲシテ營業ニ着手スル資金ヲ得セシメ且將來ニ於ケル株金
 ノ拂込ヲ確實ナラシメントスルニ在リ第一二三條此拂込ハ何人モ對シテ爲ス
 ヘキモノナルカ會社ハ株式總數ノ引受ニ因リテ成立シ發起人ハ其任務ヲ終了
 シタルモノニシテ當然會社ノ業務ヲ執行スルコト能ハズ故ニ此拂

込ハ發起人ニ對シテ爲スヘキモノニ非サルコト論ヲ披タス會社ノ業務ヲ執行
 スル者ハ取締役ナリ故ニ此拂込モ亦取締役ニ對シテ爲スルニ非ズ
 ハナルヘカラス株主ト爲リタル者カ拂込ヲ怠リタルトキ取締役ハ訴ノ方法ニ
 依リ強制履行ヲ爲シタルコトヲ得ルハ論ヲ披タス其他商法第五百十二條第
 百五十三條ノ規定ニ從ヒ拂込ヲ爲シタルコトヲ得ヘシ第一二四條第六十二
 第四條 検査役ノ選任及ヒ其報告
 取締役ハ其選任後遲滞ナク第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及
 ビ第一回ノ拂込ヲ爲シタルキ否ヤヲ調査セシムルカ爲メニ検査役ヲ選任ヲ裁
 判所ニ請求スルコトヲ要ス裁判所ハ検査役ノ報告ヲ聽キ此等ノ事項ヲ不當ト
 認メタルトキハ第二百三十五條ニ準シ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得是レ第二百二十
 四條ノ規定スル所ナリ夫レ發起人カ會社ヲ設立ニ際シ不正ノ利益ヲ貪ル弊害
 アルコトハ前述セルカ如シ法律ハ此弊害ヲ矯正スルカ爲メ第二百二十二條ノ規
 定ヲ爲シ且創立總會ニ關スル規定ヲ爲シタリト雖モ創立總會ハ漸次設立ニ付
 タノミ存在シ同時設立ニハ創立總會ナルモノナキカ故ニ他ニ適當ノ監督方法

ヲ設ケテアルトキハ發起ニ伴ヒテ生スル弊害ヲ杜絶スルコト能ハス是ニ於テカ
 法律ハ取締役ニ命ジテハ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ以テシ裁判
 所ニ與フルニ検査役ノ報告ヲ聽キ相當ノ處分ヲ爲スヘキ職權ヲ以テシテハ檢
 査役ノ選任ハ本店所在地ノ區裁判所之ヲ管轄ス裁判所ハ固ヨリ發起人以外ノ
 者ニ付テ検査役ヲ選任スルコトヲ得ルノミカラス検査ノ目的ヲ達スルコトハ發
 起人以外ノ者ヲ選任スルヲ相當トス検査役ハ書面ヲ以テ報告ヲ爲シ検査ニ付
 テ説明ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ検査役ヲ訊問スルコトヲ得裁判所ハ相當
 ノ處分ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ爲スコトヲ要シ其決定ヲ爲ス前
 取締役及ヒ發起人ノ陳述ヲ聽カサルヘカラス發起人又ハ取締役カ検査役ノ檢
 査ヲ妨ケタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラルル(第一二四條第二六二
 條第三號非訟事件手續法第一二六條乃至第一二九條其商法會社ノ百五十二條
 第五 登記 大正十一年四月九日法律第二十號) 検査役ハ其終了ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及
 ヒ支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス其登記スベキ事項ハ第百

四十一條ニ規定セラル第五十一條第二項第三項第五十二條及ヒ第五十三條ノ
 規定ハ株式會社ニ準用セラル株式會社ノ設立ノ登記ハ左ノ效果ヲ生ス申込書
 第一ノ第三者ニ對シテ會社ノ設立ヲ對抗スルコトヲ得第四五條 申込書 以テ對立
 第二商開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得(第四六條) 申込書 以テ對立
 三 登記後六箇月内ニ開業セザルヘカラス(第六七條) 其責備 對立申込書
 四 該株券ヲ發行ヲ爲スコトヲ得(第一四七條) 其責備 對立申込書
 五 八株式ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得(第一四九條) 其責備 對立申込書

第三節 漸次設立

發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ其引受ナキ株式ニ付キ株主ヲ募集ス
 ルコトヲ要ス發起人ハ株式ノ總數ヲ引受タル義務ナキモ少クトモ一株ノ引受
 ヲ爲ス義務アルコト明カナリ商法ハ株主ヲ募集スルニ付キ目論見書ヲ公告
 シ假定款ヲ展開セシメ以テ應募者ヲシテ會社ノ内幕ヲ知ラシメテ命ジ
 タレドモ新商法ハ此點ニ關シ何等ノ規定ヲ爲サズ故ニ發起人ハ適當期間

ムル所ノ方法ニ依リ株主ヲ募集スルニシテ得新次設立於テ會社カ第三者無
 對シテ其設立ヲ主張スルコトヲ得ルニ由リテ其手續左ノ如キ也
 一 株主ノ募集ニ關シテ其商法ハ株主ヲ募集スルニ付テ其商法ニ依リ
 二 株主ノ第一回ノ拂込ニ關シテ其商法ハ株主ノ第一回ノ拂込ニ依リ
 三 創立總會ノ招集及ビ其議決ニ關シテ其商法ハ株主ノ第一回ノ拂込ニ依リ
 四 登記ニ關シテ其商法ハ株主ノ第一回ノ拂込ニ依リ

發起人カ爲ス所ニ株式ノ引受ニ付テハ前節ニ說明シタル所ヲ參照セハ明カナ
 リ發起人ノ募集ニ關シテ株主ト爲ラン利欲スル者ハ株式ノ申込ヲ爲ササルヘ
 カラス此株式ノ申込ハ必ス書面ヲ以テスルコトヲ要ス其書面ヲ株式申込證ト
 稱ス商法第百二十六條ノ規定ニ依ルトキハ株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株
 式申込證ニ連ニ其引受タル株式ノ數ヲ記載シ且額面以上ノ價格ヲ以テ株式
 ノ發行スル場合ニハ其引受價格ヲ記載シ之ヲ署名セテ左ノ事項ヲ株式申込證
 ハ發起人之ヲ作リ左ノ事項ヲ記載ス二項三項五十二條及五十三條ノ

一 規定款作成ノ年月日申込ニ付テハ其商法ニ依リ
 二 第百二十條及ビ第百二十二條ニ據ケタル事項ニ關シテ其商法ニ依リ
 三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數ニ關シテ其商法ニ依リ
 四 第一回拂込ノ金額ニ關シテ其商法ニ依リ
 株式ノ申込ニ付キ株式申込證ヲ必要トシタル立法上ノ理由ヲ案スルニ發起人
 カ會社ノ設立ニ際シ種種ノ不當ナル利益ヲ貪ル弊害アルコトハ屢々陳ヘタル
 所ニシテ發起人ノ虛偽ノ陳述ヲ信シ其欺騙ニ應ジ株式ノ申込ヲ爲ス者少カラ
 ス此弊害ヲ防キ株式申込人ノ利益ヲ保護スルニハ舊商法ノ如ク目録見書又公
 告ニ定款ヲ展閱セシムルヲ以テ足レトモ株式申込人ヲシテ一定ノ書面ニ
 依リ申込ヲ爲サシメ其書面ニ會社ノ設立ニ關スル重要ナル事項ヲ記載セシム
 ルトキハ會社ノ内容ヲ知ラスシテ株式ノ申込ヲ爲ス者ナキニ至リ得テ立後ノ
 精神ヲ違スルコトヲ得ルニ新商法カ獨逸商法ノ主義ニ依リ株式申込證ノ制度
 ヲ採用シタル所以ナリ第一二五條第一二六條ニ據テ其商法ニ依リ
 株式申込人ハ株式申込證ニ連ニ以テ申込ヲ爲ス其商法ニ依リ

爲シタルトキハ其效力如何予證ハ法文ノ解釋上其申込ハ無効ナリト信ス法條
 カニ通テ要スト定メタル理由ハ惟フニ一通ハ會社ニ保存シ一通ハ設立登記ヲ
 申請スルニ當リ申請書ニ添附スル必要ナル故ナルベシ(非訟事件手續法第一
 八七條)發起人ハ株式申込證ヲ作ラズ交ハ之ニ記載スルキ事項ヲ記載セズ又ハ
 不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ(第二六一
 條第六號)

株式ヲ引受ケントスル者ハ株式申込ハ如何ナル性質ヲ有スル意思表示ナルカ
 是レ頗ル議論アル問題ナリ予證ノ解スル所ニ依レハ株式ノ申込ハ時トシテハ
 契約ノ要素タル申込タルコトアリ又承諾ナルコトアリ最モ多ク場合ニ於テ
 ハ發起人カ株主ヲ募集スルカ爲メニ爲ス所ノ行爲ハ申込ノ誘引ニシテ株式申
 込證ヲ以テスル意思表示ハ一ノ契約ノ申込ナリ故ニ發起人カ其申込ニ對シ承
 諾ヲ爲スニ非テハ契約ハ成立セズ然レトモ時トシテ發起人ハ或特定ノ人ニ
 對シ株式ノ引受ヲ爲サントラ申込エトテリ斯ル場合ニ於テハ株式申込人
 ノ意思表示ハ此發起人ノ申込ニ對スル承諾ニシテ契約ハ之ニ依リテ直チニ成

立スルコトヲ得要スルニ株式申込證ヲ以テスル意思表示ハ常ニ契約ノ申込ナ
 リト謂フヲ得ス株式申込人ノ意思表示ハ發起人ニ對スルモノナルコト前段ノ
 説明ニ依リテ明カナリ故ニ株式ノ引受ニ關スル契約ハ發起人ト株式申込人ト
 ノ間ニ成立シ其時期ハ一方ノ申込ニ對スル他方ノ承諾アリタル時ニ在リ然ル
 ニ學者或ハ其成立時期ヲ以テ設立總會終結ノ時ニ在リト爲ス者アレトモ予證
 ハ株式ノ引受カ確定シ然ル後創立總會ヲ召集スヘキモノト信ス此契約ヨリ生
 スル效果左ノ如シ

一 株式引受人ハ發起人ニ對シ第一同ノ拂込ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ

二 發起人ハ株式引受人ニ對シ會社ノ設立ニ必要ナル手續ヲ爲スヘキ義務
 ヲ負フ

株式ノ引受ハ將ニ成立セントスル會社ノ株式ヲ取得シ其株主ト爲ルコトヲ目
 的トスル意思表示ナルコトハ既ニ前節ニ説明シタル所ナリ故ニ株式引受人カ
 前ニ述ヘタル契約ニ依リテ發起人ニ對シテ負フ所ノ義務ハ一ニ解除條件附義
 務ナリ即チ會社カ成立スルニ至ラズシテ止ミタルトキハ當然解除セラレ

株式ノ引受ハ一ノ契約ナリ故ニ民法ノ原則ニ從ヒ或ハ當然無効ナルコトアル
 べク或ハ又取消ナルコトアルヘシ然レトモ株式引受人カ詐欺又ハ強迫ヲ原
 因トシテ株式ノ申込ヲ取消スコトハ會社カ設立登記ヲ爲シタル以後ハ於之
 ヲ爲スコトヲ得ス(第一四二條)蓋シ株式引受カ確定シテモ其設立登記ヲ爲ス
 至ルマテハ多クノ日月アリテ詐欺又ハ強迫ニ因リ株式ヲ引受ケタル者ハ其間
 ニ從ニ申込ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス登記ニ依リテ會社ノ成立ヲ外
 部ニ發表シタル後或者カ株式ノ申込ヲ取消シタルカ爲メ會社ノ設立ニ影響ヲ
 及ボサシムルコトハ實際上甚タ不便ナリ是レ商法第百四十二條カ特別ノ規定
 ヲ爲シタル所以ナリ詐欺又ハ強迫ニ非サル他ノ原因ニ因リテ株式ノ申込ヲ取
 消シ得ルハ論ヲ俟タズ(第一四三條)蓋シ商法第百四十二條カ特別ノ規定
 株式ノ申込ニ關シ商法第百四十條ハ二箇ノ特別ナル規定ヲ爲セリ即チ株式申
 込人ハ左ノ二場合ニ於テ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ヲ返還ヲ請求スルコ
 トヲ得(第一四四條)即チ申込人ノ請求ニ依リテ該人ニ該金額ニ付テハ返還ノ
 立ニ株式總數ノ引受アリタル後一年內ニ第百二十九條ノ拂込終リタルトキ

申二人其拂込カ終リタル後六箇月內ニ發起人カ創立總會ヲ召集セザルトキ
 抑モ株式ノ申込ヲ爲ス者ハ實邊ヲ會社事業ニ被下シ其利權ヲ圖ラントスルヲ
 目的トシ然ルニ前記二箇ノ場合ニ於テハ會社ノ成立スヘキ時期不確定ニシテ
 株式ヲ引受ケタル者ハ其間空シク資本ヲ發起人ノ手ニ委テ何等ノ利益ヲ得ル
 所ナシ是レ株式引受人ノ本旨ニ非ザルノミナラス長ク之ヲ抛擲スルトキハ會
 社ノ成立ヲ危クスルノ虞アリ故ニ此ノ如キ場合ニ株式引受人ヲシテ株式ノ申
 込ヲ取消スコトヲ許スハ一方ニ於テ株式引受人ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル
 ノミナラス他方ニ於テ發起人ヲ警勵シテ設立ニ關スル事務ヲ進捗セシムルノ
 利益アリ株式引受人ハ會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後ニ於テ第百四十條ノ規
 定ニ從ヒ其申込ヲ取消シ株金ヲ返還ヲ請求スルコトヲ得ルヤ是レ一ノ問題カ
 ナリ單ハ第百四十條ノ精神ニシテ前述ノ如シトセハ會社ハ登記後直チニ開業
 ノ準備ニ着手スルコトヲ得ルカ故ニ登記後株式引受人ヲシテ申込ノ取消ヲ爲
 スコトヲ得セシムル理由ナキモノト信ス(第一四四條)蓋シ商法第百四十條ノ
 以上ハ株式ノ引受アリタル前提シテ商法ノ規定ヲ說明シタルモノナ

ヲ然ルニ世上或ハ株式ノ申込ヲ以テ一ノ單獨行為ナリトシ各株式申込人ハ發起人ノ承諾ヲ要セスシテ其引受タヘキ株式ノ數ニ應ジ株金ノ拂込ヲ爲ス義務アリト論スル者アレトモ予輩ハ此說ニ贊成スル能ハス株式申込人ハ其引受タヘキ株式ノ數ニ應ジ拂込ヲ爲ス義務アリト雖モ其株式ノ數ハ如何ニシテ定マルカ各株式申込人ハ株式申込證ニ其引受タヘキ株式ノ數ヲ記載スト雖モ其記載セラレタル株式ノ總數ハ必スシモ定款ニ定ムル所ノ株式ノ總數ニ該當スルモノニ非ス故ニ株式ノ引受カ確定スルハ發起人カ各株式申込人ノ有スヘキ株式ノ數ヲ定メタルトキニ在リテ株式申込人ハ其定マリタル株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲スヘキモノナリト謂ハサルヘカラス是レ予輩カ株式ノ引受ハ株式申込人ト發起人トノ間ノ契約ニシテ株式ノ申込ノミニ因リ法律上ノ效果ヲ生スルモノニ非スト論スル所以ナリ

其次ハ發起人ハ其株式ノ總數ノ引受ノ義務ヲ負フ事第一同ノ株金ノ拂込ニ關シテ發起人ハ其株式ノ總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ連滞ナク株式申込人ヲシテ各株式ニ付キ第一同ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス第一同ノ拂

込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス其拂込ヲ爲サシムル理由ハ同時設立ニ付テ説明シタルト同一ナルカ故ニ厚ニ責キス若シ額面以上ノ金額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一同ノ拂込ト同時ニ拂込マシムルコトヲ要ス株式引受人カ第一同ノ拂込ヲ爲サナルトキハ發起人ハ第二同間ヲ下ラサル期間ヲ定メ其期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲サナルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ株式引受人ニ通知スルコトヲ得株式引受人カ此通知ヲ受ケタルニ拘ハラズ尙ホ拂込ヲ爲サナルトキハ其權利ヲ失フ之ニ因リテ發起人ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ賠償ノ責任アリ株式引受人カ拂込ヲ爲サナル爲メ其權利ヲ失ヒタル場合ニハ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得然レトモ發起人ハ第百三十條ノ規定ニ依リ株式引受人ニ拂込ヲ強制スルコトヲ得然レトモ發起人ハ第百三十條ノ規定ニ依リ之ヲ強制シ或ハ自ら其株金ノ拂込ヲ爲シ又ハ株式引受人ヲ失ヒタル株式ヲ自ら引受タルコトヲ得第一二八條第一二九條第一三〇條第一三六條第百二十九條及ヒ第百三十條ノ規定ハ株式引受人ニ關スルモノナリ然レトモ株式

引受人ノモト第 一 同ノ拂込ヲ爲シ被控人ハ其拂込ヲ爲テナルモ可ナリトテ
 由ナキカ故ニ發起人モ亦第百二十九條ノ規定ニ從ヒ第一同ノ拂込ヲ爲スル
 モノナリトシテ同ハナルハカテ然ラハ發起人ハ何人ニ對シテ拂込ヲ爲スル
 之ニ關スル明文ナレド應ニ發起人相互ニ拂込ヲ爲スルモノナリトテ解釋ス
 ノ外ナレシテ發起人中或者カ拂込ヲ怠リタルトモ他ノ發起人ハ第百三十條
 ノ規定ニ從ヒ之ヲ強制スルコトヲ得ル事爭ハズ第百三十條ノ文同ニ敷シ同條
 ニ株式引受人ノ拂込ヲ強制スル規定ニシテ發起人ニハ適用ナキ故ニ信ス故
 ニ此場合ニ同ノ訴ノ方法ニ依リテ強制シ若シ他ノ發起人カ之ニ代リテ自ら拂
 込ヲ爲スノ外ナレシテ同ノ訴ノ方法ニ依リテ先住人ニ強制スルモノトモ
 第 一 同ノ拂込ノ金額ハ何時會社ノ財産ニ歸スルカ此點ニ付テモ何等ノ明文ナ
 シ財團法人ニ關シテハ民法第四百一十二條ノ規定ニ從ヒ同會社ノ財團法人ナルカ
 故ニ此規定ヲ以テ解釋スルヲ得ル事應ニ株式引受人ノ效果トシテ株式引受人
 發起人ニ對シ第三同ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ事トシテ說明シ得ル故ニ發起人ハ
 其權利トシテ株式引受人ニ對シ第三同ノ拂込ヲ爲セシムルコトヲ得ルレドモ

發起人ハ唯將來成立スベキ會社ノ爲メニ金額ヲ徴收スル權利ヲ有スル事トシ
 リ其金額ヲ自己ノ財産ト爲スル得ベキ其金額ハ會社ノ發展ニ裨益スルモノトシ
 シテ決シテ發起人自身ノ財産ニ入ルベキモノトシテ其法律上ノ位置應ニ家督相
 續ニ付キ胎兒ノ爲メニ相続財産ヲ管理スルカ如シ其金額ハ會社ノ成立スルニ
 至リタルトキ直チニ會社ノ有ニ歸スルモノトシテ同ノ義務トシテ之ヲ負
 第三 創立總會ノ召集及ヒ其決議 發起人ハ連帶シテ創立總會ヲ召集ス
 各株ニ付キ第一同ノ拂込アリ然レトキハ發起人ハ連帶シテ創立總會ヲ召集ス
 ルコトヲ要ス創立總會ニ關スル規定ニ據テ發起人ノ監督トシテ其利益ヲ貪ルコト
 ノ防キ會社ノ設立ニ際シテ起ルベキ種種ノ弊害ヲ矯正シ會社ヲ基礎ニ確立ス
 ルヲ以テ其目的トシ創立總會ハ株式引受人ノ半數以上ニシテ其資本ノ半額以上
 ヲ引受ケタル者出席スルニ因リテ成立ス創立總會召集ノ方法株式引受人ノ議
 決權決議ノ無効宣告等ニ付テハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用セザル故ニ後ニ
 述フル株主總會ニ關スル說明ヲ參照スヘシ創立總會ノ決議ノ方法第百三十
 一條ニ規定アリ即チ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタ

者出席シ其議決權ヲ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲スハ半數出席モ得ルニシテ
 創立總會ニ於テ爲スヘキ事項ハ大別シテ二ニシテ一ハ會社ヲ設立ニ
 關シ報告ヲ聽クコト他ハ決議ヲ爲スコト是ナリ以下項ヲ分チテ説明スヘシ
 第一 報告ヲ聽クコトハ(イ)發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ報告ス(第一三二條) (ロ)
 (イ) 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ報告ス(第一三二條) (ロ)
 (ロ) 取締役及ヒ監査役ハ(一)株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ(二)各株ニ付キ第百
 二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ(三)第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタ
 ル事項ノ正當ナルヤ否ヤヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告ス(第一三四條第一項)
 取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特
 ニ検査役ヲ選任シ其者ニ代リテ以上ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得
 (第一三四條第二項) (イ) 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ報告ス(第一三二條) (ロ)
 發起人、取締役又ハ監査役カ創立總會ニ對シ不實ヲ申立ラザルシ又ハ事實ヲ隱蔽
 シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ(發起人カ調査ヲ妨ケタルト
 キハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ)(第二六二條第二項、第二六一條第四號)

第二 決議ヲ爲スコト

(イ) 創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス(第一三三條)
 發起人ハ會社設立ノ事務ヲ掌ルモノニシテ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル
 モノニ非ス創立總會ノ終結ニ因リ會社成立シタルトキ取締役及ヒ監査役ヲ
 選任セントスルモ之ヲ爲スラ得ス故ニ其成立前ニ於テ其選任ヲ爲サシムル
 コトハ新商法ノ一致スル所ナリ此他創立總會ニ於テ取締役及ヒ監査役ノ
 選任ヲ必要トスル重要ナル理由アリ其理由如何即チ此等ノ者ヲシテ會社ノ
 設立ニ必要ナル行為ノ完全ニ履行セラレタルヤ否ヤ發起人ハ會社ノ設立ニ
 付キ不當ノ利益ヲ貪ルコトナキヤ否ヤヲ調査セシムルコト是ナリ既ニ説明
 セルカ如ク漸次設立ノ場合ニ於テハ發起人ハ其引受ケタル株式ニ付キ株主
 ノ募集スルコトヲ要シ株式總數ヲ引受アリタルトキハ第一同ノ拂込ヲ爲サ
 シムルコトヲ要ス然ルニ時トシテハ發起人ハ募集又ハ損失ニ關シ株式總數
 ノ引受ナク又ハ第一同拂込ヲ未済ナル株式アルニ拘ハラス創立總會ヲ召集
 スルコトアリ此ノ如キハ會社ノ成立ニ障礙ヲ與フルモノナルカ故ニ創立總

會ニ於テ此等ノ事蹟ヲ調査シ缺點アル處ハ之ヲ補充セザルハ是ノ地ニ於テ及
 起人ハ第百二十二條第三號乃至第五號ヲ指シテ其ノ事項ヲ不備ニ爲シ之ヲ
 リテ利益ヲ負フ會社及ヒ他ノ株式引受人ノ利益ヲ害スル事ヲ爲シテ其ノ取引
 爲ス者ノ利益ヲ害スル弊害ヲ力カ故ニ創立總會ニ於テ此等ノ調査ヲ調査シ不
 ト屬スル事ヲ力カ之ヲ修正セザルハカラス而シテ此等ノ事蹟ヲ調査ハ創立
 總會ニ於テ選任シテ取締役及ヒ監査役ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルハ其ノ甚
 當ナリ是レ第百二十三條第百三十四條ノ規定アル所似決及夫會社ノ如ク取
 締役及ヒ監査役ヲ選任シテ第百三十四條第一項所揭事蹟ヲ調査セシムルハ創
 立事務ニ欠缺若クハ不當ノ點アルカ否キヲ明カニスルニ在リ以テ若シ取
 締役又ハ監査役中ニ發起人中ヨリ選任セザル者アリテ其ノ調査ハ調査ノ
 正確公平ヲ保ツ能ハサル虞アリ是レ以テ第百三十四條第二項ハ此ノ如キ場
 合ニハ創立總會ニ於テ特ニ検査役ヲ選任シ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルハ
 之ヲ許シタリ第百三十三條第三四條ニ於テ選任シタル検査役ハ其ノ任期ハ
 創立總會ニ於テ選任スル取締役及ヒ監査役ノ員就任期等ハ何ニ依リテ定

ルヤ抑モ取締役及ヒ監査役ハ株式會社ノ機關ナリ故ニ會社ノ成立前ニ創立
 總會ニ於テ選任シタル者ハ會社ノ成立後株主總會ニ於テ選任スル取締役及
 ヒ監査役ニ非ナルカ如シ然ラド雖モ商法ノ規定上創立總會ノ終結ニ因リテ
 會社成立シタル後取締役及ヒ監査役ノ選任ヲ爲スヘキ規定ナキノミナラズ
 却テ二週間内ニ總テノ取締役及ヒ監査役ヲ設立登記ノ申請ヲ爲サ
 サルヘカラナル規定アリ故ニ創立總會ニ於テ選任スル取締役及ヒ監査役ハ
 會社ノ成立後繼續シテ其職務ヲ執行スルモノト謂ハサルヘカラス換言スレ
 六創立總會ニ於テ選任スル取締役及ヒ監査役ハ將ニ成立セントスル會社ノ
 機關タル取締役及ヒ監査役ナリ隨テ其職務及ヒ任期ハ商法第百六十五條第
 百六十六條第百八十九條ニ依リテ定ムルモノト謂ハサルヘカラス唯第百六十
 四條第百八十九條ニ依リテ取締役及ヒ監査役ハ株主中ヨリ選任スヘキモノ
 ナリ然レド創立總會ニ於テ此等ノ者ヲ選任スルニ當リテハ株式引受人
 者アリトモ未ダ株主ナル者ナキハ故ニ第百六十四條第百八十九條ノ規定
 此場合ニ適用ナシ然レド會社ニ關係ナキ者ノ中ヨリ取締役及ヒ監査役

ヲ選任スルコトハ法律ノ障礙モナル所ナラト解釋ヲ得ルヲ以テ明文ナシト雖モ將來株主ト爲ルヘキ者即チ株式ヲ引受ケタル者ノ中ヨリ選任スヘキモノナリト謂フヲ至當トス此點ニ關シ何等ノ規定ナキハ法律ノ缺點ナラシカレ取補役及ヒ監査役ノ任期ハ何時ヨリ起算スルカ換言シテ其任期ハ選任ノ時ヨリ起算スルカ將タ創立總會ノ終結ニ由リテ會社成立ノ時ヨリ起算スルカ稍々疑アリト雖モ予ハ選任ノ時ヨリ起算スヘキモノナリト解釋セント欲ス蓋商法ニテハ創立總會ニ於テ取補役及ヒ監査役ヲ選任スレトモ此等ノ者ハ設立ノ免許アルマテ何等ノ職務ヲ有セス此免許アリタル時發起人ヨリ事務ノ引渡ヲ受ケ蓋商法第一六五條第一六七條故ニ蓋商法ニ於テハ取補役及ヒ監査役ノ任期ハ會社カ設立ノ免許ニ由リテ成立シタル時ヨリ起算スヘキモノナリト解スルヲ至當トス之ニ反シ新商法ニ於テハ創立總會ニ於テ選任シタル取補役及ヒ監査役ハ其資格ニ於テ第百三十四條第一項所掲ノ事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スヘキモノナラズ故ニ會社カ成立ヲ決タシテ其選任ノ時ヨリ其職務ヲ有シ職ヲ其任期開始ノ時ヨリ爲ナラズカ

ヲ要スルハ創立總會ニ於テ選任シタル取補役及ヒ監査役ハ會社カ成立後株主總會ニ於テ選任スル取補役及ヒ監査役ニ比シ其職務廣汎ナルモノトモ第(ロ)定款ノ補足 發起人カ定款ヲ作成スルニ當リ商法第百二十條第五項乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載セザラシトキハ創立總會ニ於テ之ヲ補充スルコトヲ要スルハ既ニ述ベタル所ナリ第一二一條ニ於テ發起人カ定款ノ變更ヲ爲スコトヲ得第一三八條定款ハ發起人ノ作成スル所ニシテ將來成立スヘキ會社カ基本ナル規則ニシテ最モ重要ナルモノナルノミナラズ株式引受人モ其定款ニ賛成シ株式ヲ引受ケタルモノナルカ故ニ創立總會ニ於テ之ヲ變更スルハ開レナキモノト加シ然リト雖モ事情ノ變遷ニ依リ初メ發起人カ定款ヲ作成スルニ當リテハ適當ナリト事項ト雖モ創立總會ノ當時ニ在リテハ不適當ト爲ルコトアリ或ハ之ニ他ノ新シキ事項ヲ定ムルニハ必要ト爲ルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ定款ヲ變更シ及ハ之ヲ補充スルニハ既ニ許サレトキハ會社カ成立後定款變更ノ手續ニ依リテ之ヲ實行セザルヘカ蓋商法故ニ創立總會ニ於テ定款ノ變更ヲ

要スルハ創立總會ニ於テ選任シタル取補役及ヒ監査役ハ會社カ成立後株主總會ニ於テ選任スル取補役及ヒ監査役ニ比シ其職務廣汎ナルモノトモ第(ロ)定款ノ補足 發起人カ定款ヲ作成スルニ當リ商法第百二十條第五項乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載セザラシトキハ創立總會ニ於テ之ヲ補充スルコトヲ要スルハ既ニ述ベタル所ナリ第一二一條ニ於テ發起人カ定款ノ變更ヲ爲スコトヲ得第一三八條定款ハ發起人ノ作成スル所ニシテ將來成立スヘキ會社カ基本ナル規則ニシテ最モ重要ナルモノナルノミナラズ株式引受人モ其定款ニ賛成シ株式ヲ引受ケタルモノナルカ故ニ創立總會ニ於テ之ヲ變更スルハ開レナキモノト加シ然リト雖モ事情ノ變遷ニ依リ初メ發起人カ定款ヲ作成スルニ當リテハ適當ナリト事項ト雖モ創立總會ノ當時ニ在リテハ不適當ト爲ルコトアリ或ハ之ニ他ノ新シキ事項ヲ定ムルニハ必要ト爲ルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ定款ヲ變更シ及ハ之ヲ補充スルニハ既ニ許サレトキハ會社カ成立後定款變更ノ手續ニ依リテ之ヲ實行セザルヘカ蓋商法故ニ創立總會ニ於テ定款ノ變更ヲ

許スコト實際ニ於テ便宜トスル所ナリト設立總會ニ規定シテ其ノ變更ノ變更
 定款ノ變更ニ屬スル事項ニシテ法律ニ特別ノ規定ヲ設ケタル者ハ其ノ商
 第百三十五條ノ規定ニ依リテ創立總會ニ於テ第百二十二條第三號乃至第
 五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金銀以
 外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式
 ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金銀ヲ以テ拂込テ爲ズトシテ得金銀以外ノ財
 産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者ハ其出資ニ依リテ定款ニ定メラレタル股
 款ノ株式ヲ取得セシカ爲メ株式ヲ引受ケタル者ナリ然レドモ創立總會ニ於テ
 其取得スヘキ株式ノ數ヲ減セラレタルトキハ當初ノ株式ヲ引受ケタル意思
 ニ反シテ之ヲ強制スル所ナリ是レ法律カ其場合ニ金銀ヲ以テ拂込テ爲スコ
 トヲ許シタル所以ナリ此點ニ關シ或ハ其株式引受人ハ初メ與ヘラレタル株
 式ノ數ニ對シ金銀ヲ以テ拂込テ爲スコトヲ得ル如キ應テラレドモ初メ與
 ヘラレタル株式ノ數ハ定款ノ變更ニ因リテ減少セシムルコトヲ得ル如キ與
 定款ノ變更ナカラシト同シト初メ與ヘラレタル株式ノ數ハ定款ノ變更ニ

外ノ財産ニ換フルニ金銀ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得タルナリ創立會
 會ニ於テ減少セラレタル株式ノ數ニ對シ金銀ヲ以テ拂込テ爲スコトヲ得ル
 釋スルカ如キハ法文上不當ナルノミナラス論理上於テ亦許シヘキ事項
 ニ非ス

(二) 設立ノ廢止 創立總會ニ於テハ設立ヲ廢止ヲ議決スルハ其ノ費第一三
 條是レ舊商法ノ認メタル所ナレトモ事情ノ變遷ニ依リ勸諭有組織ナル會社事
 業モ後ニハ全ク成功ノ望ナキニ至ルコトナシトセス此ノ如キ場合ニ於テ強
 テ之ヲ成立セシメ後日株主總會ヲ決議ヲ以テ之ヲ解散スルカ如キハ實際上
 甚ク迂遠ナリ是レ新商法カ創立總會ニ與フルニ此決議權ヲ以テセル所以ナ
 リ

漸次設立ノ場合ニ於テハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス第一三九條
 第四條登記ノ旨ニ於テハ設立ノ旨ニ於テハ登記ノ旨ニ於テハ登記ノ旨ニ於テハ

會社カ創立總會ノ終結ニ因リテ成立シタルトキハ其終結ノ旨ヲ登記ノ旨ニ
 其本店及支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス其登記スヘキ事

項ハ第四百二十一條ニ掲ゲテ規定シテ、
 株式會社ノ設立ニ關スル規定ヲ説明シ終ルニ至ルモ、
 發起人ハ會社ヲ成立セシムヘキ準備行為ヲ爲スヲ以テ其職務ト爲シ法律ニ依リ左ノ義務ヲ負擔スルキモ、
 一 株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ運漕ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラナル第一回ノ拂込ヲ爲スコト
 二 株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ株主ヲ募集スル時トキハ或ル程度ノ準備金ヲ申込證ヲ作成スルコト
 三 株式ノ引受アリタルトキハ運漕ナク第一回ノ拂込爲シタルトキハ
 四 株式ノ引受アリタルトキハ運漕ナク第一回ノ拂込爲シタルトキハ
 五 第一回ノ拂込アリタルトキハ運漕ナク創立總會ヲ召集スル時トキハ
 六 會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコト
 七 引受ナキ株式アリタルトキハ第一回ノ拂込未済ナル株式ヲ引受ケ株式ノ申込ヲ取消シタルトキハ運漕ナク其株式ヲ引受ケ又ハ其株式ヲ爲スコト

八 創立事務ニ關シ會社ニ對シ損害ヲ與ヘタルトキハ之ヲ賠償スルコト
 法律ヲ發起人ニ此ノ如ク嚴重ナル義務ヲ認メタル所以ハ之ニ因リテ會社ノ設立ヲ確實ナラシメ發起人ノ私慾ヲ防キ設立ニ際シ在スル諸種ノ弊害ヲ杜絶シシトスルニ在リ

第三章 株主ノ權利義務
 第一節 株式

株式ト謂フ語ニハ數多ノ意味アリテ或ハ會社資本ノ一部分ヲ意味シ或ハ株主ノ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル財産上ノ關係ヲ意味スルハ或ハ株主ハ先ツ會社資本ノ一部分ナル株式ニ付テ説明スヘシ
 株式會社ハ資本團體ニシテ株主ハ其資本ヲ組織スル所ノ財産ヲ供出スル義務ヲ負ヒ且會社ノ資本ニ干與スルコトノミニ依リテ社員タルノ資格ヲ取得スルモノナリ故ニ社員ノ一人カ會社ノ資本ニ干與セザル斷リ團體ハ株式會社

非ラント同時ニ社員ノ資本供出ノ義務ノ外他ノ種類ノ義務等セテ負擔スルモノハ未タ株式會社ニ非ラザルナリ
 株主ノ爲スヘキ由實ノ目的ハ金錢ノミニ限ラズ其他ノ財產等以テ該目的ヲ爲スコトヲ得ヘシ其何レノ場合タルヲ問ハズ株主カ會社ノ資本ニ干與スル程度ハ定款ニ依リテ定マレル會社資本ノ單位ニ依リテ定ムルモ此單位ヲ株式ト稱ス商法第百四十三條ニ株式會社ノ資本ハ株式ニ分ツコトヲ得ト云フハ之ニ該當ス
 株式ハ資本ノ單位ヲ爲スモノナルカ故ニ其金額ノ均一ナルコトヲ要ス商法第百四十五條ニ依レハ株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス此ノ如ク法律ノ規定ヲ以テ株式ノ金額ノ最少額ヲ定ムル立法上ノ理由ハ之ニ依リテ株式會社ノ基礎ヲ強固ニシ種種ノ弊害ヲ豫防セントスルニ在リ蓋シ株式ノ金額ヲ定メ少額ナルコトヲ許ストキハ株式會社ノ性質ヲ知ラザル者ノ間ニ轉讓シテ會社ノ基礎ヲ危クシ利益少ク且危險少キカ故ニ株主カ專業ニ熱心ヲ示シテ株式ヲ控制ノ具ニ供スルコトヲ以テナリ立法ノ理由モシテ果シテ此等ノ危險

ヲ避ケ弊害ヲ防クニ在リトセハ之ニ付キ取テ例外ノ規定ヲ設ケルノ必要ナシト雖モ立法者ハ一時ニ株金ノ金額ヲ拂込ムヘキ場合ニ於テハ投機ノ目的ニ之ヲ供スルノ虞尠シト認メ其金額ヲ二十圓ヲ下スコトヲ許シタリ株式ノ額面以上ノ金額ニテ發行スルコトハ法律ノ禁止スル所ニ非ス第一四五條ニ依リテ株主ハ一箇又ハ數箇ノ株式ヲ有スルコトヲ得レドモ一箇ノ株式ヲ分割シテ其一部ヲ有スルコトヲ得タルナリ是ハ株式ハ資本ノ單位ナリト云フコトヨリ生スル當然ノ結果ナリ之ト同一ノ理由ニ依リ數箇ノ株式ヲ併合シテ一箇ノ株式ト爲スコトヲ得ス數箇ノ株式ニ付キ一通ノ株券ヲ發行スルコトハ株式ノ併合ニ非ス又株主ハ第三者ヲシテ自己ノ株式ニ與カラシムルコトハ株式ノ分割ニ非ス此後ノ場合ニ於テ其法律行爲ハ第三者ト株主トノ間ニ債權債務ノ關係ヲ生スルニ止マリ會社ニ對シテ何等ノ效果ヲ生セザルナリ故ニ第三者ハ株主ニ對シテ其得タル利益又ハ會社財產ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得ルモ自ら直接ニ會社ニ對シテ此等ノ權利ヲ行フコトヲ得サルコトトスル以テ是レハ株式會社ノ株式ノ共有ニ付テハ商法中明利ニ之ニ關スル規定ヲ設ケザリト雖モ成ハ

遺產相續ニ因リ或ハ組合契約ニ因リ一箇ノ株式多數人間ニ共有セラレルモト
 アリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ株主ノ權利義務ニ付キ規定ヲ設クルコト極メ
 ナ必要ナリ新商法第百四十六條ハ株式多數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ
 株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス又共有者ハ會社ニ對シ總帶
 シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ下規定セリ
 株式ノ金額ハ増減スルコトヲ得ルヤ株式ノ金額ハ一定スルヲ要ス然レトモ之
 ノ變更スルコトハ絕對的ニ許サズモハ非ス先テ株金ノ増加ニ付テ説明ス
 ルニ當リ株主ノ同意ヲ得ルニ依リテ之ヲ行フコトハ株式ノ金額ノ均一ニ低額セザル
 數額ノ株式ヲ併合シテ一人ノ株式ト爲スコトハ株式ノ金額ノ均一ニ低額セザル
 限リ之ヲ爲スコトヲ得株式ノ金額ハ定款ニ依リテ定マル故ニ株式ノ併合ヲ爲
 スニハ定款變更ノ手續ニ依ラザルヘカラス然ラハ株式ノ併合ニ依ラズシテ株
 式ノ金額ヲ増加スルコトヲ得ルヤ株式ヲ併合シテ株金ヲ増加スル場合ニハ資
 本ノ總額ニ影響ヲ及ボオスト雖モ併合ニ依ラズシテ株金ヲ増加スル場合ニハ
 資本ヲ増加スル結果ト爲ル故ニ後ノ場合ニ於テハ株金ノ増加ハ資本増加ノ友

出資者ノ地位
 出資者ノ地位
 出資者ノ地位
 出資者ノ地位

○商業帳簿ノ證據力
 商人ハ商業帳簿ヲ備ヘ之ニ日ヲ取引其他財産ニ影
 響ヲ及ボスヘキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スヘキハ商法ノ命スル所ナリ
 (商法第二五條乃至第二七條)而シテ其帳簿ハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ十年間之ヲ保
 存セザルヘカラス(同第二八條)若シ之ヲ破産宣告ヲ受ケタル者ハ偽造變造ヲ爲
 セハ詐欺破産ノ刑ニ處セラルヘタ又秩序ナク記載シ或隱シ或減シ又ハ全ク記
 載セザルトキハ過怠破産ノ刑ニ處セラルヘシ破産法第一〇五條第一〇五條
 條此帳簿ハ裁判上證據トシテ如何ナル效力アルカ大審院ハ斷定シテ曰ク法令
 ノ合スル所ニ依リ設備スル商業帳簿ト雖モ裁判所カ證據ニ依リ其記載ニ誤謬
 アルコトヲ認メタル上ハ其記載ノ訂正セラルルト否トニ關セズ證據力ナキモ
 ノトシテ之ヲ排斥スルコトヲ得ヘキハ固ヨリ論ヲ埃タスト(大審院明治三十五
 三十六年六月二日第一民事部判決) 〇清算
 〇清算ト未拂出資ノ取立
 〇清算ト未拂出資ノ取立
 〇清算ト未拂出資ノ取立
 〇清算ト未拂出資ノ取立

終ラナル出資アルトキハ清算人ハ無條件ニ其拂込ヲ請求スルコトヲ得ルカ(商
 法第五四條第七〇條第一號第九一條第二號第一〇五條民法第六六七條、
 第六六九條舊商法第九三條第九五條第一三〇條第一三七條參照此實際問題ハ
 舊商法ノ適用ヲ受クヘキ問題トシテ大審院ノ判斷ニ上リタルモノニシテ大審
 院ハ原審タル大阪控訴院カ會社社員ニ對シ出資金ヲ拂込ヲ求ム所債權ハ會
 社ノ有スル通常債權ト同一視スルコト能ハス左レハ清算人ハ社員ニ對シ其出
 資金ヲ拂込マシメントスルニ當リテハ通常債權ノ取立ヲ爲ス場合ト異ナリ必
 ス清算ノ爲メ必要ナル事由ヲ明示セザルヘカラスト説明シテ破産シテ曰
 ク「原院ノ引用シタル第一審判決事實ヲ摘示並ニ被上告人ハ原院ニ於テ陳述シ
 タル所ニ依レハ被上告人ハ舊商法ニ依ル合資會社社員トシテ辨濟期ニ在ル出
 資義務ヲ有スルコトヲ認メ只上告人ハ殘務ノ整理ヲ爲サザル爲メ其出資ノ支
 拂ヲ爲スヲ要スル場合ナラヤ否未定ナリト理由ヲ以テ請求ニ應ズ其モ
 ナレハ其抗辯ハ清算ノ爲ニスル本訴ノ請求ニ對スルモノトシテ採用スルコト
 能ハザルモノトス何トナレハ社員ノ出資義務ト雖モ會社解散ノ當時既ニ辨濟

期ニ在ルモノハ其清算ニ付テハ純然タル會社ノ債權ニ屬スルカ故ニ清算人ハ
 會社ノ債務ヲ償却スルニ付キ必要ナルヤ否ヲ問ハス先ツ其辨濟期ヲ論ジシム
 キコトハ舊商法第百三十條ニ謂フ未收債權ヲ行用ナルモノニ外ナラザルハナ
 リ(大審院明治三十六年六月十八日第一民事部判決)又他ノ判決ニ曰ク
 「本訴ノ金額ハ新商法施行以前ニ設定シタル直江津物產合資會社未收解散セ
 ナル前ニ於テ上告人カ出資ノ報告ヲ受ケテ拘ハラザル其出資セザリシモノ
 ナルコトハ原判決ニ於テ確定シタル事實ナレハ即チ會社ノ債權ニ外ナラザル
 コト明カナルヲ以テ商法施行法第三十八條ニ依リ舊商法第百三十七條及第
 百三十條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス故ニ清算人カ未收債權ヲ行用スルニ
 當リ現存ノ財産ヲ以テ債務ヲ辨濟スルニ足ラザル事實ヲ其證ス所ノ要キコ
 トハ云云(大審院明治三十六年五月二十三日第一民事部判決)
 ○尙爲替契約ニ於ケル手形ノ性質ハ所謂尙爲替契約ニ於ケル尙爲手形ハ尙
 何ナル性質ヲ有スルカ大審院ハ本問ヲ說明シテ曰ク現存我國ニ行ハル尙爲
 替ト稱スルモノハ尙主カ隔地者ニ對シ物品ヲ送付スル爲メ銀行ヨリ代金

融通ヲ得ル方法トシテ使用スルモ、例ヘバ荷主ハ物品運送人ノ發シタル證券ニシテ其領收ニ要スルモノ(例ヘバ貨物引換證券船荷證券ノ如シ)蓋シ荷爲替手形カ不拂トナルトキハ銀行ハ物品ヲ處分シ代金ヲ以テ辨濟ヲ受ケルコトヲ得ヘキ旨及ヒ其滅失若クハ運送人ノ行爲ニ因リ銀行カ之ヲ處分シテ辨濟ヲ受ケルコト能ハサルニ至ル等ノ場合ニ於テハ辨濟ヲ爲ス責ニ任スル旨ヲ特約セラル證書ヲ爲替手形ニ添ヘテ銀行ニ交付シ銀行カ之ニ依リ其相當ト認ムル金圓ヲ貸出スモノトス故ニ爲替手形ト稱スルモノハ荷主カ荷受人ニ對シ手形受取人タル銀行ノ指圖ニ依リ記載ノ金額ヲ支拂ハシムルコトヲ委託スル爲メニ存シ其手形ニ添附シタル貨物證券及ヒ副證ハ銀行ヲシテ貸出金ノ取立ヲ確實ナラシムル爲メ銀行ニ交付スルコト當事者ノ意思ニシテ爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從テ其受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其趣旨タル手形記載ノ金額ノ取立ヲ委託スルヲ以テ通例トシ權利ヲ移轉ヲ目的トスルモノニ在ラズ(大商院明治三十六年(才)第百六十一號爲替附一列決事第) (一)ハ其附屬ニ付テハ當然カ不付加ハ對面ニ爲メハ並ニ荷受人ノ

融通ヲ得ル方法トシテ使用スルモノニシテ荷主ハ物品運送人ノ發シタル證券ニシテ其領收ニ要スルモノ(例ハ貨物引換證券船荷證券ノ如シ)並ニ荷爲替手形カ不拂トナルトキハ銀行ハ物品ヲ處分シ代金ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨及ヒ其滅失若クハ運送人ノ行爲ニ因リ銀行力之ヲ處分シテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルニ至ル等ノ場合ニ於テハ辨濟ヲ爲ス責ニ任スル旨ヲ特約セル證書ヲ爲替手形ニ添ヘテ銀行ニ交付シ銀行ハ之ニ依リ其相當ト認ムル金圓ヲ貸出スモノトス故ニ爲替手形ト稱スルモノハ荷主カ荷受人ニ對シ手形受取人タル銀行ノ指圖ニ依リ記載ノ金額ヲ支拂ハシムルコトヲ委託スル爲メニ存シ其手形ニ添附シタル貨物證券及ヒ副證ハ銀行ヲシテ貸出金ノ取立ヲ確實ナラシムル爲メ銀行ニ交付スルコト當事者ノ意思ニシテ爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從フテ其受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其趣旨タル手形記載ノ金額ノ取立ヲ委託スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルモノニ在ラズト(大審院明治三十六年才那百六十一號荷爲替附一列民事部)

●學生募集廣告

本校ハ今般文部大臣ノ認可ヲ經テ大學組織ト爲シ校名ヲ政法大學ト改メ諸般ノ改革ヲ施シ校舍ヲ改築セリ詳細ハ學則ニ就テ知ルヘシ

○**専門部入學試験** 亦ハ十月二日午前八時ヨリ施行ス

○**高等研究科** 亦ハ十月新學年授業開始

右入學志願者ハ要書申込ムヘシ、學則入用ノ向ハ二錢郵券ヲ送付スヘシ

○**校外生** 本大學三十七年度講義新學年ノ開始ニ際シ

●講義費ハ之ヲ三學年ニ分テ各學年共來ル十月初號發刊、毎月三回發行額一箇年ヲ以テ完結ス
●月謝金ハ各學年共金五拾錢、但官公衙在職者(證明書ヲ要ス)ハ金四拾五錢、總テ入學金ヲ要セズ
各學年講義科目及ヒ擔任講師其他詳細ハ改正規則ニ就テ知ルヘシ

九 月 司法省指定 立 政法 政 大 學

法律志林

第四十七號 五月十七日發行

志林

○東京裁判所(十二) 法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

解疑

○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

漫評

○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

附錄

○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

發行所 立正法政大學

昭和六年六月十三日

法律志林

第四十七號 五月十七日發行

志林

○東京裁判所(十二) 法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

解疑

○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

漫評

○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

附錄

○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎
 ○東京裁判所ノ混合二種ノ法學博士 藤田天郎

發行所 和佛法律學校

昭和六年六月十三日